

## 資料

### 系列別主要劇場

劇場名	席数	仕様	劇場名	席数	仕様
<b>伝統演劇系列</b>			三越劇場	543	【中】
国立劇場(大)	1,610	【大】	サンシャイン劇場	832	【中】
国立劇場(小)	590	【中】	シアターコクーン	747	【中】
国立文楽劇場	731~753	【中】	PARCO劇場	636	【中】
国立能楽堂	627	【中】	天王洲銀河劇場	746	【中】
国立劇場おきなわ	578~632	【中】	東京グローブ座	595~713	【中】
歌舞伎座	1,808	【大】	スペース・ゼロ	575	【中】
			シアター・ドラマシティ	898	【中】
<b>大劇場演劇系列</b>			<b>現代演劇系列Ⅲ</b>		
新橋演舞場	1,428	【大】	紀伊國屋ホール	418	【小】
明治座	1,368	【大】	紀伊國屋サザンシアター	468	【小】
御園座	1,299	【大】	博品館劇場	381	【小】
京都南座	1,086	【大】	俳優座劇場	300	【小】
大阪松竹座	1,090	【大】	両国シアターX	172~300	【小】
大阪新歌舞伎座	1,453~1,529	【大】	本多劇場	386	【小】
梅田芸術劇場 メインホール	1,905	【大】	ザ・スズナリ	200	【小】
博多座	1,392~1,474	【大】	下北沢駅前劇場	200	【小】
<b>現代演劇系列Ⅰ(国公立系)</b>			OFF・OFFシアター	100	【小】
新国立劇場(中)	1,010~1,038	【大】	下北沢「劇」小劇場	130	【小】
新国立劇場(小)	416~468	【小】	シアター・モリエール	186	【小】
東京芸術劇場 プレイハウス	834	【中】	シアター・サンモール	294	【小】
東京芸術劇場 シアターイースト	286	【小】	こまばアゴラ劇場	60~130	【小】
東京芸術劇場 シアターウエスト	259	【小】	吉祥寺シアター	189	【小】
東京建物Brillia HALL	1,300	【大】	THEATRE E9 KYOTO	89	【小】
世田谷パブリックシアター	600	【中】	近鉄アート館	322	【小】
シアタートラム	240	【小】	<b>ミュージカル演劇系列</b>		
彩の国さいたま芸術劇場(大)	776	【中】	TBS赤坂ACTシアター	1,324	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(小)	346	【小】	日生劇場	1,330	【大】
ピッコロシアター(大)	396	【小】	帝国劇場	1,826	【大】
兵庫県立芸術文化センター(大)	2,141	【大】	東急シアターオーブ	1,972	【大】
兵庫県立芸術文化センター(中)	800	【中】	宝塚大劇場	2,550	【大】
あうるすぽっと	301	【小】	東京宝塚劇場	2,065	【大】
座・高円寺1	238	【小】	宝塚バウホール	526	【中】
座・高円寺2	256~298	【小】	四季劇場「春」	1,255	【大】
神奈川芸術劇場 ホール	1,300	【大】	四季劇場「秋」	907	【大】
まつもと市民芸術館(主)	1,800	【大】	電通四季劇場「海」	1,216	【大】
穂の国とよはし芸術劇場	778	【中】	四季劇場「夏」	1,200	【大】
新潟市民芸術文化会館	868	【中】	自由劇場	500	【中】
ロームシアター(メイン)	2,005	【大】	大阪四季劇場	1,119	【大】
北九州芸術劇場(大)	1,269	【大】	チャンネルシティ劇場	1,144	【大】
<b>現代演劇系列Ⅱ</b>			名古屋四季劇場	約1,200	【大】
京都芸術劇場 春秋座	732~807	【中】	北海道四季劇場	994	【大】
シアタークリエ	611	【中】			

上の内、大劇場は900席以上、中劇場は899~500席、小劇場は499席以下という基準で規定した。各流能楽堂、新国立劇場(大)、東京芸術劇場(大)、オーチャードホール、日本青年館は除いた。

※(公社)日本演劇興行協会所属劇場：歌舞伎座 新橋演舞場 明治座 御園座 南座 松竹座

※歌舞伎座 梅田芸術劇場 博多座 シアタークリエ サンシャイン劇場 帝国劇場

※中劇場協議会所属劇場：三越劇場 サンシャイン劇場 シアターコクーン 天王洲銀河劇場

紀伊國屋ホール 紀伊國屋サザンシアター 博品館劇場 俳優座劇場 両国シアターX

本多劇場 シアターサンモール

## 2022年松竹株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
歌舞伎座	壽 初春大歌舞伎	1/ 2～ 1/27	71
歌舞伎座	二月大歌舞伎	2/ 1～ 2/25	61
歌舞伎座	三月大歌舞伎	3/ 3～ 3/28	72
歌舞伎座	四月大歌舞伎	4/ 2～ 4/27	72
歌舞伎座	團菊祭五月大歌舞伎	5/ 2～ 5/27	72
歌舞伎座	六月大歌舞伎	6/ 2～ 6/27	72
歌舞伎座	七月大歌舞伎	7/ 4～ 7/29 (第一部7/18～7/29中止 第二部・第三部7/19～7/29中止) (第三部のみ～7/16)	41
歌舞伎座	八月納涼歌舞伎	8/ 5～ 8/30	67
歌舞伎座	秀山祭九月大歌舞伎 二世中村吉右衛門一周忌追善	9/ 4～ 9/27	66
歌舞伎座	十月大歌舞伎「荒川十太夫」上演記念 神田松鯉 神田伯山 歌舞伎座特撰講談会」	9/28	2
歌舞伎座	芸術祭十月大歌舞伎	10/ 4～10/27	66
歌舞伎座	十三代目市川團十郎白猿襲名披露記念 歌舞伎座特別公演	10/31～11/ 1	2
歌舞伎座	市川海老蔵改め十三代目市川團十郎白猿襲名披露 十一月吉例顔見世大歌舞伎 八代目市川新之助初舞台	11/ 7～11/28	40
歌舞伎座	市川海老蔵改め十三代目市川團十郎白猿襲名披露 十二月大歌舞伎 八代目市川新之助初舞台	12/ 5～12/26	40
新橋演舞場	《喜劇名作劇場》恋ぶみ屋一葉 有頂天作家	2/ 1～ 2/15 (2/1～2/11中止)	6
新橋演舞場	陰陽師 生成り姫	2/22～ 3/12	23
新橋演舞場	毒薬と老嬢	3/16～ 3/20	10
新橋演舞場	OSK日本歌劇団創立100周年記念公演 レビュー春の踊り	3/25～ 3/27	6
新橋演舞場	滝沢歌舞伎ZERO 2022	4/ 6～ 5/16	53
新橋演舞場	熱海五郎一座 新橋演舞場シリーズ第8弾 東京喜劇 『任侠サカス～キズナたちの挽歌～』	5/29～ 6/26	36
新橋演舞場	藤山寛美三十三回忌追善 喜劇特別公演	7/ 1～ 7/25 (7/10～ 7/14中止)	26
新橋演舞場	オリジナルミュージカル『流星の音色』	8/ 2～ 8/17 (昼の部8/2～8/3、8/9 夜の部8/11～8/12中止)	16
新橋演舞場	超歌舞伎2022 Powerd by NTT	8/21～ 9/ 3	23
新橋演舞場	少年たち	9/11～10/13	44
新橋演舞場	女の一生	10/18～10/23	8
新橋演舞場	2022年 劇団☆新感線 42周年興行・秋公演 SHINKANSEN☆RX『薔薇とサムライ2—海賊女王の帰還—』	11/ 1～12/ 6	39
新橋演舞場	芸能生活60周年記念 舟木一夫ロングコンサート in 新橋演舞場	12/10～12/21	10
サンシャイン劇場	行先不明	3/12～ 3/21	14
日生劇場	ジョセフ・アンド・アメージング・テクニカラー・ドリームコート	4/ 7～ 4/29	29
日生劇場	夏の夜の夢	9/ 9～ 9/28	26
シアターコクーン	天日坊	2/ 1～ 2/26 (2/25、2/26中止)	28

会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
平成中村座(浅草)	猿若町発祥180年記念 平成中村座 十月大歌舞伎	10/ 5～10/27	41
平成中村座(浅草)	猿若町発祥180年記念 平成中村座 十一月大歌舞伎	11/ 3～11/27	38
大阪松竹座	坂東玉三郎 初春特別舞踊公演	1/ 2～ 1/23	18
大阪松竹座	早春 松竹お笑い寄席 in大阪松竹座	2/15～ 2/16	4
大阪松竹座	OSK日本歌劇団劇団創立100周年記念公演 レビュー春のおどり	2/18～ 2/20	6
大阪松竹座	正門良規Solo Live SHOW with 関西ジャニーズJr.	2/25～ 3/31	43
大阪松竹座	東西ジャニーズJr. 「僕らのサバイバルウォーズ」映画と実演	4/ 4～ 4/10	12
大阪松竹座	毒薬と老嬢	4/16～ 4/24	14
大阪松竹座	藤山寛美三十三回忌追善 喜劇特別公演	5/ 3～ 5/26	31
大阪松竹座	Ambitious 初単独 Live 梅雨魂 2022 ～ Nice to meet you ～	6/11～ 6/26	20
大阪松竹座	関西・歌舞伎を愛する会 第三十回 七月大歌舞伎	7/ 3～ 7/24	40
大阪松竹座	関西ジャニーズJr. Space Journey! ～ 僕たちの軌跡 ～	7/30～ 9/ 4 (7/30、7/31、 8/3～8/5中止)	35
大阪松竹座	大阪文化芸術創出事業 歌舞伎特別公演	9/ 8～ 9/11	12
大阪松竹座	アンタッチャブル・ビューティー	9/17～ 9/25 (9/18～9/24中止)	4
大阪松竹座	日本怪談歌舞伎(Jホラーかぶき) 時超輪廻古井処	10/ 3～10/25	35
大阪松竹座	サラリーマン ナイト フィーバー	10/28～10/30	5
大阪松竹座	三浦祐太郎 10th Anniversary Tour 『AND YOU』大阪松竹座特別公演	11/ 5	1
大阪松竹座	大阪環状線 天満駅編 うちの家族は日本一やねん!	11/28～12/12 (12/2～12/5中止)	12
南座	初笑い! 松竹新喜劇 新春お年玉公演	1/ 2～ 1/10	13
南座	≪喜劇名作劇場≫恋ぶみ屋一葉 有頂天作家	1/15～ 1/28	20
南座	早春夢舞台	2/26	1
南座	三月花形歌舞伎	3/ 2～ 3/13	24
南座	陰陽師 生成り姫	3/18～ 3/24	9
南座	都をどり	4/ 1～ 4/24	69
南座	南座 春の舞台体験ツアー	4/29～ 5/ 8	55
南座	南座 歌舞伎鑑賞教室	5/12～ 5/18	14
南座	芸能生活60周年記念 舟木一夫シアターコンサート in 南座	5/20～ 5/22	3
南座	南座 初夏の舞台体験ツアー	6/ 3～ 6/19	70
南座	第29回京都五花街合同公演 都の賑い	6/25～ 6/26	4
南座	桂米朝一門会	7/ 3	1
南座	OSK日本歌劇団創立100周年記念公演 レビュー in Kyoto	7/ 9～ 7/18	13
南座	坂東玉三郎 特別舞踊公演	7/23～ 7/27	5
南座	坂東玉三郎 特別公演 片岡愛之助 出演	8/ 2～ 8/28	23
南座	オリジナルミュージカル『流星の音色』	8/31～ 9/ 4	7
南座	超歌舞伎2022 Powerd by NTT	9/ 8～ 9/25	31
南座	藤山寛美三十三回忌追善 喜劇特別公演	10/ 1～10/23	31
南座	女の一生	10/27～11/ 8	17
南座	波濤を越えて	11/12～11/22	18
南座	京の年中行事 當る卯年 吉例顔見世興行	12/ 4～12/25	57

## 2022年東宝株式会社主催公演

上演作品	会場	公演期間	公演回数
ジャニーズアイランド ザ・ニュー・ワールド	帝国劇場	1/ 1～ 1/26	26
笑う男	帝国劇場	2/ 3～ 2/19	14
千と千尋の神隠し	帝国劇場	2/28～ 3/29	40
Endless SHOCK —Eternal—	帝国劇場	4/10～ 5/31	43
ガイズ&ドールズ	帝国劇場	6/ 9～ 7/ 9	20
ミス・サイゴン	帝国劇場	7/24～ 8/31	47
DREAM BOYS	帝国劇場	9/ 8～ 9/30	28
エリザベート	帝国劇場	10/ 9～11/27	55
ジャニーズ伝説	帝国劇場	12/ 5～12/22	24
リトルプリンス	シアタークリエ	1/ 8～ 1/31	30
レジェンド・オブ・ミュージカル 7	シアタークリエ	1/25～ 1/25	1
SLAPSTICKS	シアタークリエ	2/ 3～ 2/17	20
ピアフ	シアタークリエ	2/24～ 3/18	25
ネクスト・トゥ・ノーマル	シアタークリエ	3/25～ 4/17	34
VOICARION XIV スプーンの盾	シアタークリエ	4/20～ 4/26	11
39 STEPS	シアタークリエ	5/ 1～ 5/17	1
My Story, My Song ～and YOU～	シアタークリエ	5/19～ 5/22	6
CROSS ROAD	シアタークリエ	6/ 7～ 6/30	28
Only 1, NOT No.1	シアタークリエ	7/ 6～ 7/26	29
スラムドッグ\$ミリオネア	シアタークリエ	8/ 1～ 8/21	20
ダディ・ロング・レッグズ	シアタークリエ	8/24～ 8/31	12
モダン・ミリー	シアタークリエ	9/ 7～ 9/26	17
アルキメデスの大戦	シアタークリエ	10/ 1～10/17	22
ファンタスティックス	シアタークリエ	10/23～11/14	28
SHOW-ism ベルベル・ランデヴー	シアタークリエ	11/20～12/ 5	20
4000マイルズ	シアタークリエ	12/12～12/28	21
ラ・マンチャの男	日生劇場	2/ 6～ 2/28	7
ラ・カージュ・オ・フォール	日生劇場	3/ 8～ 3/30	15
四月は君の嘘	日生劇場	5/ 7～ 5/29	31
リトル・ゾンビガール	日生劇場	8/20～ 8/28	2
ジャージー・ボーイズ	日生劇場	10/ 6～10/29	32
ジャージー・ボーイズ	横須賀芸術劇場	12/10～12/11	2
メリー・ポピンズ	シアターオーブ	3/20～ 5/ 8	63
メリー・ポピンズ	梅田芸術劇場	5/20～ 6/ 6	27
天使にラブ・ソングを	シアターオーブ	11/13～12/ 4	16
歌妖曲	明治座	11/ 6～11/30	31
ヘアスプレー	ブリリアホール	9/17～10/ 2	18

## 2022年 宝塚歌劇上演記録

会場・劇場	組	上演作品	公演期間	公演回数
宝塚大劇場	月組	『今夜、ロマンス劇場で』『FULL SWING!』	1/1～1/31	44
	宙組	『NEVER SAY GOODBYE』	2/5～3/14 <small>(公演中止:2/5～27)</small>	20
	雪組	『夢介千両みやげ』『Sensational!』	3/19～4/18	44
	星組	『めぐり会いは再び next generation - 真夜中の依頼人 -』『Gran Cantante!!』	4/23～5/30 <small>(公演中止:4/30～5/19)</small>	25
	花組	『巡礼の年～リスト・フェレンツ、魂の彷徨～』『Fashionable Empire』	6/4～7/11	54
	月組	『グレート・ギャツビー』	7/16～8/22 <small>(公演中止:7/16～21,7/26～30)</small>	16
	宙組	『HiGH&LOW - THE PREQUEL -』『Capricciosa!!』	8/27～9/26	44
	雪組	『蒼穹の昴』	10/1～11/7	53
	星組	『ディミトリ～曙光に散る、紫の花～』『JAGUAR BEAT - ジャガービート -』	11/12～12/13	45
		小計	345	
東京宝塚劇場	花組	『元禄バロックロック』『The Fascination!』	1/2～2/6 <small>(公演中止:1/8～29)</small>	20
	月組	『今夜、ロマンス劇場で』『FULL SWING!』	2/25～3/27	45
	宙組	『NEVER SAY GOODBYE』	4/2～5/1	43
	雪組	『夢介千両みやげ』『Sensational!』	5/7～6/12 <small>(公演中止:5/7～10)</small>	48
	星組	『めぐり会いは再び next generation - 真夜中の依頼人 -』『Gran Cantante!!』	6/18～7/24	53
	花組	『巡礼の年～リスト・フェレンツ、魂の彷徨～』『Fashionable Empire』	7/30～9/4 <small>(公演中止:7/30～8/14,8/29～30)</small>	8
	月組	『グレート・ギャツビー』	9/10～10/9	43
	宙組	『HiGH&LOW - THE PREQUEL -』『Capricciosa!!』	10/15～11/20	53
	雪組	『蒼穹の昴』	11/26～12/25	43
		小計	356	
宝塚バウホール	雪組	『Sweet Little Rock 'n' Roll』	1/14～1/25	17
	星組	『ベアタ・ベアトリクス』	9/8～9/19	17
	花組	『殉情』	10/13～10/21	13
	花組	『殉情』	10/30～11/7	13
			小計	60
梅田芸術劇場メインホール	花組	『TOP HAT』	3/21～4/6	25
梅田芸術劇場メインホール	雪組	『ODYSSEY - The Age of Discovery -』	7/21～8/7	21
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	花組	『冬霞の巴里』	3/25～4/2	14
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	月組	『ブエノスアイレスの風』	5/18～5/26	14
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	宙組	『カルト・ワイン』	7/2～7/7 <small>(公演中止:7/5～7)</small>	5
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	雪組	『心中・恋の大和路』	7/20～7/28 <small>(公演中止:7/26～28)</small>	8
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	月組	『ELPIDIO』	12/3～12/11	14
日本青年館ホール	月組	『ブエノスアイレスの風』	5/3～5/10	12
日本青年館ホール	雪組	『心中・恋の大和路』	8/3～8/10 <small>(公演中止:8/3～9/11時公演)</small>	3
東京ガーデンシアター	宙組	『FLY WITH ME』	6/10～6/12	5
東京建物Brillia HALL	花組	『冬霞の巴里』	4/8～4/14	11
東京建物Brillia HALL	宙組	『カルト・ワイン』	6/17～6/26	15
舞浜アンフィシアター	月組	『Rain on Neptune』	5/14～5/23	15
KAAT神奈川芸術劇場	星組	『ザ・ジェントル・ライアー ～英国的、紳士と淑女のゲーム～』	2/19～2/25 <small>(公演中止:2/19～2/25全日程)</small>	11
KAAT神奈川芸術劇場	月組	『ELPIDIO』	11/21～11/27	11
御園座	星組	『王家に捧ぐ歌』	2/8～2/27 <small>(公演中止:2/8～17/11時公演)</small>	16
全国ツアー	星組	『モンテクリスト伯』『Gran Cantante!!』	9/1～9/21 <small>(公演中止:9/13～18)</small>	18
全国ツアー	花組	『フィレンツェに燃える』『Fashionable Empire』	10/14～11/3	27
全国ツアー	宙組	『ブラック・ジャック 危険な賭け』『FULL SWING!』	11/18～12/7	26
		小計	271	
		総合計	1,032	

※中止公演は除く

## 2022年劇団四季上演記録

	上演作品	会場	公演期間	公演回数
				(22年10月～22年12月31日までの公演回数)
東京	『アナと雪の女王』	JR東日本四季劇場[春]	21/ 6/24～ロングラン上演	293/471
	『オペラ座の怪人』	JR東日本四季劇場[秋]	20/10/24～22/ 1/10	10/401
	『バケモノの子』	JR東日本四季劇場[秋]	22/ 4/30～23/ 3/21	213
	『ロボット・イン・ザ・ガーデン』	自由劇場	21/12/22～22/ 1/23	22/29
	『人間になりたがった猫』	自由劇場	22/ 7/23～22/ 8/28	30
	『アラジン』	電通四季劇場[海]	15/ 5/24～ロングラン上演	312/2333
	『ライオンキング』	有明四季劇場	21/ 9/26～ロングラン上演	303/391
	『ノートルダムの鐘』	KAAT神奈川芸術劇場	22/ 5/21～22/ 8/ 7	68
	『美女と野獣』	舞浜アンフィシアター	22/10/23～ロングラン上演	55
	小計			1306
大阪	『オペラ座の怪人』	大阪四季劇場	22/ 3/ 6～23/ 8/27	270
	小計			270
京都	『ロボット・イン・ザ・ガーデン』	京都劇場	22/ 2/23～22/ 4/16	48
	『ノートルダムの鐘』	京都劇場	22/12/18～23/ 4/ 9	11
	小計			59
名古屋	『ライオンキング』	名古屋四季劇場	20/ 3/26～22/ 5/15	103/581
	『キャッツ』	名古屋四季劇場	22/ 7/18～ロングラン上演	144
	小計			247
福岡	『キャッツ』	キャナルシティ劇場	21/ 7/27～22/ 4/17	84/229
	小計			84
静岡	『リトルマーメイド』	静岡市民文化会館	22/ 4/ 2～22/ 5/29	54
	小計			54
広島	『リトルマーメイド』	上野学園ホール	22/ 7/11～22/10/10	85
	小計			85
仙台	『リトルマーメイド』	東京エレクトロンホール宮城	22/11/26～23/ 3/12	31
	小計			31
全国	『劇団四季のアンドリユー・ロイド=ウエバー コンサート～アンマスクド～』	9都市／通算13都市	21/12/ 5～22/ 2/10	26/49
	『ロボット・イン・ザ・ガーデン』	61都市	22/ 5/14～22/10/28	76
	『はじまりの樹の神話～こそあどの森の物語～』	31都市／通算65都市	21/ 9/12～22/ 3/21	34/72
	『人間になりたがった猫』	32都市	22/ 9/10～全国ツアー上演	36
	『人間になりたがった猫』日産労連チャリティ公演	18都市	22/11/15～22/12/20	18
	小計			190
総合計				2326回

※貸切含む。  
※中止公演は除く。

## 令和4年 演劇賞 関係各賞受賞者

※演劇関係者のみ記載、順不同・敬称略

※2022年(令和4年)2月初旬～2023年(令和5年)2月初旬に発表されたものを記載

### 【重要無形文化財の指定及び保持者の認定】

◇重要無形文化財の指定及び保持者の認定(各個認定)

＝野村峰山(尺八)、鶴澤津賀寿(義太夫節三味線)

◇重要無形文化財の保持者の追加認定(各個認定)＝大坪喜美雄(能シテ方)、中村梅玉(歌舞伎立役)、杵屋東成(長唄唄)

### 【令和4年度 文化勲章・文化功労者】

◇文化勲章＝松本白鸚(歌舞伎俳優、文化功労者)

◇文化功労者＝池端俊策(脚本家)、鳥羽里里長(長唄唄方、重要無形文化財「歌舞伎音楽長唄」[各個認定]保持者)、小池一子(クリエイティブ・ディレクター、武蔵野美術大学名誉教授)、勅使河原三郎(舞踊家)、松任谷由実(シンガーソングライター)、辻原登(小説家)、山本東次郎(能楽師 狂言方大蔵流、重要無形文化財「狂言」[各個認定]保持者)

### 【令和4年度 春の叙勲・褒章】

◇旭日中綬章＝池辺晋一郎(作曲家、文化功労者)、山本東次郎(能楽師 狂言方大蔵流 重要無形文化財「狂言」[各個認定]保持者)

◇旭日小綬章＝桃井かおり(俳優)、比嘉聡(組踊音楽太鼓演奏家、重要無形文化財「組踊音楽太鼓」[各個認定]保持者)

◇旭日双光章＝清元吉寿朗(清元節三味線演奏家、重要無形文化財「清元節」[総合認定]保持者)、芳村伊十郎(長唄演奏家 唄方、重要無形文化財「長唄」[総合認定]保持者)、玉城正治(琉球古典音楽三線演奏家、沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」三線保持者)、ドグミド・ソソルバラム(モンゴル 歌手、俳優、演出家)

◇黄綬褒章＝富田清邦(箏曲演奏家)、林晴男(歌舞伎小道具製作技術者)

◇紫綬褒章＝秋元康(作詞家)、庵野秀明(アニメーション・映画監督)、岡本健一(俳優)、西川箕乃助(日本舞踊家)、島田雅彦(小説家)

### 【令和4年度 秋の叙勲・褒章】

◇旭日中綬章＝コシノ ジュンコ(ファッションデザイナー、文化功労者)、萩尾望都(漫画家、文化功労者)

◇旭日小綬章＝宮本信子(俳優)、林英哲(太鼓演奏家)

◇旭日双光章＝金春安明(能楽師 シテ方金春流、重要無形文化財「能楽」[総合認定]保持者)、今藤長十郎(長唄

三味線演奏家、重要無形文化財「長唄」[総合認定]保持者)、小篠敏之(邦楽器系製作技術者、選定保存技術「邦楽器系製作」保持者)、竹本友喜美(義太夫節演奏家、重要無形文化財「義太夫節」[総合認定]保持者)、大盛和子(八重山伝統舞踊家、沖縄県指定無形文化財「八重山伝統舞踊」保持者)

◇黄綬褒章＝石井昭(歌舞伎小道具製作技術者)

◇紫綬褒章＝大沢在昌(小説家)、マキノノゾミ(劇作家・演出家)

### 【令和4年度(第77回)文化庁芸術祭】

#### ～演劇部門～

◇大賞＝株式会社萬狂言(「祖先祭 初世野村万蔵生誕三〇〇年」の成果)、株式会社南座(「女の一生」の成果)

◇優秀賞＝松竹株式会社歌舞伎座(芸術祭十月大歌舞伎第一部「荒川十太夫」の成果)、劇団未来(劇団未来「パレードを待ちながら」の成果)

◇新人賞＝花村想太(東宝株式会社「ジャージー・ボーイズ」における演技)、山本彩(空の驛舎「花を摘む人」の作)

#### ～舞踊部門～

◇大賞＝東京バレエ団(東京バレエ団「ラ・バヤデー」の成果)

◇優秀賞＝Co.山田うん(「Co.山田うん2022新作Inc」の成果)、法村圭緒(法村友井バレエ団公演「クレオパトラ ラ・シルフィード」におけるマジジの演技)、上方舞山村流(「山村流双葉会」の成果)

◇新人賞＝工藤朋子(工藤朋子フラメンコリサイタル vol.3「時と血と地と」の成果)、東野翔子(「ANTIBODIES Collective Newcreation/Performance in AWAIJ 2022 Limina 1」における構成・振付)

#### ～大衆芸能部門～

◇大賞＝林家菊丸(「第八回三代目林家菊丸独演会」の成果)

◇優秀賞＝林家はな平(「ハヤシにのって～林家はな平独演会～」の成果)、春風亭昇也(「春風亭昇也独演会」の成果)、チキチキジョニー(「チキチキジョニー単独ライブ～年ごまかしてたり、クビになつたりもしたけど～なんやかんやで20年」の成果)

◇新人賞＝一龍斎貞鏡(「一龍斎貞鏡修羅場勉強会」の成果)、京山幸太(第二回京山幸太独演会)の成果)

#### ～テレビドラマ部門～

◇大賞＝日本放送協会(「忠臣蔵狂詩曲 No.5中村仲蔵出世階段」)



- ◇**優秀賞**＝日本放送協会(よるドラ「恋せぬふたり」、株式会社 WOWOW(連続ドラマW「いりびとー異邦人ー」)
- ◇**放送個人賞**＝伊藤沙莉(特集ドラマ「ももさんと7人のパバゲーノ」における演技)

#### ～ラジオ部門～

- ◇**大賞**＝株式会社中国放送(生涯野球監督 迫田穆成～終わりなき情熱～)
- ◇**優秀賞**＝山形放送株式会社(鉄格子に顔押しつけて21枚に刻み込んだ“抵抗”)、株式会社ニッポン放送(ニッポン放送報道スペシャル あの日の「誓い」から10年・始まった共生社会への挑戦!)、日本放送協会(FMシアター「琥珀のひと」)

#### 【令和3年度(第72回)芸術選奨】

##### ～演劇部門～

- ◇**文部科学大臣賞**＝竹本千歳太夫(人形浄瑠璃文楽太夫／「ひらかな盛衰記」ほかの成果)、マキノノゾミ(劇作家・演出家／「昭和虞美人草」の成果)
- ◇**文部科学大臣新人賞**＝尾上松緑(歌舞伎俳優・日本舞踊家／「土蜘蛛」ほかの成果)

#### 【第25回文化庁メディア芸術祭】

##### ～エンターテインメント部門～

- ◇**新人賞**＝映像作品 ミュージカル『20歳の花』(『20歳の花』制作チーム 代表：根本宗子)

#### 【令和4年度文化庁長官表彰】

三遊亭好楽(落語家)、市川齊入(歌舞伎俳優)、ジュディ・オング(歌手、俳優)、金井勇一郎(舞台美術家)、喜舎場盛勝(組踊・琉球舞踊音楽太鼓演奏家)、鳥袋光尋(組踊立方)、鈴木一行(大修館書店代表取締役社長)、角寛次朗(能楽師シテ方観世流)、犬塚裕道(音響家)、塚本悟(日本照明家協会副会長)、藤舎呂浩(長唄鳴物演奏家)、中坪眞(伝統芸能オフィス取締役)、野村哲朗(藤波小道具取締役社長)、二世清元梅寿太夫(清元節太夫)、豊竹呂太夫(人形浄瑠璃文楽太夫)、平塚仁郎(俳優、演出家、劇団芸術座代表)、増旭(サウンドシステムデザイナー)、宮部秀子(邦楽器原系製造技術者)、村山研一(元日本照明家協会常務理事)、森岡肇(舞台監督)、竹本友代(義太夫節太夫)、吉井孝幸(アニメーションプロデューサー)

#### 【クールジャパン・マッチングアワード2022】

- ◇**マッチング賞**【伝統芸能×テクノロジー】＝九月南座超歌舞伎
- ◇**マッチング賞**【舞台芸術×テクノロジー】＝葛飾北斎生誕260周年記念舞台芸術作品「The Life of HOK USAI」

#### 【令和3年度日本芸術院賞】

竹本葵太夫(歌舞伎音楽竹本太夫としての近年の成果に対し)

#### 【第41回(令和3年度)国立劇場文案賞】

- ◇**大賞**＝鶴澤清介
- ◇**優秀賞**＝桐竹勘壽、吉田玉也
- ◇**奨励賞**＝鶴澤清直、吉田玉勢
- ◇**特別賞**＝吉田賛助

#### 【令和2・3年度国立劇場歌舞伎脚本募集】

- ◇**佳作**＝「最後のぶざま」青砥啓、「陣中花在」浜田耕平、「春來甘辛田楽味」山崎赤絵
- ◇**奨励賞**＝「かざしの姫君」ササキタツオ

#### 【令和3年度 文楽協会賞】

豊竹咲寿太夫(太夫の部)、鶴澤清公(三味線の部)、桐竹勘介(人形の部)

#### 【第44回松尾芸能賞】

- ◇**大賞**＝市村正親(演劇)
- ◇**優秀賞**＝吉田玉男(文楽)、山村友五郎(舞踊)、天海祐希(演劇)、尾上菊之助(演劇)、三山ひろし(歌謡)
- ◇**新人賞**＝田淵愛子(琉球音楽)
- ◇**功労賞**＝林家正楽(演芸)

#### 【2022年度 第42回伝統文化ポララ賞】

川口清次(歌舞伎臺の製作)

#### 【第51回 令和4年度大谷竹次郎賞】

「赤徳義士外伝の内 荒川十太夫」脚本：竹柴潤一

#### 【第47回(2021年度)菊田一夫演劇賞】

- ◇**演劇大賞**＝「千と千尋の神隠し」上演関係者一同(「千と千尋の神隠し」の高い舞台成果に対して)
- ◇**演劇賞**＝佐藤B作(「サンシャイン・ボーイズ」のアル・ルイス役の演技に対して)、土居裕子(「リトルプリンス」の王子役の演技に対して)、木下晴香(「モーツァルト!」のコンスタンツェ役、「王家の紋章」のキャロル役、「彼女を笑う人がいても」の岩井梨沙／山中誠子役の演技に対して)、森新太郎(「ジュリアス・シーザー」「冬のライオン」の演出の成果に対して)
- ◇**特別賞**＝松本白鸚(「ラ・マンチャの男」の主演を半世紀以上にわたってつとめた功績に対して)

#### 【第57回紀伊國屋演劇賞】

- ◇**団体賞**＝名取事務所(別役実メモリアル3部作上演「やってきたゴドー」「ああ、それなのに、それなのに」「病



気」および 現代韓国演劇上演「そんなに驚くな」の優れた舞台成果に対して)

◇**個人賞**＝柴田義之(「夜の来訪者」における倉持幸之助、「北の大地、南の島。」における浅本の演技に対して)、金守珍(「下谷万年町物語」、「青ひげ公の城」の演出に対して)、内藤裕子(「ソハ、福ノ倚トルコロ」の作・演出に対して)、枝元萌(「貧乏物語」における田中美代、「あつい胸さわぎ」における武藤昭子の演技に対して)、成河(ミュージカル「EDGES―エッジズ―2022」における演技、「建築家とアッシリア皇帝」における建築家の演技に対して)

### 【第30回読売演劇大賞】

◇**最優秀作品賞**＝劇団チョコレートケーキ「生き残った子供たちへ 戦争六篇」  
◇**最優秀男優賞**＝段田安則(「セールスマンの死」女の一生涯の演技)  
◇**最優秀女優賞**＝上白石萌音(「ダディ・ロング・レッグズ」千と千尋の神隠しの演技)  
◇**最優秀演出家賞**＝五戸真理枝(「コーヒーと恋愛」貴婦人の来訪「毛皮のヴィーナス」の演出)  
◇**最優秀スタッフ賞**＝前田文字(「レオポルトシュタット」「薔薇とサムライ2―海賊女王の帰還―」の衣装)  
◇**杉村春子賞**＝大原櫻子(「ミネオラ・ツインズ」「ザ・ウェルキン」の演技)  
◇**芸術栄誉賞**＝草笛光子  
◇**選考委員特別賞**＝舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」

### 【第64回毎日芸術賞】

加藤健一(舞台「スカラムーシュ・ジョーンズor七つの白い仮面」などの演技)、加藤登紀子(CD「果てなき大地の上」の制作)、桐生夏生(小説「燕は戻ってこない」)

### 【第73回日本放送協会放送文化賞】

花柳糸之(舞踊振付家)、美輪明宏(歌手・俳優・演出家)

### 【2022年日本民間放送連盟賞】

～テレビ教養～

◇**優秀賞**＝BS-TBS「没後40年特別企画 向田邦子に“恋”して」

### 【映文連アワード2022】

～パーソナル・コミュニケーション部門～

◇**優秀企画賞**＝映画「シネマ組踊 孝行の巻」(エコーズ、ステージサポート沖縄製作)

### 【メセナアワード2022】

◇**優秀賞**＝日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社(岡山こども未来ミュージカル「ハロルド!」)

### 【ルミエール・ジャパン・アワード2022】

～VR部門～

◇**準グランプリ**＝VR演劇「Typeman」(WOWOW、CinemaLeap共同製作)

### 【第23回テアトロ演劇賞】

古川健(「帰還不能点」「一九一一」他の劇作に対して)

### 【第23回テアトロ演劇賞特別賞】

劇団1980(「豊後訛り節」「一番小さな町」の成果に対して)

### 【第34回テアトロ新人戯曲賞】

該当作品なし

### 【第10回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞】

復帰50年企画・共同制作 エーシーオー沖縄・名取事務所「カタブイ、1972」

### 【第27回AICT演劇評論賞】

西堂行人『ゆっくりの美学 太田省吾の劇字宙』(作品社)

### 【第70回菊池寛賞】

宮部みゆき、三谷幸喜

### 【第35回三島由紀夫賞】

岡田利規「ブロッコリー・レボリューション」

### 【第74回(2022年度)読売文学賞】

◇**戯曲・シナリオ部門**＝山内ケンジ「温暖化の秋ーhot autumnー」

### 【第30回橋田賞】

◇**橋田賞**＝橋本裕志(脚本家)、東山紀之(俳優)、中田喜子(俳優)

◇**橋田賞新人賞**＝杉咲花(俳優)、吉沢亮(俳優)

### 【第66回岸田國夫戯曲賞】

福名理穂「柔らかに揺れる」  
山本卓卓「バナナの花は食べられる」

### 【『日本の劇』戯曲賞2022】

竹田モモコ「他人」

### 【第28回劇作家協会新人戯曲賞】

◇**劇作家協会新人戯曲賞**＝該当作品なし

◇**佳作**＝仁科久美「わたしのそばの、ゆれる木馬」

## 【第26回鶴屋南北戯曲賞】

内藤裕子「カタブイ、1972」

## 【第22回AFF戯曲賞】

◇大賞＝村社祐太郎「とりで」

◇特別賞＝川辺恵「往復する点P」、近江就成「廃熱ハイパス」

## 【第29回OMS戯曲賞】

◇大賞＝山脇立嗣「わたしのこえがきこえますか」

◇佳作＝私道かび「いきてるみ」

## 【令和3年度 希望の大地の戯曲賞「北海道戯曲賞」】

◇大賞＝「南子往回遊野外劇『リアの跡地』」葎本未織

◇優秀賞＝該当作品なし

## 【第8回せんだい短編戯曲賞】

◇大賞＝河合穂高「黄色の森」

## 【第10回九州戯曲賞】

中島栄子「モルヒネ」

## 【シナリオ・センター 舞台脚本コンクール2022】

◇グランプリ＝保坂正人「カラシナ」

◇準グランプリ＝辻本久美子「異郷の弦」、石野ロボ「月見泥棒」

◇佳作＝岡坂隆志「吸って、吐いて」、ササキタツオ「群青デイズ」

## 【第15回小田島雄志・翻訳戯曲賞】

高田曜子(「MUDLARKS」「THE PRICE」の翻訳に対して)、市川洋二郎(「The View Upstairs」の翻訳に対して)、Pカンパニー(「5月35日」の上演に対して)、トランスレーション・マターズ(「月は夜をゆく子のために」の上演に対して)

## 【若手演出家コンクール2021】

◇最優秀賞＝亀尾佳宏「走れ！ 走れ走れメロス」「酒とお蕎麦と男と女」

◇優秀賞＝田中寅雄「？イカのだんすはすんだのカイ？」、点滅「コメット・イケヤ」、梶形浩人「巡る、母桜」

## 【第28回ニッセイ・バックステージ賞】

二村利之(劇場運営・演劇プロデューサー)、大藤玲子(コレペティトゥア)

## 【第1回伊藤薫記念賞】

◇本賞＝松生紘子(「舞台少女ヨルハVer1.1a」の美術)

◇新人賞＝平山正太郎(「群盗「虹色とうがらし」の美術)

◇奨励賞＝針生康(「Super Angels スーパーエンジェル」の総合舞台美術)

◇特別賞＝松本邦彦(舞台美術背景)

## 【第41回公益社団法人日本照明家協会賞】

～舞台部門～

◇文部科学大臣賞・大賞＝関口裕二(ケムリ研究室 no.2「砂の女」)

◇優秀賞＝梶浦直政(いきものがかりの みなさん、こんにつあー!! THE LIVE 2021!!!)、林三紗子(石井智子スペイン舞踊団公演「みだれ髪」、高橋剛(新時代沖縄芸能エンターテインメント「レキオス！～ぼくたちの大航海～」)

◇新人賞＝三重野美由紀、小松崎由依、河口琢磨、伊藤博之、岩重彩香、吉元慧、棚原栄作

◇奨励賞＝高橋研、小野光司、岩村原太、北澤真、花植厚美、加藤雅也、竹内哲郎、原田亮、塩見勘太郎、名護真理子

◇努力賞＝望月太介、関定己、鈴木「Jimmy」徹也、川田京子

◇技術賞＝野田雄大、藤本隆行

◇スタッフ賞＝瀬戸あずさ・三上彩葉(有限会社パランス)、福沢諭志(株式会社STAGE DOCTOR)

## 【第6回園田・加納賞(公益社団法人日本舞台音響家協会)】

小幡亨(音楽座ミュージカル「7dolls」ほか)

## 【日本2.5次元ミュージカル協会 2.5Dアワード】

◇作品部門＝ミュージカル『刀剣乱舞』～静かの海のパライソ～

◇俳優部門＝岡宮来夢

◇演出家部門＝茅野イサム

◇脚本家部門＝伊藤栄之進

## 【CoRich舞台芸術まつり！2022春】

◇グランプリ＝劇艶おとな団「9人の迷える沖繩人」

◇準グランプリ＝万能グローブ ガラバゴスダイナモス「甘い手」

◇最多クチコミ賞＝能グローブ ガラバゴスダイナモス「甘い手」

◇演技賞＝宇座仁一 成田沙織 西岡未央 元山未奈美 横山祐香里

## 【CoRich舞台芸術アワード！2022】

第1位＝Aga-risk Entertainment「SHINE SHOW!」

第2位＝宍戸屋「荒人神—Arabitokami—」

第3位＝Mrs.fictions「花柄八景」

第4位＝あやめ十八番「空唄」

第5位＝ムシラセ「瞬きと閃光」 ほか

【第34回池袋演劇祭賞】

- ◇大賞＝劇団東俳「激流ノ果テ」
- ◇豊島区制施行90周年記念特別賞＝ラビット番長「コマギレ」
- ◇優秀賞＝あやめ十八番「空蟬」、NAOYA PRODUCE「わが家 或る作家とその妻そして女中の記」
- ◇豊島区長賞＝イルカ団!!「Q.T!!!」
- ◇舞台芸術振興会賞＝ブロードウェイ・バウンズ「赤羽焼肉劇場」
- ◇みらい館大明賞＝劇団壱劇屋東京支部「賊義賊一 Zokugizoku一」
- ◇豊島区町会連合会会長賞＝Prelude「ここへ東京、ユメのあと」
- ◇豊島区観光協会賞＝きよみず「紡ぐ」
- ◇豊島新聞社賞＝無名劇団「プラズマ 再臨」
- ◇としまテレビ賞＝劇団アルファ「陽炎」
- ◇三浦大四郎記念賞＝劇団えのぐ「君と約束した桜色の中で」
- ◇舞台芸術学院奨励賞＝中孝太(演劇企画団体「狂人」『狂愛』出演・脚本・演出)
- ◇CM大会賞＝無名劇団、あやめ十八番、劇団壱劇屋東京支部

【第3回・浅草九劇賞2021年】

- ◇浅草九劇賞＝該当者なし
- ◇浅草ニューフェイス賞＝該当者なし
- ◇ベストパフォーマンス賞＝該当者なし
- ◇浅草九劇賞・特別賞＝ピンク・リパティ(上演作品「とりわけ眺めの悪い部屋」)

【令和4年度名誉都民顕彰】

石井ふく子(テレビプロデューサー、舞台演出家)、本多一夫(劇場経営者、俳優)

【かながわ短編演劇アワード2022】

- ◇かながわ短編演劇賞2022グランプリ＝MWnoズ「ROBIN」
- ◇かながわ短編演劇賞2022観客賞＝エリア51「ハウス」
- ◇かながわ短編戯曲賞2022大賞＝山縣太一「海底で履く靴には紐がない」

【第71回(令和4年度)横浜文化賞】

～文化・芸術部門～  
梅若紀彰(能楽師)

【第37回芸術創造賞(名古屋文化振興事業団)】

鹿島俊裕(伝統文化狂言)

【第2回名古屋女性演劇賞】

花植厚美(照明デザイナー)

【第41回京都府文化賞】

- ◇功労者＝石橋義正(映像作家・演出家)、佐々木藏之介(俳優)、若柳吉蔵(日本舞踊家)
- ◇奨励賞＝金剛龍謹(能楽師シテ方金剛龍)

【令和4年度憲法記念日知事表彰(大阪府)】

～文化関係・個人～

井之上淳(劇団五期会 副代表)、上野朝義(能楽師)、門田裕(関西芸術座 代表取締役)、竹本鋳太夫(人形浄瑠璃文楽・太夫)

【第57回大阪市市民表彰】

～文化功労～

金満里(劇団態姿・芸術監督)、曾我廼家文童(俳優)、畑律江(毎日新聞大阪本社 学芸部専門編集委員)、三島元太郎(金剛流太鼓方)、わかぎるふ(劇作家・演出家)

【令和3年度大阪文化祭賞】

- ◇大阪文化祭賞＝上村吉弥(「関西・歌舞伎を愛する会 第29回七月大歌舞伎『双蝶々曲輪日記 引窓』」の成果)、曾我廼家文童・井上恵美子(「松竹新喜劇錦秋公演『お家はんと直どん』」の成果)
- ◇大阪文化祭奨励賞＝豊竹靖太夫(「錦秋文楽公演『ひらかな盛衰記』大津宿屋の段」の成果)、極東退屈道場(「LG20/21クロニクル」の成果)

【令和3年度 咲くやこの花賞(大阪市)】

～演劇・舞踊～

伊原六花(俳優)

【令和4年度地域文化功労者表彰】

尾崎磨基(俳優、劇団五期会代表)、草野旦(演出家)

【令和4年兵庫県功労者表彰】

～文化功労～

森もりこ(兵庫県劇団協議会代表)

【第24回関西現代演劇俳優賞】

◇大賞＝梅田千絵(関西芸術座「ブンヤ、走れ!～阪神・淡路大震災 地域ジャーナリズムの戦い～」)、橋本浩明(現代演劇レトロスペクティブ 小原延之+T-works共同プロデューサー「丈夫な教室」)、三坂賢二郎(兵庫県立ピッコロ劇団「波の上のキネマ」「もういちど、鴨を撃ちに」「スカパンの悪だくみ」)

【関西演劇祭2022】

◇MVO(Most Valuable Opus)＝劇団リジョロ

- ◇ベスト脚本賞＝嘉納みなこ(かのうとおっさん)
- ◇ベスト演出賞＝タカイアキフミ(TAAC)
- ◇ベストアクター賞＝北野秀氣(TAAC)、藤井愛希子(かのうとおっさん)
- ◇審査員特別賞＝うえだひろし(TAAC)
- ◇観客賞＝RE:MAKE

### 【2021年度関西俳優協議会新人育成事業・最優秀新人賞】

中中央人(劇団五期会)、菊地彩香(関西芸術座)

### 【ローレンス・オリヴィエ賞2022】

(授賞式：現地時間2022年4月10日)

#### ～演劇部門～

- ◇最優秀新作作品賞＝「Life Of Pi」
- ◇最優秀リバイバル作品賞＝「Constellations」
- ◇最優秀主演男優賞＝Hiran Abeysekera(Life Of Pi)
- ◇最優秀主演女優賞＝Sheila Atim(Constellations)
- ◇最優秀助演男優賞＝Fred Davis、Tom Larkin、Romina Hytten、Scarlet Wilderink、Daisy Franks、Tom Stacy、Habib Nasib Nader～7 actors who play the tiger (Life Of Pi)

#### ～ミュージカル部門～

- ◇最優秀新作作品賞＝「Back To The Future: The Musical」
- ◇最優秀リバイバル作品賞＝「Cabaret」
- ◇最優秀主演男優賞＝Eddie Redmayne(Cabaret)
- ◇最優秀主演女優賞＝Jessie Buckley(Cabaret)
- ◇最優秀助演男優賞＝Elliot Levey(Cabaret)
- ◇最優秀助演女優賞＝Liza Sadvoy(Cabaret)

#### ～部門共通～

- ◇最優秀演出賞＝Rebecca Frecknall(Cabaret)
- ◇最優秀セットデザイン賞＝Tim Hatley、Nick Barnes and Finn Caldwell(Life Of Pi)
- ◇最優秀照明デザイン賞＝Tim Lutkin、Andrzej Goulding(Life Of Pi)
- ◇最優秀音響デザイン賞＝Nick Lidster(Cabaret)
- ◇最優秀オリジナル楽曲・オーケストラ編曲賞＝「Get Up Stand Up! The Bob Marley Musical」
- ◇最優秀振付賞＝Kathleen Marshall(Anything Goes)
- ◇最優秀衣装デザイン賞＝Catherine Zuber(Moul in Rouge! The Musical)
- ◇最優秀エンターテインメント アンド コメディアー＝「Pride And Prejudice\*(sort of)」
- ◇最優秀ファミリーショー＝「Wolf Witch Giant Fairy」
- ◇Outstanding Achievement in an Affiliate Theatre＝「Old Bridge」Bush Theatre

### 【第75回トニー賞】

(授賞式：現地時間2022年6月12日)

#### ～ミュージカル部門～

- ◇作品賞＝「ア・ストレンジ・ループ(A Strange Loop)」
- ◇リバイバル作品賞＝「カンパニー(Company)」
- ◇主演男優賞＝マイルズ・フロスト(MJ)
- ◇主演女優賞＝ジョアキーナ・カラカンゴ(パラダイス・スクエア)
- ◇助演男優賞＝マット・ドイル(カンパニー)
- ◇助演女優賞＝パティ・ルポーン(カンパニー)
- ◇演出賞＝マリアンヌ・エリオット(カンパニー)
- ◇脚本賞＝マイケル・R・ジャクソン(ア・ストレンジ・ループ)
- ◇装置デザイン賞＝バニー・クリスティ(カンパニー)
- ◇衣装デザイン賞＝ガブリエラ・スレイド(SIX)
- ◇照明デザイン賞＝ナターシャ・カット(MJ)
- ◇音響デザイン賞＝ギャレス・オーウェン(MJ)

#### ～演劇部門～

- ◇作品賞＝「リーマン・トリロジー(The Lehman Trilogy)」
  - ◇リバイバル作品賞＝「テイク・ミー・アウト(Take Me Out)」
  - ◇主演男優賞＝サイモン・ラッセル・ビール(リーマン・トリロジー)
  - ◇主演女優賞＝ディードル・オコンネル(デイナ・H)
  - ◇助演男優賞＝ジェシー・タイラー・ファーゴソン(テイク・ミー・アウト)
  - ◇助演女優賞＝フィリシア・ラシャド(スケルトン・クルー)
  - ◇演出賞＝サム・メンデス(リーマン・トリロジー)
  - ◇装置デザイン賞＝エス・デヴリン(リーマン・トリロジー)
  - ◇衣装デザイン賞＝モンタナ・リーヴァイ・ブランコ(危機一髪)
  - ◇照明デザイン賞＝ジョン・クラーク(リーマン・トリロジー)
  - ◇音響デザイン賞＝ミケル・フィクセル(デイナ・H)
- #### ～ミュージカル・演劇 共通部門～
- ◇オリジナル楽曲賞＝SIX(作詞・作曲：トビー・マロウ&ルーシー・モス)
  - ◇振付賞＝クリストファー・ウィールドン(MJ)
  - ◇オーケストラ編曲賞＝サイモン・ヘイル(ガール・フロム・ザ・ノース・カントリー)
- #### ～事前発表 受賞者～
- ◇功労賞＝アンジェラ・ランズベリー
  - ◇特別賞＝ジェームズ・C・ニコラ
  - ◇イザベル・スティーヴンソン賞＝ロバート・E・

ワンケル

◇**名誉賞**＝AAPAC(アジア系アメリカ人パフォーマー連合)、ブロードウェイ・フォー・オール、ファインスターインズ/54ピロウ、エミリー・グリッシュマン

### 【第94回アカデミー賞】

(授賞式：現地時間2022年3月27日)

◇**作品賞**＝「コーダ あいのうた」

◇**監督賞**＝ジェーン・カンピオン「パワー・オブ・ザ・ドッグ」

◇**主演男優賞**＝ウィル・スミス「ドリームプラン」

◇**主演女優賞**＝ジェシカ・チャステイン「タミー・フェイの瞳」

◇**助演男優賞**＝ロイ・コッツァー「コーダ あいのうた」

◇**助演女優賞**＝アリアナ・デボーズ「ウエスト・サイド・ストーリー」

◇**国際長編映画賞**＝「ドライブ・マイ・カー」(監督：濱口竜介)

◇**脚本賞**＝ケネス・プラナー「ベルファスト」

◇**脚色賞**＝シアン・ヘダー「コーダ あいのうた」

◇**撮影賞**＝グレイグ・フレイザー「DUNE デューン 砂の惑星」

◇**編集賞**＝ハンク・コーウィン「DUNE デューン 砂の惑星」

◇**美術賞**＝「DUNE デューン 砂の惑星」

◇**衣装デザイン賞**＝「クルエラ」

◇**メイク・ヘアスタイリング賞**＝「タミー・フェイの瞳」

◇**作曲賞**＝ハンス・ジマー「DUNE デューン 砂の惑星」

◇**歌曲賞**＝“No Time To Die”「007/ノー・タイム・トゥ・ダイ」

◇**音響賞**＝「DUNE デューン 砂の惑星」

◇**視覚効果賞**＝「DUNE デューン 砂の惑星」

◇**長編アニメ映画賞**＝「ミラベルと魔法だらけの家」

◇**長編ドキュメンタリー賞**＝「サマー・オブ・ソウル(あるいは、革命がテレビ放映されなかった時)」

◇**短編アニメ映画賞**＝「ザ・ウィンドシールド・ワイパー」

◇**短編ドキュメンタリー賞**＝「ザ・クイーン・オブ・バスケットボール」

◇**短編実写映画賞**＝「ザ・ロング・グッドバイ」

### 【第45回日本アカデミー賞】

◇**最優秀作品賞**＝「ドライブ・マイ・カー」

◇**最優秀アニメーション作品賞**＝「シン・エヴァンゲリオン劇場版」

◇**最優秀監督賞**＝濱口竜介「ドライブ・マイ・カー」

◇**最優秀脚本賞**＝濱口竜介/大江崇允「ドライブ・マイ・カー」

◇**最優秀主演男優賞**＝西島秀俊「ドライブ・マイ・カー」

◇**最優秀主演女優賞**＝有村架純「花束みたいな恋をした」

◇**最優秀助演男優賞**＝鈴木亮平「孤狼の血 LEVEL2」

◇**最優秀助演女優賞**＝清原果耶「護られなかった者たちへ」

◇**最優秀撮影賞**＝四宮秀俊「ドライブ・マイ・カー」

◇**最優秀照明賞**＝高井大樹「ドライブ・マイ・カー」

◇**最優秀音楽賞**＝岩崎太整/Ludvig Forssell/坂東祐大「竜とそばかすの姫」

◇**最優秀美術賞**＝原田哲男「燃えよ剣」

◇**最優秀録音賞**＝伊豆田廉明(録音)/野村みき(整音)「ドライブ・マイ・カー」

◇**最優秀編集賞**＝山崎梓「ドライブ・マイ・カー」

◇**最優秀外国作品賞**＝「007/ノー・タイム・トゥ・ダイ」

◇**協会特別賞**＝大林恭子(プロデューサー)、笹竹利行(映画美術文字デザイナー)、月岡貞夫(アニメーター)

◇**会長功労賞**＝草笛光子(俳優)、戸田奈津子(映画字幕翻訳者)、野上照代(記録・黒澤組プロダクションマネージャー)、野沢雅子(声優)、森英恵(衣裳)、山崎努(俳優)

◇**会長特別賞**＝大塚康生(アニメーター)、原正人(プロデューサー)、田中邦衛(俳優)、千葉真一(俳優)、澤井信一郎(監督・脚本)、高岩淡(東映株式会社 元代表取締役社長・製作)、ワダエミ(衣裳デザイン)

◇**岡田茂賞**＝京都アニメーション、東映アニメーション

◇**話題賞・作品部門**＝「シン・エヴァンゲリオン劇場版」

◇**話題賞・俳優部門**＝菅田将暉(対象作品「花束みたいな恋をした」)

# 令和4年 劇壇時事

2022年1月～12月

## 【1月】

●中村獅童の息子・小川陽喜(4歳)が2日、歌舞伎座「壽 初春大歌舞伎」第一部『祝春元緑花見踊』奴喜蔵役で初お目見得した。

●米・グラミー賞の主催団体は5日、今月31日に予定されていた同賞の授賞式を、新型コロナウイルスの影響により延期すると発表した。

●昨年7月の会社設立以来、開局準備を進めてきたBS松竹東急株式会社は6日、開局日を3月26日とすることを発表した。

●政府は7日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、沖縄・広島・山口3県にまん延防止等重点措置を適用することを決定した。期間は9日から31日まで。

●昨年12月末まで約1年間の大規模改修工事のため休館していた福岡・大濠公園能楽堂が7日、リニューアルオープンした。10日には記念公演が行われた。

●米・アカデミー賞の前哨戦とされるゴールデングローブ賞の発表が9日行われ、濱口竜介監督『ドライブ・マイ・カー』が非英語映画賞を受賞した。同作は昨年のカンヌ映画祭で脚本賞を、8日発表の全米映画批評家協会賞では作品賞のほか4部門を受賞した。

●月刊誌「演劇界」が3月3日発売予定の4月号で休刊となるのが11日、発売元の演劇出版社と小学館から発表された。2015年頃から実売部数が数千部程度まで落ち込み、継続が困難になったという。

●東京・神保町にある映画館「岩波ホール」が11日、新型コロナウイルスの影響による経営悪化を理由に今年7月29日で閉館することを公式サイトで発表した。

●新国立劇場が14日、米Googleが運営する「Google Arts & Culture」で、舞台写真や衣裳など、所蔵するデジタル資料のオンライン公開を始めた。「Google Arts & Culture」は世界各地の美術館や博物館などが所蔵する作品や文化遺産などを紹介するもので、劇場の参加は同劇場が初めてとなる。

●観客の視点で、その1年で最も優れている小劇場の公演を称える「カンゲキ大賞」が14日始動した。第1回は2022年の1年間に公演が行われた作品が選考対象で2023年春に発表予定。

●政府は19日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、まん延防止等重点措置の適用地域に13都県を加えることを決めた。加わるのは東京都と、埼玉、千葉、神奈川、群馬、新潟、愛知、岐阜、三重、香川、長

崎、熊本、宮崎の13都県。21日から2月13日までとした。

●第166回芥川賞・直木賞の選考会が19日開かれ、芥川賞に砂川文次『ブラックボックス』、直木賞に今村翔吾『塞王の桶』と米澤穂信『黒牢城』の2作品が選ばれた。

●文楽協会は21日、今年4月から豊竹呂太夫、竹本鍛太夫、竹本千歳太夫が「切語り」に昇格することを発表した。昇格は2009年の豊竹咲太夫以来で、4月以降は「切語り」は計4人となる。

●松竹株式会社が21日、「代官山メタバーススタジオ」を開設した。松竹グループの立体的なCG背景と現実世界で撮影する映像をリアルタイムで融合する手法＝バーチャルプロダクション手法の研究開発拠点となる。

●東京・下北沢に20日、ミニシアター「シモキター エキマエシネマ K2」がオープンした。座席数は71席。

●政府は25日、まん延防止等重点措置を新たに関西3府県など18道府県に適用することを決めた。追加となるのは北海道、青森、山形、福島、栃木、茨城、長野、静岡、石川、大阪、京都、兵庫、岡山、島根、福岡、大分、佐賀、鹿児島県の18道府県。青森、山形、長野、島根の4県は初の適用となる。期間は1月27日から2月20日まで。すでに適用されている沖縄、広島、山口の3県も今月31日までとなっている期限を2月20日まで延長するとした。

●江戸東京博物館が27日、令和4年4月1日から令和7年度中まで休館することを発表した。全面的な設備機器更新等の大規模改修工事のため。

●OSK日本歌劇団が30日、大阪・大阪松竹座で創立100周年記念式典を行った。

## 【2月】

●第32回下北沢演劇祭が1日開幕した。劇団東京夜光など18団体が参加した(一部、新型コロナウイルスの影響で公演中止・延期)。

●2009年6月に50歳の若さでこの世を去ったマイケル・ジャクソンの半生を描いたミュージカル『MJ』が現地時間1日、米ニューヨークのMJミュージカルシアターで開幕した。新型コロナウイルスの影響で予定より1年半遅れの開幕となった。

●政府は3日、まん延防止等重点措置について和歌山県を対象に追加することを決定した。適用期間は



5～27日とした。

●北京冬季オリンピックが4日開幕した。大会には約90カ国・地域から選手約2900人が参加。2月20日までの17日間、7競技・史上最多の109種目でメダルが争われた。

●若手バレエダンサーの登竜門・第50回ローザンヌ国際バレエコンクール最終選考が5日行われ、田中月乃さん(17)が2位に入賞した。

●日本芸術文化振興会は8日、2023年10月末に老朽化に伴う再整備のため閉場する国立劇場の3Dビュー+VR映像「3Dバーチャル 国立劇場VR」を公開した。同大劇場と小劇場の舞台・客席・ロビーなどを撮影。映像は随時新しい映像やコンテンツが追加される。

●米アカデミー賞の各賞候補が8日発表され、濱口竜介監督『ドライブ・マイ・カー』が作品賞をはじめ4部門にノミネートされた。日本映画が作品賞にノミネートされたのはこれが初めて。

●ステイブン・スピルバーグ監督の映画『ウエスト・サイド・ストーリー』が11日、日本公開された。

●政府は10日、2月13日が期限の東京など13都県のまん延防止等重点措置を3月6日まで延長するとともに、新たに高知県にも12日から3月6日まで同措置を適用することを決めた。

●日本民間放送連盟は17日、次期会長にフジテレビジョンの遠藤龍之介・取締役副会長が内定したと発表した。現在2期目の大久保好男会長が6月で任期満了を迎えるため。

●政府は18日、まん延防止等重点措置について、今月20日が期限となる京都・大阪・兵庫・北海道など16道府県と、27日が期限となる和歌山県について、3月6日まで延長することを決めた。一方、沖縄・山形・鳥根・山口・大分の5県は20日の期限をもって解除することを決めた。

●北京冬季オリンピックが20日閉幕した。日本は冬季オリンピックでは最多となる18個のメダルを獲得。閉会式は開会式同様、映画監督のチャン・イーモウが演出総監督を務めた。

●東京・板橋区立中央図書館で21日、「井上ひさしと『ポローニヤ紀行』展」が始まった。著書『ポローニヤ紀行』をテーマに、氏の視点から読み解く文化都市・ポローニヤの姿や、作家・劇作家としての世界観を演劇活動や劇団こまつ座の作品群を通して紹介。27日まで。

●ミュージカル映画『シラノ』が25日公開された。エドモン・ロスタンの戯曲『シラノ・ド・ベルジュラック』を原作としたオフ・ブロードウェイ・ミュージカル『シラノ』を映画化したもの。脚色・演出は2008年・10年にシアタークリエでの東宝版『レ

ント』の演出を務めたことでも知られるエリカ・シュミット。

●兵庫県但馬地域で唯一の映画館・豊岡劇場は28日、今年8月末で休館することを発表した。1927年(昭和2年)に開業。芝居小屋から映画館へと業態を変え、長年大衆文化の場として地元へ愛されてきた。

### 【3月】

●政府は4日、今月6日が期限となる31都道府県のまん延防止等重点措置をめぐり、18都道府県で延長し、13県は解除することを決めた。延長となるのは北海道、青森、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、静岡、愛知、岐阜、石川、京都、大阪、兵庫、香川、熊本の18都道府県。延長期間は3月21日まで。一方、解除となるのは福島、新潟、長野、三重、和歌山、岡山、広島、高知、福岡、佐賀、長崎、宮崎、鹿児島県の13県。

●御園座が9日、4月15日開幕の『陽春花形歌舞伎』の一般発売を開始した。今回から1000円の格安席(D席・二階最後列)の販売を試験的に導入。合わせて二階席(A～C席)の価格も下げた。

●3月4日に開幕した北京冬季パラリンピックの閉会式が13日行われた。ロシアによるウクライナ侵攻のため開幕前日にロシアとロシアに協力するベラルーシの選手が除外されるという、オリンピック憲章に反する戦時下での異例の大会となった。6競技78種目が行われ日本は7個のメダル(金4、銀1、銅2)を獲得した。

●宝塚音楽学校へ2020年春に入学した第108期生の卒業式が14日、宝塚バウホールで行われた。38人が新たなタカラジェンヌになり、4月23日からの星組公演で初舞台を踏む。

●東京宝塚劇場で上演中の月組『今夜、ロマンス劇場で』『FULL SWING』3月16日1時30分開演の公演で、2001年1月1日の現・東京宝塚劇場開場から来場者数2000万人の記録を達成。終演後のカーテンコールで記念セレモニーが行われた。

●今月21日が期限となる18都道府県のまん延防止等重点措置について政府は17日、すべての地域で解除することを決めた。重点措置がどの地域にも出されていない状況は2002年1月8日以来、約2か月半ぶり。

●東宝株式会社は22日、島谷能成社長の後任として、松岡宏泰・取締役常務執行役員(55)が昇格する人事を発表した。5月26日付。

●早稲田大学演劇博物館で24日から「2022年新収蔵品展」が始まった。山田東洋の「四代目中村福助」肖像画や、六世中村歌右衛門が描いた「紅白梅図屏風」などが展示された。8月7日まで。

●米・俳優のブルース・ウィリス(67)が健康上の理



由(失語症)のため俳優業を引退することを30日、家族が発表した。代表作に映画『ダイ・ハード』『シックス・センス』『アルマゲドン』など。

●公益財団法人文楽協会は30日、2017年6月から理事長を務めていた尾崎裕が29日付で退任、後任に大阪商工会議所会頭・鳥井信吾が就任したことを発表した。

#### 【4月】

●「都をどり」が1日、京都・南座で開幕した。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催。24日まで。

●今年開館40年を迎える熊本・熊本県立劇場が1日、記念ロゴとスローガン「日常に、劇場を。」を公表した。

●1970年に建てられ、半世紀以上市民に愛された埼玉県の「市民会館おおみや」が3月31日に閉館。1日に大宮駅東口の複合施設内に移転し「RaiBoc Hall」として開館した。5月には柿落しと歌舞伎公演(鴈治郎、愛之助ほか)が行われた。

●香川県琴平町は5日、新型コロナウイルスの影響で3年連続で開催中止となった春の恒例行事「四国こんびら歌舞伎大芝居」の代替イベントとして、青森県弘前市と提携した「四国金毘羅ねぶた祭り」を5月27～28日に開催することを発表した。巨大ねぶたには開催中止となった歌舞伎の演目の場面が描かれた。

●全国の書店員が最も売りたい本に贈る「2022年本屋大賞」の受賞作が6日発表され、逢坂冬馬の『同志少女よ、敵を撃て』が大賞に選ばれた。

●劇団四季が上演中のディズニーミュージカル「リトルマーメイド」が7日、日本上演9周年を迎えた。

●三島由紀夫が1970年3月に川端康成に送った書簡が、7日発売の文芸誌「新潮」5月号に掲載された。自決を遂げる8カ月前に、自らの作品と現実の政治状況がかみ合わない悩みを打ち明けたもので、自決への決意を固めるに至る時期の心の内を記したものとみられる。

●「第27回菜の花舞台 橋爪功とその仲間たち」が9～10日、静岡県伊豆市にある旧土肥小学校体育館で行われた。NHK朝の連続テレビ小説『青春家族』で土肥を訪れたことがきっかけで1994年に始まった同イベントは、毎年4月2週目に開催していたが、コロナ禍で2年連続で中止に。3年ぶりとなった今回は、橋爪功と演劇集団「円」のメンバーが朗読5作品を披露した。

●井上ひさしが20代半ばに書いたとみられる未発表戯曲の原稿が9日までに見つかった。題名は『うま一馬に乗ってこの世の外へ』で、戦国時代をしたたかに生きる庶民を描いた内容。

●松竹株式会社は13日、NFT事業に参入すると発表。NFT(ノン・ファンシブル・トークン)という代替不可能なデジタルトークン(暗号資産)を使い、メタバース(仮想空間)でアートや音楽、動画やゲームなどのコンテンツの固有性を証明することができるもので、NFTを利用した事業は世界的に拡大している。16日から『META歌舞伎 Genji Memories』(出演:中村孝太郎、中村隼人)を販売。

●兵庫・神戸ファッション美術館で16日、「華麗なる宝塚歌劇衣装の世界」が始まった。6月12日まで。

●劇団銅鑼が劇団創立50周年記念とアトリエ創立10周年を記念して22～24日まで無料でアトリエを開放する企画「どらふえす～アトリエ10th anniversary～」を開催した。作品のポスターや舞台写真、小道具などを展示するほか、朗読劇などが行われた。

●早稲田大学演劇博物館で26日から企画展「近松半二——奇才の浄瑠璃作者」が始まった。8月7日まで。

●宝塚歌劇を中心に国内外のミュージカルに関連商品を扱う「宝塚アン」有楽町駅前店が19日に閉店。東京・スクワール日比谷ビルに移転し、27日にリニューアルオープンした。

#### 【5月】

●松竹大谷図書館で2日、「一シネマ歌舞伎公開記念—『桜姫東文章』の世界」が始まった。片岡仁左衛門と坂東玉三郎出演のシネマ歌舞伎の公開を記念したもので、過去の上演スチールや昭和期の上演台本などが展示された。6月29日まで。

●福岡市で3日、ゴールデンウィーク恒例の「博多どんたく港まつり」が2日間の日程で始まった。新型コロナウイルスの影響で、メイン行事のパレードは3年ぶりの開催。鮮やかな衣装をまとった大勢の市民が参加した。

●京都・下鴨神社で3日、疾走する馬上から豪快に的を射抜く「流鏝馬神事」が3年ぶりに行われた。流鏝馬神事は京都三大祭りの一つ「葵祭」の無事を願い行われるが、15日の葵祭の行列は中止となった。

●4月29日から開催されていた「ふじのくににせかい演劇祭」が8日閉幕した。新型コロナウイルスの影響のため一昨年はオンライン配信、昨年は国内団体の野外劇のみとなったが、今年は3年ぶりに海外からの招聘を復活。ブルガリアのイヴァン・ヴァゾフ国立劇場『カリギュラ』や、フランス「テアトロ・マランドロ」オマール・ポラスの『私のコロンビーヌ』が上演されたほか、劇団SPACによる『ギルガメッシュ叙事詩』『ふたりの女』などが上演された。

●「日本復帰50周年記念 沖縄芸能フェスティバル2022」が8日、東京・国立劇場で開催された。人間国宝による琉球舞踊のほか、宮沢和史らによる沖縄

ポップスのアーティストによる楽曲披露、平田大一の演出による現代版組踊などが披露された。

●俳優の渡辺美佐子が9日、新劇交流プロジェクト2『美しきものの伝説』の会見で、同作を最後の舞台出演とすることを発表した。会見では「持病もございませんし、健康です」としながらも「元気がしばまないうちに」と決めたことを説明。舞台公演への出演は同作が最後となるが、ライブワークである朗読劇『夏の雲は忘れない』への出演は続けていく予定であることも発表した。

●東京・国立映画アーカイブの企画「発掘された映画たち」で15日と20日、『紅葉狩』赤染色版の発掘と林又一郎コレクション 初代中村鴈治郎をめぐるフィルム群』が上映された。日本人によって撮影された現存する最古の日本映画『紅葉狩』(明治32年)の赤染色・最長版や、初世中村鴈治郎の三回忌に編集された『中村鴈治郎 舞台のおもかげ』(昭和12年)の原板などが上映・紹介された。

●松竹株式会社は12日、歌舞伎座「六月大歌舞伎」第三部『与話情浮名横櫛』与三郎で出演予定の片岡仁左衛門が、頭皮に帯状疱疹を発症し、かつらをかけることができなことから休演することを発表した。それに伴い、第三部の演目が『ふるあめりかに袖はぬらさず』(坂東玉三郎ほか)に変更することも合わせて発表した。

●日本劇作家協会有志は13日、芸能界で相次ぐ性加害問題を受け、「演劇の創造現場からあらゆるハラスメントや性加害をなくしていくために私たちは発言し行動します」との声明を発表した。同協会有志は、映画監督有志が3月に出した「私たちは映画監督の立場を利用したあらゆる暴力に反対します」との声明に賛同し、必要な協力も行うとことを表明。同協会は2020年に協会内のセクシャルハラスメントの予防・解決に向けた取り組みの第一歩として、基本要綱を策定し被害の申告への対応手順をまとめているが、今後はハラスメント全般についても対応手順をまとめるとした。

●フランス学士院は18日までに、チノ・デルドゥカ世界文学賞に村上春樹が選ばれたことを発表した。チノ・デルドゥカはイタリアの著名な文化人の名を冠した文学賞で、仏国内外の作家を顕彰するもの。

●アルゼンチン中央銀行は23日、紙幣の新デザインを発表。統一テーマは「よみがえる歴史上の偉人」で、ミュージカル『エビータ』の主人公であるエバ・ペロンが新100ペソ札の顔に選ばれた。エバ・ペロンは2012〜16年の旧100ペソ札にも採用された。

●米・ニューヨーク市で23日、市内にある公衆電話の最後のブースが撤去された。一方で、ニューヨークの公衆電話は、コミックから映画、テレビ番組ま

でポップカルチャーに幅広く登場していることから、当局は不使用となったマンハッタン地区4カ所のブースは残すことにした。

●第75回カンヌ国際映画祭の授賞式が28日行われ、「ある視点」部門に出品された『PLAN 75』の早川千絵監督が、新人監督賞にあたるカメラドールのスペシャル・メンション(特別表彰)を受けた。また、是枝裕和監督初の韓国映画『ベイベー・ブローカー』に主演した韓・俳優のソン・ガンホが韓国俳優として初の男優賞を受賞。同作品は映画祭の正式な賞とは別にキリスト教関連団体が独自に贈るエキュメニカル賞を受賞した。

●松竹株式会社は30日、歌舞伎座8月興行から花道横を除く全座席を販売することを発表した。4階幕見席は販売しないとした。

## 【6月】

●小説家・劇作家の有吉佐和子の旧宅を復元した「有吉佐和子記念館」が5日、故郷の和歌山市にオープンした。

●秋田県と秋田市が共同で整備を進めてきた「あきた芸術劇場 ミルハス」の開館記念式典が5日行われた。6日から大、中、小ホールを除く施設の一般利用がスタート、グランドオープンは9月23日。

●那覇市の映画館「首里劇場」が閉館する見通しであることが5日分かった。現存する沖縄最古の映画館で1950年に営業開始。沖繩芝居や舞台公演に利用された後、映画館として営業していた。3代目館長が4月に死去し、遺族が閉館の意向を示した。

●青森県にある三沢市寺山修司記念館で7日、特別企画展「寺山修二のラジオドラマ」が始まった。これは同館の25周年記念の一環。8月からはラジオドラマ朗読劇場が行われた。2023年4月9日まで。

●ドリームジャンボ宝くじの抽選会が13日、兵庫県・宝塚大劇場で行われた。宝塚大劇場での抽選会は3回目、新型コロナウイルスの影響で歌劇の鑑賞と合わせた一般客の見学が中止されていたが3年ぶりに開催。花組トップスター・柚香光とトップ娘役・星風まどかが当選番号上3桁を決める大役を務めた。

●是枝裕和ら映画監督有志が14日、日本外国特派員協会にて記者会見を開き、業界の労働環境改善に向けた共助システムの構築を目指す団体を設立したと発表した。名称は「日本版CNC設立を求める会」で、フランスの国立映画映像センター(CNC)などを念頭に、映画界で被害が相次ぐハラスメント防止に関するガイドラインの草案も作成、今後、重点的に対策を訴えていくとした。

●国連の定める「世界難民の日」にあたる20日、水戸

芸術館の水戸芸術館タワーが「UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)カラー」のブルーにライトアップされた。

●米ニューヨークのブロードウェイの業界団体が21日、新型コロナウイルス感染防止に伴う観客へのマスク着用義務を7月1日から解除すると発表した。ただし着用の必要性は毎月検討していくことと発表した。

●JR東日本四季劇場[春]で上演中のディズニーミュージカル『アナと雪の女王』が24日、日本上演1周年を迎えた。

●日本芸術文化振興会は25日、東京・足立区と連携協力協定を締結した。これは国立劇場再整備期間中の主催公演の一部を足立区文化芸術劇場「シアター1010」を利用して実施するため。2023年12月の文楽公演を皮切りに公演が行われる予定。

●米国で翻訳された児童書の中から選出される「バチェルダー賞」が27日発表され、柏葉幸子『帰命寺横丁の夏』が選ばれた。

●劇団四季が29日、児童・青少年招待事業「ニッセイ名作シリーズ」日生劇場公演にて、劇団四季の新作ファミリーミュージカルの上演が決定したことを発表した。演目は『ジャック・オー・ランド〜ユーリと魔物の笛〜』で2023年より5年間、毎年6〜7月にかけて日生劇場にて上演される予定。

●大阪松竹座「七月大歌舞伎」の「船乗り込み」が29日、大阪市中心部で行われた。新型コロナウイルスの影響で、実施されたのは3年ぶりのこと。

●2023年7月に創立70周年を迎える劇団四季は30日、23〜24年にかけての「劇団創立70周年記念」上演ラインアップを発表した。『ひばり』『ジーザス・クライスト＝スーパースター』『ウィキッド』などの作品が並んだ。

●1992年にウィーンで初演されて以来、世界各国で人気を集めるミュージカル『エリザベト』の30周年を記念して、オーストリア・ウィーンのシェンブルク宮殿で30日コンサートが開催された。94年からエリザベト役を演じてきたマヤ・ハクフォートなどが圧巻のパフォーマンスを披露した。同コンサートは7月2日も開催した。

## 【7月】

●松竹大谷図書館は1日、所蔵する歌舞伎の戦前までの筋骨などをウェブ上で閲覧できるデジタルアーカイブを公開した。これまで芝居番付をデジタル化し公開していたが、今回、筋骨や絵本番付が加わったことで、歌舞伎座開場当時から戦前までの番付全種類がウェブで一覧できるようになった。

●豊島区芸術文化劇場(東京建物Brillia HALL)が5

日、座席を改修することを発表した。観客の声や、利用した主催者からの意見を踏まえ、舞台の視認性を高めるためとしている。同ホールは開場以降、「見づらい」との声が上がっていた。

●劇団わらび座が5日、演劇や民俗芸能を通じて地域振興を目指す協定を秋田県仙北郡美郷町と結んだ。わらび座は今後、県内の自治体と同様の協定を結び、相互の発展を目指す方針。

●サンライズプロモーション東京は6日、2022年12月1日に東京・有楽町マリオン別館7階に新劇場「music & theater I'M A SHOW TOKYO, YURAK UCHO」をオープンすると発表した。現在「オルタナティブシアター」として使用されている劇場で、筋内道彦がクリエイティブディレクターを務める。

●博多祇園山笠で15日早朝、フィナーレを飾る「追い山」を迎えた。開催は3年ぶり。

●京都で17日、祇園祭の前祭「山鉾巡行」が行われ、装飾品に彩られた23基の山鉾が都大路を進んだ。巡行は新型コロナウイルス感染拡大の影響で昨年まで中止しており、3年ぶりの実施となった。

●第167回芥川賞・直木賞の選考会が20日行われ、芥川賞に高瀬準子『おいしいごはんが食べられますように』、直木賞に崔美澄『夜に星を放つ』が選ばれた。芥川賞は1935年の創設以来初めて候補者がすべて女性となったことで注目を集めた。

●米国の権威ある漫画賞「アイズナー賞」で、『ポーの一族』『トーマの心臓』などで知られる漫画家・萩尾望都が「コミックの殿堂賞」を授賞したことが23日発表された。

●伊・ベネチアで開催中のピエンナーレ・ダンスで23日、勅使河原三郎が金獅子功労賞を授賞した。同賞はこれまでにピナ・バウシュやシルビー・ギエムなど著名な舞踊家に贈られている。

●東京・早稲田大学演劇博物館で25日、素浄瑠璃公演「女流義太夫 in エンバク」が行われた。企画展「近松半二——奇才の浄瑠璃作者」の関連事業で、同館の企画で女流義太夫が披露されるのは46年ぶり。

●世界保健機構(WHO)は27日、日本の新型コロナウイルスの新規感染者が24日までに1週間で約97万人の上り、世界最多になったと発表した。

●1968年に開館し、日本のミニシアター文化を支え続けてきた東京・神田神保町の映画館「岩波ホール」が29日閉館し、54年に渡る歴史に幕を下ろした。

## 【8月】

●7月31日から行われていた“文化部のインターハイ”と呼ばれる第46回全国高校総合文化祭が2日に閉幕。演劇部門で、四国ブロック代表として出場した松山東高等学校演劇部が最優秀賞の文部科学大臣

奨励賞に輝いた。同校初、愛媛県勢として3度目の快挙となった。

●2日に開幕した青森ねぶた祭が7日閉幕した。3年ぶりの開催となり105万人の人数で賑わった。

●宝塚歌劇団は8日、10月25日に予定されていた第56回「宝塚舞踊会」の開催を見送ることを発表した。新型コロナウイルスの影響により、公演準備が困難なため。同会は2009年から2年に一度開催され、本来なら2021年に開催予定だったが、コロナ禍のため延期に。今回が2019年10月以来3年ぶりの開催となるはずだった。

●世界保健機構(WHO)は10日、今月7日までの1週間の新型コロナウイルスの新規感染者数が日本で149万6000人あまりに上り、3週連続で世界最多となったと発表。世界全体の週間感染者の21%を日本が占める結果となった。

●徳島市の阿波踊りが12日開幕した。3年ぶりの開催となったが11日の前夜祭から15日までの延べ5日間、踊りが繰り広げられた。一方、東京高円寺阿波おどりは屋外での開催は中止に。27～28日に座・高円寺で屋内舞台公演として実施された。

●日本初演30周年記念公演として上演中のミュージカル「ミス・サイゴン」が8月21日夜の部で上演1500回を達成した。

●世界保健機構(WHO)は25日、2022年に入ってから新型コロナウイルスで死亡した人が、世界で100万人に上ったと発表した。2019年末に中国で初めて同ウイルスが検出されて以降、累計で約645万人の死亡がWHOに報告されている。

## 【9月】

●1989年(平成元年)から続く地域密着型演劇祭「池袋演劇祭」が1日閉幕した。今年は豊島区内14会場39団体が参加。

●米・ニューヨーク市観光局が6日、「秋のNYCブロードウェイ・ウィーク」を開始した。同企画は年2回開催されていたが、2019年以来3年ぶりの実施に。11年目を迎える今回は21のショーが参加し、期間中は“2 for 1チケット”(2名分のチケットを1名分の料金で購入が可能)で観劇出来る。25日まで。

●4月30日に開幕し、JR東日本四季劇場[秋]で上演中の劇団四季オリジナルミュージカル「バケモノの子」で6日、通算来場者数10万人を達成した。

●松竹株式会社は7日、10月以降の歌舞伎座での公演体制の移行を発表した。客席内およびロビーでの食事は黙食で認めるほか、ドリンク等の貸し出しの再開、劇場スタッフによる切符もぎりの再開を決めた。

●漫画「ベルサイユのばら」の誕生50周年を記念し

て、完全新作となる劇場アニメが制作されることが7日発表された。

●東北6県の若手演劇人が東北各地で演劇を上演するプロジェクト「ミチゲキ2022」が9日開幕した。11月27日まで。

●第79回ヴェネチア国際映画祭が10日閉幕。バーチャルリアリティー技術などの創造表現手段を対象とするクロスリアリティ(XR)部門にノミネートされていた、WOWOWとCinemaLeapが共同開発したVR演劇『Typeman』が、イタリアの独立系映画評論家が選出するプレミオ・ビサト・ドーロ(金鯉賞)最優秀短編賞を受賞した。

●兵庫県豊岡市を中心とした但馬地域に、全国から劇団やパフォーマーが集まり、100以上の演目が披露される「豊岡演劇祭2022」が、15日閉幕した。平田オリザがフェスティバルディレクターを務め、80団体が参加する大規模イベント。新型コロナウイルスの影響により2021年は中止となったため、2年ぶりの開催となった。9月25日まで。

●世界の優れた芸術家に贈られる高松宮殿下記念世界文化賞の第33回受賞者が15日発表された。演劇・映像部門には、映画『ベルリン・天使の詩』や『Pina/ピナ・バウシュ 踊り続けるいのち』などで知られる独・映画監督ヴィム・ヴェンダースが選ばれた。

●演出家の中島諒人が芸術監督を務め、鳥取県鳥取市の「島の劇場」を中心に行われる「島の演劇祭15」が16日開幕した。3年ぶりの海外の劇団も招聘し、公演やワークショップが行われた。10月2日まで。

●米・ニューヨークのブロードウェイで上演中のミュージカル『オペラ座の怪人』が2023年2月18日に終演することが16日、分かった。新型コロナウイルスの影響で一時的に追い込まれ、2021年秋に再開したが、ニューヨーク・タイムズ紙(電子版)によると、高額な維持費を賄うほどの観客が戻っていないことが理由だという。ブロードウェイでは1988年1月に初演され、来年35周年を迎える。数あるブロードウェイ・ミュージカルでも史上最長で、同紙によればこれまでに1980万人が観劇し、13億ドル(約1860億円)の興行収入を得た。

●文化庁は20日、優れたドキュメンタリー映画を表彰する2022年度の文化庁映画賞の大賞に、ろう者を親に持つ少女たちを追った『私だけが聴こえる』を選んだと発表した。同庁は複数の顕彰制度を芸術選奨に集約する方針で、映画賞としての贈呈はこれが最後となった。

●NODA・MAP公演『Q:A Night at the Kabuki』が22日、ロンドンのサドラーズウェルズ劇場で閉幕した。英国のロックバンド、QUEENのアルバム「オペラ座の夜」の楽曲を使った作品。3日間のチケッ



トは完売。高い期待を超える作品に、満員の約1500人の観客がスタンディングオベーションを送った。

●欧州でカンヌ、ベネチア、ベルリンの3大国際映画祭に次ぐ、スペイン「第70回サンセバスチャン国際映画祭」の授賞式が24日開かれ、コンペティション部門で『百花』の川村元気監督が監督賞を受賞した。日本人の同賞受賞は初めて。

●カナダで開かれていた北米最大級のアニメ映画祭「オタワ国際アニメーション映画祭」で24日、短編部門グランプリに和田淳監督『半島の鳥』、長編部門グランプリに山村浩二監督『幾多の北』が選ばれた。また榊原澄人監督『飯縄緑日』が最優秀ノンラティブ賞を獲得した。

●7月8日に奈良市内で演説中に銃で撃たれて死亡した安倍晋三元総理大臣の国葬が27日、日本武道館で執り行われた。

●東宝株式会社は27日、「帝劇ビル」及び「帝国劇場」を2025年を目前に閉館及び建て替える予定であることを発表した。同劇場は1911年に近代日本の文化芸術のフラッグシップとして開設された後、1966年に建替え竣工した2代目で、日本を代表する演劇・ミュージカルの聖地として愛されてきた。新ビル及び新劇場の施設計画は同日現在未定。

●岡山市は29日、2023年9月開館の新市民会館「岡山芸術創造劇場 ハレノワ」の事業部門を統括するプロデューサーに、彩の国さいたま芸術劇場のゼネラルアドバイザー・渡辺弘氏を起用すると発表した。渡辺氏は演劇ジャーナリストとして活動後、銀座セゾン劇場、まつもと市民芸術館の開館準備や運営に携わった。

●香川県琴平町は29日、旧金毘羅大芝居(通称・金丸座)で毎年春に行われている歌舞伎公演について、2023年も開催を見送ることを発表した。新型コロナウイルスの影響で、町は「本来の歌舞伎の臨場感や、醍醐味が損なわれるのは本意とはしない」とした。開催の見送りは4年連続となった。

## 【10月】

●早稲田大学演劇博物館で1日、特別展「シェイクスピア戯曲全37作品翻訳記念 Words, words, words. 一松岡和子とシェイクスピア劇翻訳」が始まった。2020年12月に氏が37戯曲を完訳したのを記念したもので、直筆翻訳ノートや翻訳原稿、上演台本などを通して、氏がシェイクスピアの言葉と向き合ってきた日々の軌跡をたどる。2023年1月22日まで。

●大阪市「扇町ミュージアムキューブ」が2023年10月、複合施設「iMall」内に閉館することが3日分かった。「大阪の若者文化の発信地」で2003(平成15)年に閉業した小劇場「扇町ミュージアムスクエア」の

コンセプトを継承する施設。251席のステージ劇場のほか、107席、55席の平土間型の小劇場スペースなどを擁する施設となる予定。

●宝塚歌劇団は4日、2023年4月22日の雪組宝塚大劇場公演より、休演日を水曜日から月曜日に変更することを発表した。これに伴い、千秋楽は日曜日、新人公演は木曜日、初日は金曜日が基本となる。また同日以降に実施する宝塚バウホール公演も、休演日を月曜日とすることを発表した。

●新宿メトログループは4日、歌舞伎町から日本文化を発信することを目的とした商業ビル「ハナミチ東京 歌舞伎町」を2023年8月末に竣工することを発表した。合わせて同年10月には同ビル地下1階に新世代大衆演劇場「歌舞伎町劇場」がオープンすることも発表。山手線内唯一の大衆劇場となる。

●スウェーデン・アカデミーは6日、2022年ノーベル文学賞を仏・女性作家アニー・エルノーに授与すると発表した。自伝的な小説で知られて、代表作に『シンプルな情熱』『ある女』『凍りついた女』など。

●英国ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー(RSC)による舞台『となりのトトロ(MY NEIGHBOR TOTORO)』が8日、ロンドンのバービカン劇場で開幕した。映画で音楽を手がけた久石譲が舞台化を提案し、宮崎駿監督がこれを快諾して始まったプロジェクトで、RSCと日本テレビが共同製作、同作初めての舞台化作品となった。チケットは5月17日の販売初日に3万枚を完売、同劇場の初日販売記録を更新した。

●「複合現実(MR)」の技術で、歌舞伎の解説や映像をゴーグル型端末に表示する装置を松竹株式会社が開発し、大阪松竹座で17日、報道関係者向けの実証実験を行った。MRはコンピュータで作った仮想現実と現実世界を重ね合わせる技術。公演中の『日本怪談歌舞伎』で、役名や台詞の意味が表示されたほか、竹本などの表現も説明。紅葉に囲まれる場面では、葉が舞うCG映像が表示される演出もあった。松竹では2025年の事業化を目指している。

●関西の芸術・文化活動を支える民間組織「アーツサポート関西」は17日、文具メーカー「コクヨ」から文楽の支援のため500万円の寄付を受けることを発表した。2022年度から2年間、文楽協会が若者向けに実施する「ワンコイン文楽」に活用される。

●宝塚歌劇団は18日、年末に開催を予定していた「タカラヅカスペシャル」の開催を、昨年と一昨年に引き続き、本年も見送ることを発表した。同団は10月開催予定だった「第56回宝塚舞踊会」の開催も見送っていた。

●東映は19日、東京・渋谷にある直営劇場「渋谷TOEI①・渋谷TOEI②」を2022年12月4日の営業を

もって閉館すると発表した。経営方針による決定。1953年11月18日に東映の直営劇場第1号として開業して以来、69年の歴史に幕を下ろす。

●鴻上尚史が率いる「虚構の劇団」の解散公演『日本人のへそ』が21日、東京の座・高円寺1で開幕した。12月11日、東京芸術劇場シアターウエスト公演まで。

●21日の東京外国為替市場の円相場は、一時1ドル＝150円31～40銭に下落、約32年ぶりの円安水準を更新した。米長期金利の上昇を背景に日米金利差が強く意識され、円売り・ドル買いが一段と進行、円の下落が止まらない状況となった。

●第35回東京国際映画祭が24日開幕。東京宝塚劇場で行われたオープニングセレモニーには、OGの柚希礼音、紅ゆずる、美弥りか、七海ひろきが登場し、大ヒット映画を原作にした舞台『オーシャンズ11』の楽曲「FATE CITY」を披露した。同祭は11月2日まで。期間中に169作品が上演予定で、最高賞を競うコンペティション部門には邦画3作を含む15本が候補入りした。

●米・ニューヨークのメトロポリタン歌劇場やカーネギーホールなどは24日、マスクの着用義務を撤廃した。

●松竹株式会社は28日、今月31日「十三代目市川團十郎白猿襲名記念歌舞伎座特別公演」から劇場指定の関係者による“大向う”を再開することを発表した。観客による“大向う”は引き続き中止する。

●松竹大谷図書館で28日、第94回所蔵資料展示「近代の團十郎 九代目から十二代目の軌跡」が始まった。12月23日まで。

●福岡・博多座で30日に上演されたミュージカル「ミス・サイゴン」で、市村正親がエンジニア役として出演回数900回を達成した。

●ジャニーズ事務所は31日、滝沢秀明副社長が同日付で退任し、事務所を退社したことを発表した。グループ会社・ジャニーズアイランドの社長も9月26日付で退任し、後任には20th Centuryの井ノ原快彦が務める。

●市川海老蔵が31日、東京・歌舞伎座「十三代目市川團十郎白猿襲名記念歌舞伎座特別公演」の顔寄せ手打式を経て、市川團十郎を正式に襲名した。

## 【11月】

●歌舞伎の公式有料動画配信サービス・歌舞伎オンデマンドが、海外に向けた配信を1日から開始した。配信地域は、オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、台湾、イギリス、アメリカの9カ国。配信されるのは、坂東玉三郎・シネマ歌舞伎『鶯娘』、尾上菊五郎ほか『弁天娘女白波』など。

●2019年10月31日の火災で焼失した沖縄・首里城の復興式が10月29日から行われ、3日に最終日を迎

えた。最終日は首里城正殿の構造材を首里城に運ぶ儀式「木遣行列」と復元工事の起工式が行われた。首里城正殿は2026年秋頃までに完成の見込み。一方で城内で被災した美術工芸品の修復はさらに長期間を要すると見通されている。

●「第7回松江＊森の演劇祭」が5日、鳥根県松江市市内の「しいの実シアター」などで始まった。劇団あしぶえ、人形劇団ブーク、人形劇団むすび座など国内外11の作品が上演された。13日まで。

●第9回「東宝シンデレラ」と新設された「TOHO NEW FACE」オーディションの受賞者が6日に発表された。「東宝シンデレラ」グランプリは史上最年少10歳、小学4年生の白山乃愛が、「TOHO NEW FACE」グランプリは小学5年生11歳の小谷興会が選ばれた。各ミュージカル賞には14歳の山戸穂乃葉、13歳の高橋佑太郎が選ばれた。

●名古屋四季劇場で上演中のミュージカル『キャッツ』が11日、日本上演39周年を迎えた。1983年に東京・西新宿のテント式仮設劇場で初演された同作は、これまで全国9都市で上演を重ね、同日までに総公演回数は10948回、総入場者数は1069万人にのぼった。

●木下グループが共同製作した「ブロードウェイ・ミュージアム(The Museum of Broadway)」が15日、米・ニューヨーク45番街にオープンした。ブロードウェイの歴史と文化を伝える、演劇に特化した市場初の没入型・体験型ミュージアムで、1700年代から現在までの500以上の作品に触れることが出来る。

●NTTドコモ東北支社などが19日、第5世代移动通信システム(5G)を活用した、オーケストラのリモート演奏によるミュージカル開催の実証実験に成功した。これはオーケストラのいる会場とミュージカルを上演する会場の離れた2点を5G回線で繋ぎ、その場で共演しているような臨場感や遠隔開催の有効性を検証したもので、観客からは「音のズレがなく、まるで生演奏のようで素晴らしい」などの感想が寄せられた。

●今月12日に始まった「関西演劇祭2022」が20日終了した。COOL JAPAN PARK OSAKA SSホールを舞台に今年は10劇団が参加した。

●昨年11月に亡くなった中村吉右衛門の一周忌に際し、都内で「二代目中村吉右衛門 偲ぶ会」が21日開かれた。舞台関係者やファンら約650人が参列、名優の死を悼み、功績を称えた。

●NHKは22日、2022年度中間決算を発表。受信契約件数の減少などで、事業収入は前年度中間期比41億円減の3480億円、このうち受信料は同37億円減の3377億円となり、いずれも3年連続の減少となった。

- 東急Bunkamuraは23日、COCOON PRODUCTION「コクーン アクターズ スタジオ」を2024年4月に開講することを発表した。期間は2025年3月までの1年間。シアターコクーン芸術監督・松尾スズキを主任に、演劇の未来を拓く若者たちを指導する。
- 12月4日から京都・南座で始まる「當る卯歳 吉例顔見世興行 東西合同大歌舞伎」の開催を前に、「まねき上げ」の作業が25日行われた。
- 松竹株式会社は28日、歌舞伎座の客席に関し、令和5年1月から花道横も含め全座席を販売することを発表した。但し、幕見席は引き続き販売を見合わせる。

## 【12月】

- 国立劇場は9日、2023年1月の新春歌舞伎公演から、客席を花道脇も含めた全席販売することを発表した。合わせて、専用エリアから劇場指定の関係者による大向うを一部日程で試験的に実施することも発表した。
- 初代国立劇場さよなら記念事業「国立劇場オープンシアター」が11日・12日に開催された。ロビー見学やバックステージツアー、大劇場ロビー正面にある「連獅子」像の前にレクチャーなどが行われた。
- 東京ドームと吉本興行ホールディングスは12日、東京ドームシティ内に新たな劇場を建設することを決定し、同日着工したことを発表した。演劇と演芸の新たな拠点を目指す新劇場は、座席数は709席、2023年12月に開業予定。
- 2006年にロンドンで生まれた同名ミュージカルを映画化した『トゥモロー・モーニング』が12日、日本公開された。同作は2013年に石井一孝、島田歌穂、田代万里生、新妻聖子といった実力派キャストで上演され話題を呼んだ。映画版にはウエストエンド史上最年少の28歳で『オペラ座の怪人』ファントム役に抜擢され、ロンドンのほかブロードウェイでも活躍するラミン・カリムルー、『レ・ミゼラブル』エポニーヌ役でウエストエンド・デビューを果たし、25周年記念コンサートでも同役を務めたサマンサ・パークスの共演も話題に。
- 日本漢字能力検定協会は12日、今年一年の世相を表す「今年の漢字」で、最も応募数が多かった漢字を発表した。今年は『戦』で、ロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮の相次ぐミサイル発射などによって戦争を意識したこと、また円安や物価高など身近な戦いが影響したことなどが影響したとみられる。
- 東宝株式会社は13日の記者会見で、邦画と洋画を合わせた今年の国内興行収入の総額が2100億円前後となる見通しであることを明らかにした。2020年は1432億円、21年は1618億円まで落ち込んでお

- り、2000億円台に回復するのは3年ぶりのこと。
- 16～19日まで福島県南相馬市の劇場で公演が予定されていた、東京電力福島第1原発の事故を題材とした舞台『家を壊す一他、短編一』の公式サイトが15日更新され、全公演の中止が発表された。これは作・演出の谷賢一(劇団「DULL-COLORED POP」主宰)への告訴ならびにハラスメント行為の告発があったことを踏まえ、関係者が協議し決断したもの。谷はホームページに反論を掲載。一方で、谷が演出部に所属する劇団「青年団」主宰の平田オリザは16日、谷に対し退団措置をとったことを明らかにした。
- 宝塚歌劇団は16日、2023年5月6日初日の宙組東京宝塚劇場公演より、平日2回公演実施日において、これまでの18時30分公演の開演時間を30分繰り上げ18時開演に変更することを発表した。
- ロシアの侵攻が続くウクライナの首都キエフを拠点とする「ウクライナ国立歌劇場」のメンバー4人が16日、神奈川県民ホールで記者会見を開き、2023年1月まで行う日本公演の概要を明らかにした。歌劇場の団員らは侵攻後、国外に逃れるなどしたが現在は出演者約500人で公演を再開。来日公演ではオペラ『カルメン』、バレエ『ドン・キホーテ』などを上演する予定。同歌劇場のバレエ芸術監督に今月就任した寺田宣弘は「団員たちは心から自分の文化、芸術を愛している。ウクライナの芸術が生きていることを証明できると思います」と語った。
- 大阪・国立文楽劇場で25日、正月の縁起物「にらみ鯛」を飾りつける年末恒例の行事が行われた。



# 令和4年 雑誌掲載戯曲

2022年1月～12月

## 【テアトロ】(カモミール社)

### 1月号

◆「滅びんかな、滅びんかな」オリジナル決定稿 作：江原吉博

◆「サワ氏の仕業」劇団ジャブジャブサーキット上演台本 作：はせひろいち

### 2月号

◆「風森挽歌」劇団萬国四季協会上演台本 作：響リュウ

◆「O・ヘンリー篇 ペーパーバック・ストーリーズ」七尾市民劇団N 第23回上演台本 上演台本：原田一樹

### 3月号

◆「喜劇 総理、死んでもらいます！」劇団NLT上演台本、NLTコメディ新人戯曲賞アイデア賞 作：中川一美 潤色：池田政之

### 4月号

◆「風」 作：相澤嘉久治

◆「明日になれば」ザ・小町上演台本 作：ふたくちつよし

### 5月号

◆「高けれども晴天なり」第34回テアトロ新人戯曲賞最終候補作 作：島原夏海

◆「北の大地、南の島。」作：江原吉博

### 6月号

◆「真理の勇氣―戸板潤と唯物論研究会」第23回テアトロ演劇賞受賞後第1作、青年劇場上演台本 作：古川健

### 7月号

◆「田園1968」文学座上演台本 作：東憲司

### 8月号

◆「無言のまにまに」トム・プロジェクトプロデュース上演台本 作：ふたくちつよし

### 9月号

◆「待ちぼうけの町」俳優座上演台本 作：堀江安夫

### 10月号

◆「みやこほてる」劇団句組上演台本 作：大森句子

◆「キングダースペース 短編演劇2023」作：原田一樹

### 11月号

◆「鴉沼」萬国四季協会上演台本 作：響リュウ

◆「女優」三條三輪百歳記念の為の台本 ファンタスティックロマン劇場 その1(窓には白い櫻が映えて) その2(窓には青い月がのぞいて) その3(窓の外は雨) 作：三條三輪

### 12月号

◆「長男―二幕の喜劇―」作：アレクサンドル・ヴァムピーロフ 訳：安達紀子

## 【悲劇喜劇】(早川書房)

### 1月号

◆「もしも命が描けたら」作：鈴木おさむ

◆「彼女を笑う人がいても」作：瀬戸山美咲

◆「hana 1970b、コザが燃えた日」作：畑澤聖悟

### 3月号

◆「だからピリーは東京で」作：蓬莱竜太

◆「ライフ イン ザ シアター」脚本：デヴィッド・マメット 翻訳：小田島恒志

### 5月号

◆「ダウト～疑いについての寓話」作：ジョン・パトリック・シャンリィ 翻訳：小川絵梨子

◆「もはやしずか」作：加藤拓也

### 7月号

◆「消えちゃう病とタイムバンカー」作：長久允

◆「渴求」作：松村翔子

### 9月号

◆「ヘイゼンベルク」脚本：サイモン・ステイーヴンス 翻訳：小田島創志

◆「ドローが落下する」作：加藤拓也

◆「9人の迷える沖縄人(うちなーんちゅ)」作：安和学治 国吉誠一郎

### 11月号

◆「レオポルトシュタット」作：トム・ストッパード 翻訳：広田敦郎

◆「クランク・イン！」作：岩松了

## 【演劇と教育】(晩成書房 編集・日本演劇教育連盟)

### 1+2月号

◆小学生向脚本「とまとのきもち」作：小林幸子

◆中学生向脚本「目黒のサンマかよ！」作：小林円佳

### 3+4月号

◆小学生向脚本「クリスマス工房」作：柏木陽

◆中学生向脚本「あなたとショッピング」作：田名うさこ

### 5+6月号

◆中学生向脚本「空がとつても広いから」作：関いづみ

◆中学生向脚本「明日、昨日になる今日」作：代市圭吾

### 7+8月号

◆中学生向脚本「いろとりどりの紅葉かな」作：横山淳子

◆高校・一般向脚本「酒とお蕎麦と男と女」作：亀尾佳宏

#### 9+10月号

◆中学生向脚本「望月君の円周率」オーディオドラマ・朗読劇 2022年子どもが上演する劇脚本募集・入選作：長尾ジョージ

◆高校生向脚本「ランナー～走らねばならぬ～」2022年子どもが上演する脚本募集・入選 原案：安保健 作：河野大地

◆小学生向脚本「守れ！ぼくらのメタセコイア」2022年子どもが上演する脚本募集・準入選 作：たかはしひでかず

#### 11+12月号

◆中学生向脚本「不機嫌ジェニー」2022年子どもが上演する脚本募集・準入選 作：柏木陽

## 令和4年 演劇関係新刊書

令和4年(2022年)1月～12月の間に刊行された主な演劇関係新刊図書一演劇論、演劇評論、随筆、芸談、戯曲集一を収録した。

※書名、著者・編集者名、税込価格、出版社名の順に記載した。

### 《1月》

「演劇と教育 2022年02月号」 990円 晩成書房

「大原櫻子演劇報告書」 大原櫻子(著) 1,980円 小鳥遊書房

「演劇界 2022年02月号」 1,480円 小学館

「われらの仲間 『森は生きている』とともに」 渡辺芳子(著) 1,980円 一葉社

「女優」 大鶴義丹(著) 1,870円 集英社

「act guide 2022 Season10 (TVガイドMOOK)」 1,100円 東京ニュース通信社

「新訳ベケット戯曲全集 3 フィルム」 サミュエル・ベケット(著) 5,170円 白水社

「重畳たるタクティクス 日中戦争期の話劇をめぐる」 楊韜(著) 8,800円 汲古書院

「STAGE navi vol.64(2022) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「Stage fan vol.17(2022) (MEDIABOY MOOK)」 1,045円 メディアボーイ

「別役実の風景」 野田映史(編) 2,200円 論創社

「『かもめ』&『ワーニャ伯父さん』 現代語訳チェー

ホフ四大劇 I」 今西薫(著) 1,650円 学術研究出版

「宝塚イズム 44 特集袖香・月城・彩風・礼・真風、各組新体制を占う！」 藪下哲司(編著) 1,760円 青弓社

「えんぶ 2022年02月号」 600円 えんぶ

「本願寺近代三代傳持全集 第14巻」 大谷暢順(著) 11,000円 一般財団法人本願寺文化興隆財団

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年1/26号」 2,036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年2/9号」 2,036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン

「日本の文芸術 (角川ソフィア文庫 千夜千冊エディション)」 松岡正剛(著) 1,694円 KADOKAWA

「宝塚GRAPH 2022年02月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「理想の夫 改版 (角川文庫)」 オスカー・ワイルド(著) 770円 KADOKAWA

「Le Cing 2022年02月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2022年01月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「モリエール傑作戯曲選集 4」 モリエール(著) 3,080円 鳥影社

「文学作品に学ぶ英語の読み方・味わい方 英語読みのプロが語る」 江藤秀一(編) 3,080円 開拓社

「竹内統一郎集成 Volume2 カップルズ」 竹内統一郎(著) 2,970円 松本工房

「絶版文庫万華鏡」 近藤健児(著) 2,200円 青弓社

「Prince of STAGE 話題のミュージカル&2・5次元を徹底特集! Vol.14 (ぶんか社ムック)」 1,800円 ぶんか社

「spoon.2Di vol.82 (KADOKAWA MOOK)」 1,313円 プレビジョン

「TVガイドperson vol.113 (TOKYO NEWS MOOK)」 990円 東京ニュース通信社

「国立文楽劇場 2巻セット」 国立文楽劇場営業課(編集) 700円 日本芸術文化振興会

「アジア遊学 265 宗教芸能としての能楽」 高橋悠介(編) 3,300円 勉誠出版

「能楽の源流を東アジアに問う 多田富雄『望恨歌』から世阿弥以前へ」 野村伸一(編) 1,980円 風響社

「宇治拾遺物語を読む 中世説話論」 葛綿正一(著) 15,400円 翰林書房

「永山瑛太、写真」 永山瑛太(著) 3,850円 マガジンハウス

「台詞は喋ってみなければ分からない」 石丸謙二郎(著) 1,650円 敬文舎

「TVガイドdan Vol\_40(2022JANUARY) 吉沢亮 (TOKYO NEWS MOOK)」 1,350円 東京ニュース通信社

「ザテレビジョンSQUARE 04 最高潮ファビュラス橋本祥平 (カドカワエンタメムック)」 1,870円 KADOKAWA

「Sparkle vol.47(2022) (メディアボーイMOOK)」 1,800円 メディアボーイ

「かず (日本のことばずかん)」 神永暁(監修) 2,750円 講談社

「文学部という冒険 文脈の自由を求めて (人文知の復興)」 田島正樹(著) 2,860円 NTT出版

「Newマジメが肝心 オスカー・ワイルド日本語訳」 今西薫(著) 1,100円 学術研究出版

「テアトロ 2022年02月号」 1,300円 カモミール社

「act guide 2022Season10 (TVガイドMOOK)」 1,100円 東京ニュース通信社

「女優」 大鶴義丹(著) 1,870円 集英社

「われらの仲間 『森は生きている』とともに」 渡辺芳子(著) 1,980円 一葉社

《2月》

「大衆演劇へようこそ 美しくっておもしろい、庶民の娯楽、ここにあり! (星海社新書)」 おーちようこ(著) 1,298円 星海社

「演劇界 2022年03月号」 1,480円 小学館

「歌舞伎江戸百景 浮世絵で読む芝居見物ことはじめ」 藤澤茜(著) 2,420円 小学館

「人文学のレッスン 文学・芸術・歴史」 小森謙一郎(編) 2,750円 水声社

「曽我物語 源氏をめぐる陰謀と真実 (ホビージャパンMOOK 歴史探訪MOOKシリーズ)」 1,980円 ホビージャパン

「小説如月小春前夜」 伴剛峰(著) 2,420円 言視舎

「デヴィッド・ボウイ:美しきアクター」 大久達朗(監修) 2,750円 リットーミュージック

「ステージスクエア vol.55 加藤シゲアキ『肅々と運針』/藪宏太×元木湧/松島聡 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 日之出出版

「STAGE navi vol.65(2022) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「美しき宝塚の世界 歌劇とレビューで読み解く」 石坂安希(著) 1,980円 立東舎

「歌舞伎評判記集成 第3期第5巻 自天明四年至天明六年」 役者評判記刊行会(編) 17,600円 和泉書院

「悲劇喜劇 2022年03月号」 1,500円 早川書房

「百年目の『ユリシイズ』」 下楠昌哉(編著) 3,300円 松籟社

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年2/23号」 2,036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年3/9号」 2,036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン

「高田歌舞伎を継いだ女優 大津波をまぬがれた資料から」 木下繁喜(著) 1,650円 はる書房

「TVガイドdan Vol\_41 (2022FEBRUARY) 赤楚衛二×坂口健太郎 (TOKYO NEWS MOOK)」 1,350円 東京ニュース通信社

「二代目大薩摩文太夫と大薩摩の系譜」 高橋省(著) 1,980円 東京図書出版

「宝塚 変容を続ける『日本モダニズム』 (岩波現代文庫 学術)」 川崎賢子(著) 2,002円 岩波書店

「宝塚GRAPH 2022年03月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2022年02月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「Unknown Emotional—Time 七海ひろき写真集」 七海ひろき(著) 4,950円 小学館

「中国古典名劇選 3」 後藤裕也(編訳) 4,620円

東方書店

「**通達 (東欧の想像力)**」 ヴァーツラフ・ハヴェル  
(著) 2,420円 松籟社

「**能アラカルト**」 庄瀬みき(著) 2,200円 せせら  
ぎ出版

「**穴があったら入ります PHOTO ESSAY BOOK**」  
高畑充希(著) 2,200円 パルコエンタテインメン  
ト事業部

「**STEPPIN'OUT! 挑戦し続ける大人たちへ  
VOLUME23(2022APRIL) 三宅健**」 ブラウンズ  
ブックス(編) 660円 ブラウンズブックス

「**le mec 大貫勇輔写真集**」 KOHEY KANNO (撮  
影) 3,000円 講談社

「**還暦のシンデレラガール やっと笑える自分にな  
れた**」 竹原芳子(著) 1,540円 サンマーク出版  
「**テアトロ 2022年03月号**」 1,300円 カモミール社

### 〔3月〕

「**リムーバリスト 引越し屋 クラブ デッド・  
ホワイト・メールズ 女と男とシェイク (オース  
トラリア演劇叢書)**」 デヴィッド ウィリアムソン  
(著) 2,200円 オセアニア出版

「**啓蒙期イタリアの演劇改革 ゴルドーニの場合**」  
大崎さやの(著) 4,070円 東京藝術大学出版会

「**演劇と教育 2022年04月号**」 990円 晩成書房

「**現代東南アジアにおける…ラーマーヤナ演劇 イ  
ンドネシア・カンボジア・シンガポール・タイ**」  
福岡まどか(編著) 2,970円 めこん

「**演劇界 2022年04月号**」 1,480円 小学館

「**『地域市民演劇』の現在 芸術と社会の新しい結び  
つき**」 日比野啓(編) 3,520円 森話社

「**『魅せる』ヒント 仕事も人間関係もうまくいく最  
高のパフォーマンス 元宝塚歌劇団『宙組』初代組長  
がアドバイス**」 大峯麻友(著) 1,540円 時事通信  
出版局

「**Sparkle vol.48(2022) (メディアボーイMOO  
K)**」 1,800円 メディアボーイ

「**STAGE navi vol.66(2022) (NIKKO MOOK  
TVnaviプラス)**」 1,020円 産経新聞出版

「**Stage fan vol.18(2022) (MEDIABOY MOO  
K)**」 1,045円 メディアボーイ

「**シェイクスピアとの対話**」 狩野良規(著) 2,970  
円 国書刊行会

「**昭和文学研究 第84集 特集〈感染〉と文学の百  
年**」 昭和文学会(編) 4,620円 昭和文学会

「**国を越えてアジアの芸術**」 高橋宏幸(編著) 3,850  
円 彩流社

「**ビュッシー・ダンボア 悲劇**」 ジョージ・チャッ

プマン(作) 3,410円 春風社

「**歌舞伎特選DVDコレクション 2022年3/23号**」  
2,036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン

「**歌舞伎特選DVDコレクション 2022年4/6号**」  
2,036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン

「**ダンススクエア vol.49 堂本光一×佐藤勝利/  
IMPACTors (HINODE MOOK)**」 日之出出版  
(著) 980円 日之出出版

「**近代博多興行史 地方から中央を照射する**」 岩井  
眞實(著) 19,800円 文化資源社

「**舞踏馬鹿 土方巽の言葉とともに**」 正朔(著)  
2,420円 論創社

「**宝塚ファーストフォトブック 2022-2023 永久輝  
せあ**」 1,900円 宝塚クリエイティブアーツ

「**宝塚GRAPH 2022年04月号**」 750円 宝塚クリ  
エティブアーツ

「**歌劇 2022年03月号**」 750円 宝塚クリエイティ  
ブアーツ

「**Le Cing(ル・サンク) 2022年04月号**」 1,000円  
宝塚クリエイティブアーツ

「**善人たち**」 遠藤周作(著) 1,870円 新潮社

「**神州無頼街 (K.Nakashima Selection)**」 中  
島かずき(著) 1,980円 論創社

「**現代沖縄文学史**」 落合貞夫(著) 1,980円 ポー  
ダーインク

「**琉球文学大系 1 おもろさうし 上**」 名桜大学  
『琉球文学大系』編集刊行委員会(編集) 5,940円  
ゆまに書房

「**ミュージカル 2022年3-4月号**」 1,000円 ミュ  
ージカル出版社

「**『 Kult・ヴァイルの世界 実験的オペラからミュ  
ージカルへ』** 大田美佐子(著) 4,840円 岩波書店

「**義太夫節淨瑠璃未翻刻作品集 7期 10巻セツ  
ト**」 鳥越文蔵監修 30,800円 玉川大学出版部

「**センチユリー 2022年3月号 生きた証を求めて  
一果てなき能楽の先に、世阿弥が見出したもの**」  
国際通信社編集部(企画・原案) 1,650円 USPマ  
ネジメント(国際通信社グループ)

「**野村萬斎 一なぜ彼は一人勝ちなのかー (新潮新  
書)**」 中村雅之(著) 新潮社

「**舞台のかすみか晴れるころ**」 有松遼一(著) 2,970  
円 ちいさいミシマ社

「**梅は匂ひよ桜は花よ人は心よ**」 野村幻雪(著)  
3,520円 藤原書店

「**テアトロ 2022年04月号**」 1,500円 カモミール社

「**成瀬巳喜男演出術 役者が語る演技の現場** 信販  
(ワイズ出版映画文庫)」 村川英(著) 1,540円 ワ  
イズ出版

## 《4月》

「児童・青少年演劇ジャーナル 「げき」 24」 児童・青少年演劇ジャーナル(げき)編集委員会(編) 1,760円 晩成書房

「シアターアーツ 66 2022春」 国際演劇評論家協会日本センター(編) 1,540円 晩成書房

「演劇の公共圏」 クリストファー・バルミ(著) 3,600円 春風社

「演劇年鑑 2022」 日本演劇協会(監修) 3,300円 日本演劇協会

「小劇場演劇とは何か (立教大学日文叢書)」 後藤隆基(編) 3,960円 ひつじ書房

「三島由紀夫の方法 (三島由紀夫研究)」 松本徹(責任編集) 2,750円 鼎書房

「朝倉摂の見つめた世界 絵画と舞台と絵本と」 朝倉摂(作) 2,750円 青幻舎

「パリ・オペラ座とグランド・オペラ」 丸本隆(編) 5,390円 森話社

「すべての季節のシェイクスピア (ちくま文庫)」 松岡和子(著) 924円 筑摩書房

「岡倉天心の旅路」 岡倉登志(著) 3,080円 新典社

「ステージスクエア vol.56 Snow Man 『滝沢歌舞伎ZERO 2022』/ 『Endless SHOCK—Eternal—』 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版

「STAGE navi vol.67(2022) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「令嬢ジュリー (近代古典劇翻訳(注釈付)シリーズ)」 アウグスト・ストリンダベリ(著) 1,430円 論創社

「かもめ (近代古典劇翻訳(注釈付)シリーズ)」 アントン・チェーホフ(著) 1,430円 論創社

「アメリカの声をひろう 言葉で闘う語り手たち」 能勢卓(監修) 2,750円 ナカニシヤ出版

「ステージランプリ vol.17(2022SPRING) (主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編) 1,760円 主婦の友インフォス

「舞台芸術 25 『創造』と『批評』のプロセスに向き合う」 京都芸術大学舞台芸術研究センター(企画・編集) 1,650円 角川文化振興財団

「近代歌舞伎年表 名古屋篇第16巻 昭和七年～昭和十三年」 日本芸術文化振興会国立劇場調査養成部調査資料課近代歌舞伎年表編集室(編) 20,900円 八木書店出版部

「act guide 2022Season11 Endless SHOCK—Eternal—/春夏の国内外注目作特集 (TVガイドMOOK)」 1,100円 東京ニュース通信社

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年4/20号」

2,036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年5/4号」 2,036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン

「咲かせて三升の團十郎」 仁志耕一郎(著) 2,640円 新潮社

「宝塚おとめ 2022年度版 (タカラヅカMOOK)」 1,650円 宝塚クリエイティブアーツ

「'21 宝塚Stage Album (タカラヅカMOOK)」 1,650円 宝塚クリエイティブアーツ

「宝塚GRAPH 2022年05月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「ザ・タカラヅカ 宙組特集 8 (タカラヅカMOOK)」 2,400円 宝塚クリエイティブアーツ

「Le Cing(ル・サンク) 2022年05月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2022年04月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「永山智行戯曲集」 永山智行(著) 2,200円 而立書房

「てんもんたいわ 戯曲集」 早川マサユキ(著) 1,650円 風媒社

「ウクライナの大作家ミハイル・ブルガーコフ作品集 権力への譴諷 知の新書・ウクライナ応援緊急出版編 (知の新書 SONDEOS)」 ミハイル・ブルガーコフ(著) 1,980円 文化科学高等研究院出版局

「中野トク小伝 寺山修司と青森・三沢」 小菅麻起子(著) 2,420円 幻戯書房

「寺山修司研究 第12号」 国際寺山修司学会(編) 2,750円 文化書房博文社

「スペイン新古典悲劇選」 富田広樹(訳) 4,400円 論創社

「夏目漱石は子役チャップリンと出会ったか?」 漱石研究蹊蹠 原武哲(著) 3,080円 鳥影社

「14歳からの文楽のすゝめ」 竹本織太夫(監修) 2,090円 実業之日本社

「朝日文左衛門の交遊録 『鸚鵡籠中記』から」 大下武(著) 1,760円 ゆいぽおと

「awesome! Vol.49 (シンコー・ミュージック・ムック)」 1,650円 シンコーミュージック・エンタテイメント

「謡の家の軌跡 浅野太左衛門家基礎資料集成 (研究叢書)」 大谷節子(編著) 13,200円 和泉書院

「ジブン未来図鑑 職場体験完全ガイド+ 4 演じるのが好き!」 3,190円 ポプラ社

「テアトロ 2022年05月号」 1,300円 カモミール社

「谷崎潤一郎と映画の存在論」 佐藤未央子(著) 4,400円 水声社

「ロミオとロザライン」 鴻上尚史(著) 1,980円

## 論創社

「STEPPIN'OUT! 挑戦し続ける大人たちへ  
VOLUME24(2022JUNE) 玉木宏」ブラウンズ  
ボックス(編集) 660円 ブラウンズボックス  
「井上靖の文学 一途で烈しい生の探求(近代文学  
研究叢刊)」高木伸幸(著) 7,480円 和泉書院  
「悲劇喜劇 2022年05月号」1,500円 早川書房

## 《5月》

「舞台の面影 演劇写真と役者・写真師」村島彩加  
(著) 4,950円 森話社  
「近松半二 一奇才の浄瑠璃作者」原田真澄(編著)  
2,000円 春陽堂書店  
「演劇と教育 2022年06月号」990円 晩成書房  
「パロック演劇の詩学 比較演劇論」藤井康生(著)  
4,620円 森話社  
「ステージスクエア vol.57 相葉雅紀『ようこそ、  
ミナト先生』/坂本昌行×末澤誠也/『滝沢歌舞伎  
ZERO 2022』(HINODE MOOK)」日之出出版  
(著) 980円 日之出出版  
「岩松了戯曲集 1986-1999」岩松了(著) 4,180円  
リトルモア  
「乙女の教室(集英社文庫)」美輪明宏(著) 737  
円 集英社  
「【オンデマンドブック】近松浄瑠璃集 下」松崎  
仁(編集)/原道生(編集)/井口洋(編集)/大橋正  
叔(編集) 9,020円 岩波書店  
「STAGE navi vol.68(2022) (NIKKO MOOK  
TVnaviプラス)」1,020円 産経新聞出版  
「Stage fan vol.19(2022) (MEDIABOY MOO  
K)」1,045円 メディアボーイ  
「映画脚本の教科書プロが教えるシナリオのコツ  
心得・法則・アイデア・分析(コツがわかる本)」  
衣笠竜屯(監修) 1,980円 メイツユニバーサルコ  
ンテンツ  
「コメディ・オヴ・マナーズの系譜 王政復古期か  
ら現代イギリス文学まで」玉井暉(編著) 3,300円  
音羽書房鶴見書店  
「BANANA FISH The Stage公式メモリアルフォ  
トブック」「BANANA FISH」The Stage製作委員  
会(監修) 2,750円 小学館  
「沖縄を求めて沖縄を生きる 大城立裕追悼論集」  
又吉栄喜(編) 2,750円 インパクト出版会  
「柔らかに揺れる」福名理徳(著) 2,420円 白水社  
「バナナの花は食べられる」山本卓卓(著) 2,420  
円 白水社  
「劇場の近代化 オンデマンド版」永井聡子(著)  
5,060円 思文閣出版

「【オンデマンドブック】歌舞伎十八番集」郡司正  
勝(編集) 8,360円 岩波書店  
「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年5/18号」  
2,036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン  
「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年6/1号」  
2,036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン  
「今すぐできる日本の音楽授業プラン 伝統音楽か  
ら歌唱共通教材まで(ライブ!音楽指導クリニッ  
ク)」城佳世(編著) 1,980円 学事出版  
「『未熟さ』の系譜 宝塚からジャニーズまで(新潮  
選書)」周東美材(著) 1,705円 新潮社  
「宝塚ファーストフォトブック 2022-2023 和希そ  
ら(タカラヅカMOOK)」1,900円 宝塚クリエ  
イティブアーツ  
「宝塚GRAPH 2022年06月号」750円 宝塚クリ  
イティブアーツ  
「Le Cing(ル・サンク) 2022年06月号」1,000円  
宝塚クリイティブアーツ  
「歌劇 2022年05月号」750円 宝塚クリイティ  
ブアーツ  
「シラー名作集 新装復刊」フリードリヒ・シラー  
(著) 7,150円 白水社  
「血の晩」秋野一之(著) 990円 一粒書房  
「近代出版史探索 6」小田光雄(著) 6,600円 論  
創社  
「【オンデマンドブック】近世芸道論」西山松之助  
(編集)/渡辺一郎(著)/郡司正勝(著) 12,100円  
岩波書店  
「この世の真実が見えてくる(井上ひさし発掘エッ  
セイ・セレクション)」井上ひさし(著) 2,200円  
岩波書店  
「ミュージカル 2022年5-6月号」1,000円 ミュ  
ジカル出版社  
「Prince of STAGE 話題のミュージカル&2・5  
次元を徹底特集! Vol.15(ぶんか社ムック)」  
1,900円 ぶんか社  
「テアトロ 2022年06月号」1,300円 カモミール社  
「魔法のほね」安田登(著) 1,760円 亜紀書房  
「【オンデマンドブック】大和猿楽史参究」表章  
(著) 14,300円 岩波書店  
「13歳からの著作権 正しく使う・作る・発信する  
ための『権利』とのつきあい方がわかる本(コツが  
わかる本 ジュニアシリーズ)」久保田裕(監修)  
1,793円 メイツユニバーサルコンテンツ  
「TVガイドStage Stars vol.18 (TOKYO NEWS  
MOOK)」1,980円 東京ニュース通信社

## 《6月》



「現代ロシア演劇 ソ連邦崩壊からパンデミックとウクライナ侵攻まで (水声文庫)」 岩田貴(著) 3,520円 水声社

「賢治学+ 第2集 特集地域・賢治・演劇」 岩手大学人文社会科学部宮沢賢治いわて学センター(編) 2,200円 杜陵高速印刷出版部

「幕の開く前に 僕の演劇雑記帳 増補改訂版」 勝田安彦(著) 3,500円 カモミール社

「ブロッコリー・レボリューション」 岡田利規(著) 1,980円 新潮社

「Sparkle vol.49(2022) (メディアボーイMOOK)」 1,800円 メディアボーイ

「テアトロ 2022年07月号」 1,300円 カモミール社

「STAGE navi vol.69(2022) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「Stage fan vol.20(2022) (MEDIABOY MOOK)」 1,045円 メディアボーイ

「客席のわたしたちを圧倒する (井上ひさし発掘エッセイ・セレクション)」 井上ひさし(著) 2,200円 岩波書店

「シェイクスピアの世紀末」 玉泉八州男(著) 3,630円 小鳥遊書房

「根津権現前より 藤澤清造随筆集 (講談社文芸文庫)」 藤澤清造(著) 2,200円 講談社

「悲劇喜劇 2022年07月号」 1,500円 早川書房

「すきっと すきっとした気分で暮らすために Vo 1.38 特集…TURNING POINT」 道友社(編) 660円 天理教道友社

「江戸の怪談がいかにして歌舞伎と落語の名作となったか」 櫻庭由紀子(著) 1,980円 笠間書院

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年6/15号」 2,036円 アセット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年6/29号」 2,036円 アセット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年7/13号」 2,036円 アセット・コレクションズ・ジャパン

「宝塚GRAPH 2022年07月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2022年06月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「Rain on Neptune (タカラヅカMOOK)」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ

「Le Cing(ル・サンク) 2022年07月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ

「楽劇サロメ (オペラ対訳×分析ハンドブック)」 リチャルト・シュトラウス(著) 2,200円 アルテスパブリッシング

「寺山修司の百首 超新星の輝き (歌人入門)」 藤原龍一郎(著) 1,870円 ふらんす堂

「ナルキッソスの怒り」 セルヒオ・ブランコ(作) 1,650円 北隆館

「ザ・ウェルキン」 ルーシー・カークウッド(著) 2,420円 小鳥遊書房

「アンソロジー・プロレタリア文学 5 驚異」 棚沢健(編) 3,300円 森話社

「すばる 2022年07月号」 970円 集英社

「三島由紀夫最後の言葉 三島由紀夫と『図書新聞』の20年 (〈知〉のフロントラインへ『図書新聞』セレクション)」 高原英理(著) 1,320円 武久出版

「ドライブインカリフォルニア(2022)」 松尾スズキ(著) 2,420円 白水社

「世界の仮面文化事典」 吉田憲司(編著) 19,800円 丸善出版

「ミュージカルの歴史 なぜ突然歌いだすのか (中公新書)」 宮本直美(著) 924円 中央公論新社

「リトル・ゾンビガール」 徳野有美(著) 1,210円 NHK出版

「現代ロシア演劇 ソ連邦崩壊からパンデミックとウクライナ侵攻まで (水声文庫)」 岩田貴(著) 3,520円 水声社

「集中講義平家物語 こうして時代は転換した (教養・文化シリーズ)」 安田登(著) 990円 NHK出版

「拾われた男 (文春文庫)」 松尾論(著) 869円 文藝春秋

「石原家の人びと 新版 (新潮文庫)」 石原良純(著) 737円 新潮社

「TALK to YOU 対談集」 吉沢亮(著) 1,980円 集英社

「拾われた男 上」 松尾論(作) 880円 文藝春秋

「W! VOL.33 町田啓太表紙巻頭SPECIAL 古川雄大 伊藤健太郎 長妻怜央 植田圭輔 綱啓永 結木滉星 (廣済堂ベストムック)」 2,200円 廣済堂出版

「精霊たちのブルース」 原田龍二(著) 1,320円 万代宝書房

《7月》

「ともに生きるための演劇 (教養・文化シリーズ NHK出版学びのきほん)」 平田オリザ(著) 737円 NHK出版

「演劇年鑑2023年版 増刊テアトロ 2022年07月号」 3,500円 カモミール社

「テアトロ 2022年08月号」 1,300円 カモミール社

「ローシー・オペラと浅草オペラ 大正期翻訳オペラの興行・上演・演劇性」 中野正昭(著) 5,390円 森話社

「演劇と教育 2022年08月号」 990円 晩成書房



「笑いの力、言葉の力 井上ひさしのバトンを受け継ぐ (世界をカエル)」 渡邊文幸(著) 1,430円 理論社

「中学校創作脚本集 2022」 中学校創作脚本集 2022編集委員会(編) 2,420円 晩成書房

「STAGE navi vol.70(2022) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「Stage fan vol.21(2022) (MEDIABOY MOOK)」 1,045円 メディアボーイ

「東海高校・中学校カヅラカタ歌劇団の奇跡」 鈴木隆祐(著) 1,760円 駒草出版

「ステージグランプリ vol.18(2022SUMMER) (主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編) 1,980円 主婦の友インフォス

「映画論叢 60 西條康彦/フレッド・ウォーラー/日下武史/筑波澄子」 丹野達弥(編) 1,100円 国書刊行会

「宝塚イズム 45 特集柚香・月城・彩風・礼・真風、同期の固い絆」 薮下哲司(編著) 1,760円 青弓社

「知識ゼロからの歌舞伎入門」 松本幸四郎(監修) 1,540円 幻冬舎

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年7/27号」 2,036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年8/10号」 2,036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「初期歌舞伎・琉球宮廷舞踊の系譜考 三葉葵紋、枝垂れ桜、藤の花」 児玉絵里子(著) 11,000円 錦正社

「大江戸の娯楽裏事情 庶民も大興も大興奮! (朝日新書)」 安藤優一郎(著) 869円 朝日新聞出版

「鶴屋南北未刊作品集 第3巻 鶴屋南北・直江重兵衛篇」 古井戸秀夫(校訂・編集) 31,900円 白水社

「宝塚GRAPH 2022年08月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2022年07月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「TAKARAZUKA REVUE 2022 (タカラヅカMOOK)」 2,200円 宝塚クリエイティブアーツ

「FLY WITH ME (タカラヅカMOOK)」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ

「Q/フェイクスピア」 野田秀樹(著) 2,090円 新潮社

「お住の霊 岡本綺堂怪異小品集 (平凡社ライブラリー)」 岡本綺堂(著) 1,980円 平凡社

「プレスレス/カムアウト 新版」 坂手洋二(著) 1,980円 而立書房

「ハル、色 竹本義太夫伝」 岡本貴也(著) 1,760

円 幻冬舎

「ミュージカル 2022年7-8月号」 1,000円 ミュージカル出版社

「『劇団四季ミュージカルバケモノの子』ナビゲーションBOOK (カドカワムック)」 ニュータイプ(編) 1,980円 KADOKAWA

「『ミス・サイゴン』の世界 戦禍のベトナムをくぐり抜けて 増補改訂版」 麻生享志(著) 2,530円 小鳥遊書房

「国立文楽劇場 2巻セット」 国立文楽劇場営業課(編集) 700円 日本芸術文化振興会

「日本古典風俗辞典 (角川ソフィア文庫)」 室伏信助(著) 1,496円 KADOKAWA

「疎開日記 谷崎潤一郎終戦日記 (中公文庫)」 谷崎潤一郎(著) 1,100円 中央公論新社

「大俳優丹波哲郎 (ワイズ出版映画文庫)」 丹波哲郎(著) 1,650円 ワイズ出版

「翻訳書簡『赤毛のアン』をめぐる言葉の旅」 上白石萌音(著) 1,760円 NHK出版

「エターナル・トラベラー 永遠を旅する男」 榎木孝明(著) 1,760円 でくのぼう出版

「あの子は、わたし。ホロコートを演じた『いとしま8・6平和劇』(感動ノンフィクションシリーズ)」 ささきあり(著) 1,650円 佼成出版社

## 《8月》

「悲劇喜劇 2022年09月号」 1,500円 早川書房

「日経エンタテインメント! 演劇Special 舞台『ハリリー・ポッターと呪いの子』特集号 (日経BPムック)」 日経エンタテインメント!(著) 1,760円 日経BP

「コロナ禍を生き抜く演劇論 学生が見た2020/22ドキュメント」 西堂行人(編著) 2,200円 論創社

「ポストドラマ演劇はいかに政治的か? レーマン演劇論集」 ハンス=ティース・レーマン(著) 4,400円 白水社

「言葉を手がかりに 見ること、伝えること、考えること」 永井愛(著) 1,760円 集英社クリエイティブ

「サロメ幻想 ワイルド、ピアズリーから現代作家まで フルカラーヴィジュアル版 (TH ART SERIES)」 オーブリー・ピアズリー 1,980円 アトリエサード

「自由が上演される」 渡辺健一郎(著) 1,430円 講談社

「石巻学 歩く見る聞く石巻 vol.7 (特集)芝居の街石巻」 石巻学プロジェクト(編) 1,650円 石巻学プロジェクト

「わがままな選択」 横山拓也(著) 1,793円 河出

書房新社

「act guide 2022Season12 流星の音色／初秋の国内外注目作特集 (TVガイドMOOK)」 1,210円 東京ニュース通信社

「ステージスクエア vol.58 堂本光一×北山宏光『Endless SHOCK』／坂本昌行／長野博／安田章大 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版

「詩人の魂久保田万太郎」 瀬戸口宣司(著) 2,860円 アーツアンドクラフツ

「テアトロ 2022年09月号」 1,300円 カモミール社  
「瓶詰めのは海は寝室でリュズタンの夢をうたった」 末原拓馬(著) 1,540円 講談社

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年8/24号」 2,036円 アシエツト・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年9/7号」 2,036円 アシエツト・コレクションズ・ジャパン

「中村吉右衛門舞台に生きる 芸に命を懸けた名優」 中村吉右衛門(著) 4,950円 小学館

「宝塚ファーストフォトブック 2022-2023 聖乃あずか (タカラヅカMOOK)」 1,900円 宝塚クリエイティブアーツ

「宝塚GRAPH 2022年09月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「花食いの系譜 女性作家・『少女の友』・宝塚少女歌劇」 宮内淳子(著) 4,180円 翰林書房

「歌劇 2022年08月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「ザ・タカラヅカ 花組特集 8 (タカラヅカMOOK)」 2,400円 宝塚クリエイティブアーツ

「Le Cing(ル・サンク) 2022年09月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ

「新しい女 19世紀パリ文化界の女王マリー・ダグー伯爵夫人 新版」 ドミニク・デザンティ(著) 2,970円 藤原書店

「マクロブロスの処方箋 (岩波文庫)」 カレル・チャペック(著) 660円 岩波書店

「ハザマ モノローグ集」 渋谷悠(著) 1,980円 論創社

「新編生命の真相 第49巻 耶蘇伝・釈迦と維摩詰・月愛三昧 上」 谷口雅春(著) 1,676円 光明思想社

「新編生命の真相 第50巻 耶蘇伝・釈迦と維摩詰・月愛三昧 中」 谷口雅春(著) 1,676円 光明思想社

「小説の戦後 三島由紀夫論」 藤田佑(著) 5,500円 鼎書房

「オペラ座の怪人 オリジナル版 改訂版 (ミュージカル・サウンド・シリーズ)」 2,200円 ドレミ

楽譜出版社

「なりたい！が見つかるお仕事図鑑」 朝日新聞出版(編著) 1,650円 朝日新聞出版

「LISTEN」 山口智子(著) 4,400円 生きのびるブックス

「高倉健 みんなが愛した最後の映画スター (KA WADEムック)」 春日太一(編) 1,782円 河出書房新社

「森に暮らし、鳥になった人。(TOKYO NEWS BOOKS)」 柳生博(著) 3,300円 東京ニュース通信社

「blue THE Stage—RUN— 岡宮来夢、立花裕大、糸川耀士郎。一生見てられる。(白夜ムック)」 1,980円 白夜書房

「人生ってなんだ (講談社+α新書)」 鴻上尚史(著) 968円 講談社

「プロフェッショナルな人たちのお仕事図鑑 3巻 日本がほころぶカルチャー編」 お仕事図鑑編集委員会(編) 3,080円 文研出版

「私のそれいゆ日記 駆け出し記者の銀座八丁」 内海宜子(著) 1,100円 風詠社

## 《9月》

「ドイツ演劇パースペクティヴ」 寺尾格(著) 3,850円 彩流社

「KUMAMOTO 総合文化誌 第40号 特集1演劇・演舞は今、復活の兆し 特集2熊本の珍しかもん」 880円 熊本出版文化会館

「アメリカ演劇 33 アメリカ演劇と政治特集」 日本アメリカ演劇学会(編) 1,650円 日本アメリカ演劇学会

「演劇と教育 2022年10月号」 990円 晩成書房

「もっと超越した所へ。(徳間文庫)」 根本宗子(著) 770円 徳間書店

「狂気・言語・文学 (叢書・ウニベルシタス)」 ミシェル・フーコー(著) 4,180円 法政大学出版局

「STAGE navi vol.72(2022) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「ピランデッロ戯曲集 2 エンリーコ四世／裸体に衣服を」 ルイジ・ピランデッロ(著) 4,400円 水声社

「Sparkle vol.50(2022) (メディアボーイMOOK)」 1,800円 メディアボーイ

「今日もまた余力ゼロで生きてます。(水野美紀の子育て奮闘記)」 水野美紀(著) 1,540円 朝日新聞出版

「アルトール・コレクション 3 カイエ」 アントナン・アルトール(著) 5,720円 月曜社

「act guide 2022Season13 DREAM BOYS／秋

の国内外注目特集 (TVガイドMOOK) 1,210円 東京ニュース通信社

「Stage fan vol.22(2022) (MEDIABOY MOOK)」 1,045円 メディアボーイ

「演博、そして酒のことなど 鳥越文蔵エッセイ集」 鳥越文蔵(著) 1,650円 文化資源社

「芸術教育がひらく可能性 山田康彦芸術教育論集『芸術による教育』思想のパスベクティブ」 山田康彦(著) 3,300円 晩成書房

「インプロで自己表現力アップ! 誰でも『発表』できるようになる教室アクティビティ50 (シリーズ教師のネタ1000)」 三好真史(著) 1,848円 黎明書房

「坂東玉三郎の歌舞伎めりえ」 林美木子(画) 2,640円 小学館

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年9/21号」 2,036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年10/5号」 2,036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「岡本綺堂怪談文芸名作集」 岡本綺堂(著) 3,300円 双葉社

「宝塚GRAPH 2022年10月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2022年09月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「宝塚ファーストフォトブック 2022-2023 風間柚乃 (タカラヅカMOOK)」 1,900円 宝塚クリエイティブアーツ

「Le Cing(ル・サンク) 2022年10月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ

「ODYSSEY (タカラヅカMOOK)」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ

「推しを守るためにこれだけは知っておきたい法律の話」 小学館集英社プロダクション(編) 1,540円 小学館集英社プロダクション

「1と0と加藤シゲアキ」 加藤シゲアキ(編著) 1,980円 KADOKAWA

「薔薇とサムライ2 海賊女王の帰還 (K.Nakashima Selection)」 中島かずき(著) 1,980円 論創社

「新編生命の真相 第51巻 耶蘇伝・釈迦と維摩詰・月愛三昧 下」 谷口雅春(著) 1,676円 光明思想社

「ハロルドとモード」 コリン・ヒギンズ(著) 2,200円 二見書房

「ミュージカル 2022年9-10月号」 1,000円 ミュージカル出版社

「山崎陽子の世界 朗読ミュージカル 脚本集 3」 山崎陽子(著) 1,980円 書肆フローラ

「線は、僕を描く 横浜流星が生きた水墨の世界」 講談社(編) 1,980円 講談社

「私。本仮屋ユイカ」 中山雅文(写真) 3,300円 ワニブックス

「テアトロ 2022年10月号」 1,300円 カモミール社

「話題作・名作で楽しむ劇あそび特選集 CD付きですぐ使える」 井上明美(編著) 2,200円 自由現代社

## 《10月》

「拾われた男 下」 松尾諭(原作) 880円 文藝春秋

「悲劇喜劇 2022年11月号」 1,500円 早川書房

「松田正隆 1 夏の砂の上/坂の上の家/蝶のやうな私の郷愁 (ハヤカワ演劇文庫)」 松田正隆(著) 1,980円 早川書房

「中学生のための脚本集U-15 下」 日本演劇教育連盟 2,530円 晩成書房

「(伊達騒動)の真相 (歴史文化ライブラリー)」 平川新(著) 2,200円 吉川弘文館

「クロノス・ジョウンターの黎明」 梶尾真治(著) 1,870円 徳間書店

「どんなふう」 サミュエル・ベケット(著) 3,520円 河出書房新社

「STAGE navi vol.73(2022) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「ステージスクエア vol.59 正門良規『ヴィンセント・イン・ブリクストン』/神山智洋/浜田崇裕/A&!group (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版

「歌舞伎を読む 念の巻 敵討ちの裏表」 大矢芳弘(編著) 4,180円 森話社

「岩松了戯曲集 2000-2022」 岩松了(著) 4,180円 リトルモア

「山本健吉 芸術の発達は不断の個性の消滅 (ミネルヴァ日本評選)」 井上泰至(著) 3,850円 ミネルヴァ書房

「アルディからラシーヌへ フランス17世紀悲劇作品総覧」 橋本能(著) 3,960円 駿河台出版社

「ステージグランプリ vol.19(2022AUTUMN) (主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編) 1,980円 主婦の友インフォス

「読む戯曲の読み方 久保田万太郎の台詞・ト書き・間」 石川巧(著) 5,500円 慶應義塾大学出版会

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年10/19号」 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年11/2号」 2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「宝塚GRAPH 2022年11月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2022年10月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

ブアーツ

「Le Cing(ル・サンク) 2022年11月号」 1,000円  
宝塚クリエイティブアーツ

「江戸の残映 綺堂怪奇随筆選」 岡本綺堂(著)  
2,860円 白澤社

「琉球文学大系 14 組踊 上」 名桜大学『琉球文学  
大系』編集刊行委員会(編纂) 6,820円 ゆまに書房

「ヴェニス商人 (物語で読むシェイクスピア)」  
斉藤洋(著) 1,650円 静山社

「語りの愉楽」 はんざわかんいち(著) 4,510円  
明治書院

「親愛なるレニー レナード・バーンスタインと戦  
後日本の物語」 吉原真里(著) 2,750円 アルテス  
パブリッシング

「八波むと志と東京喜劇」 森田嘉彦(著) 1,760円  
朝日新聞出版

「教養としての能楽史 (ちくま新書)」 中村雅之  
(著) 924円 筑摩書房

「ボワロと私 デビッド・スーシェ自伝」 デビッ  
ド・スーシェ(著) 2,970円 原書房

「ヒカル OF MUSE 日本語のオペラを創った音楽  
家・林光との遭遇特集」 山名萌絵(著) 1,760円  
東京図書出版

「テアトロ 2022年11月号」 1,300円 カモミール社

《11月》

「ハリー・ポッターと呪いの子舞台裏をめぐる旅  
世界中を魅了する魔法界の名舞台実現までの道の  
り」 ジョディ・レベンソン(著) 6,380円 静山社

「川端康成 新資料による探求」 深澤晴美(著)  
6,600円 鼎書房

「村山知義の演劇史」 井上理恵(著) 3,520円 社  
会評論社

「演劇と教育 2022年12月号」 1,320円 晩成書房

「同調圧力のトリセツ (小学館新書)」 鴻上尚史  
(著) 990円 小学館

「Stage fan vol.23(2022) (MEDIABOY MOO  
K)」 1,045円 メディアボーイ

「STAGE navi vol.74(2022) (NIKKO MOOK  
TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「合田佐和子 帰る途もつもりもない」 合田佐和子  
(作) 2,970円 青幻舎

「ファウスト」 ゲーテ(著) 5,940円 作品社

「ハムレット シェイクスピア 悩みを乗り越えて  
悟りへ (NHK『100分de名著』ブックス)」 河合  
祥一郎(著) 1,100円 NHK出版

「貴族の世界 シークレット歌劇團0931」 愛海夏  
子(編著) 3,300円 北海道新聞社

「舞台『魔法使いの約束』 Documentary Book」  
3,850円 ネルケプランニング

「日本新劇全史 第3巻 昭和四十一年～昭和六十  
四年」 大笹吉雄(著) 41,800円 白水社

「幕末明治翻訳文学史 第1巻」 川戸道昭(著) 28,600  
円 国書刊行会

「世襲 政治・企業・歌舞伎 (幻冬舎新書)」 中川  
右介(著) 1,540円 幻冬舎

「歌舞伎の解剖図鑑 イラストで小粋に読み解く歌  
舞伎ことはじめ 最新版」 辻和子(著) 1,980円  
エクスナレッジ

「狐忠信 (見て聞いてまねして楽しむ歌舞伎絵本)」  
中村耆太郎(著) 1,870円 くもん出版

「茶壺 (見て聞いてまねして楽しむ歌舞伎絵本)」  
中村耆太郎(著) 1,870円 くもん出版

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年11/16号」  
2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年11/30号」  
2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年12/14号」  
2,299円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「日本文化 POP&ROCK」 セバスチャン高木と  
和楽web編集部(著) 1,980円 笠間書院

「十二支外伝 スーパーアニマルミステリーツアー」  
福井栄一(著) 2,640円 工作舎

「宝塚GRAPH 2022年12月号」 750円 宝塚クリ  
エイティブアーツ

「歌劇 2022年11月号」 750円 宝塚クリエイティ  
ブアーツ

「宝塚ファーストフォトブック 2022-2023 瑠輝輝  
(タカラヅカMOOK)」 1,900円 宝塚クリエイ  
ティブアーツ

「ミュージカルエリザベート Anniversary Book  
2000-2022 永久保存版 (MAGAZINE HOUSE  
MOOK)」 2,800円 マガジンハウス

「底なし子の大冒険/狼少年タチバナ 戯曲集」 渋谷  
悠(著) 2,420円 論創社

「錦織一清 演出論」 錦織一清(著) 2,200円 日  
経BP

「『俳優』の肩ごしに」 山崎努(著) 1,650円 日経  
BP日本経済新聞出版

「ミュージカル 2022年11-12月号」 1,000円 ミュ  
ージカル出版社

「ミュージカルランド」 御木平輔(著) 1,100円 千  
葉日報社

「劇団四季ミュージカル『バケモノの子』 ヴォーカ  
ル&ピアノ・スコア」 2,800円 シンコーミュ  
ージック・エンタテイメント

「エビータの真実」 アリシア・ドゥジョブヌ・オル

ティス(著) 1,760円 海からの風出版  
 「フラッパー」 松尾諭(著) 1,650円 文藝春秋  
 「柳生十兵衛と千葉真一 二人の武人が現代人に伝える真理」 小山将生(著) 1,650円 体育とスポーツ出版社  
 「余韻嫋嫋 自選隨筆集成」 嵐圭史(著) 2,000円 本の泉社  
 「高倉健沈黙の演技」 野地秩嘉(著) 1,870円 プレジデント社  
 「テアトロ 2022年12月号」 1,300円 カモミール社

## 《12月》

「優秀新人戯曲集 2023」 日本劇作家協会(編集) 2,530円 ブロンズ新社  
 「名著入門 日本近代文学50選(朝日新書)」 平田オリザ(著) 935円 朝日新聞出版  
 「悲劇喜劇 2023年01月号」 1,500円 早川書房  
 「児童・青少年演劇ジャーナル『げき』25」 児童・青少年演劇ジャーナル(げき)編集委員会(編) 1,760円 晩成書房  
 「三谷幸喜のありふれた生活 17 未曾有の出来事」 三谷幸喜(著) 1,540円 朝日新聞出版  
 「ステージスクエア vol.60 小瀧望『ザ・ビューティフル・ゲーム』/橋本良亮/Aえ!group (HI NODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版  
 「STAGE navi vol.75(2022) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版  
 「うま 馬に乗ってこの世の外へ」 井上ひさし(著) 1,870円 集英社  
 「完本中村吉右衛門」 小玉祥子(著) 2,860円 朝日新聞出版  
 「よみがえる森鷗外」 毎日新聞学芸部(編) 2,750円 毎日新聞出版  
 「物語のつむぎ方入門〈プロット〉をおもしろくする25の方法(アルケミスト双書)」 エイミー・ジョーンズ(著) 1,320円 創元社  
 「ツダマンの世界」 松尾スズキ(著) 2,420円 白水社  
 「ダグラス」 ジョン・ヒューム(著) 2,640円 春風社  
 「Sparkle vol.51(2022) (メディアボーイMOOK)」 1,800円 メディアボーイ  
 「歌舞伎 研究と批評 歌舞伎学会誌 67 特集-日記からブログ、SNSまで」 歌舞伎学会(編集) 2,563円 歌舞伎学会  
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年12/28号」 2,299円 アシエット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2023年1/11号」 2,299円 アシエット・コレクションズ・ジャパン  
 「江戸はスゴイ 世界が驚く!最先端都市の歴史・文化・風俗 (PHP文庫)」 堀口茉純(著) 880円 PHP研究所  
 「口承文芸の文化学(やまかわうみ叢書)」 野村純一(著) 3,300円 アーツアンドクラフツ  
 「宝塚GRAPH 2023年01月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「歌劇 2022年12月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「Le Cing(ル・サンク) 2022年12月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ  
 「わが小林一三 清く正しく美しく」 阪田寛夫(著) 2,915円 河出書房新社  
 「夜叉ヶ池(乙女の本棚)」 泉鏡花(著) 1,980円 立東舎  
 「ゲーテ『ファウスト』を深読みする」 仲正昌樹(著) 2,000円 明月堂書店  
 「谷崎潤一郎と中国」 林茜茜(著) 2,200円 田畑書店  
 「岩は、動く。」 矢内廣(著) 2,420円 ぴあ  
 「能と狂言 20(特集)能と謡文化」 能楽学会(編) 2,200円 能楽学会  
 「新編狂言のことだま 日本の心再発見」 山本東次郎(著) 2,750円 クレス出版  
 「日本語文法史研究 6」 青木博史(編) 4,400円 ひつじ書房  
 「俳優タレント養成ガイド 2023年度版 増刊テアトロ 2022年12月号」 1,513円 カモミール社  
 「残機1」 梅津瑞樹(著) 1,980円 太田出版  
 「ヒツジメン」 吉田羊(著) 1,760円 講談社ビースー  
 「電線の恋人」 石山蓮華(著) 2,090円 平凡社  
 「仕事の図鑑 未来が広がる!世の中が見える!」 藤田晃之(監修) 1,650円 ナツメ社  
 「未中年 栄光と転落、再生への挑戦」 いしだ壱成(著) 1,430円 大洋図書  
 「テアトロ 2023年01月号」 1,300円 カモミール社



## 令和4年 演劇関係物故者一覧

※敬称略

### 【1月】

- 泉真也** 環境デザイナー、プロデューサー。1月2日、老衰のため死去。91歳。東京芸術大学卒業後、キヤノンカメラ(現キヤノン)に入社。1962年にフリーになり、大阪万博や沖縄海洋博などに関わり、国際花と緑の博覧会では総合プロデューサーを務めた。
- 斉藤京子** 歌手、俳優。1月2日、廃用症候群のため死去。85歳。“民謡の申し子”と呼ばれ17歳でデビュー。三橋美智也とのデュエット曲「お花ちゃん」は100万枚を超えるヒットを記録。俳優としても1981年の映画『マタギ』などに出演した。
- シドニー・ポワチエ** 米・俳優。1月6日、死去。94歳。1946年にブロードウェイデビュー。55年、映画『暴力教室』の生徒役で注目を集め、63年公開の映画『野のユリ』で黒人として初めてアカデミー主演男優賞に輝いた。97年からは駐日バハマ大使(本国常駐)を務めた。
- ピーター・ボグダノビッチ** 米・映画監督。1月6日死去。82歳。テキサスの田舎町を舞台にした71年公開の青春映画『ラスト・ショー』で高い評価を受け、その後も数々の作品を手がけた。代表作に72年『おかしなおかしな大追跡』、73年『ペーパー・ムーン』。
- 海部俊樹** 第76代総理大臣。1月9日、死去。91歳。1989年8月に第76代総理大臣に就任。約2年3カ月務めた。
- 井上昭** 映画監督。1月9日、肺炎のため死去。93歳。1951年大映京都撮影所に入社。溝口健二監督らの下で助監督を務めた後、「座頭市」シリーズなどを監督。70年にフリーになり、田村正和主演「眠狂四郎」シリーズなどテレビ時代劇を数多く手がけた。
- 水島新司** 漫画家。1月10日、肺炎のため死去。82歳。1970年『男どアホウ甲子園』で人気となり、『野球狂の詩』『ドカベン』『あぶさん』など野球漫画のヒット作を数多く世に送り出した。2005年紫綬褒章。
- 半田真二** 俳優。1月10日、肺炎による敗血症のため死去。78歳。1965年に劇団新派に入団。故伊志井寛に師事し、『鶴八鶴次郎』小せん、『滝の白糸』郵便配達夫など脇を固める役者として活躍した。

- ジャンジャック・ベネックス** 仏・映画監督。1月13日、死去。75歳。1981年『ディーバ』で脚光を集め、86年『ベディ・ブルー 愛と激情の日々』は日本でも大きな反響を呼び、日本にも多くのファンがいる。親日家としても知られ90年代には日本に滞在、「おたく文化」についてのドキュメンタリーも製作した。
- 梅沢武生** 俳優。1月16日、死去。82歳。1963年に父から梅沢劇団の座長を引き継ぎ「梅沢武生劇団」として半世紀にわたり一座をけん引。副座長を務め女形の弟・富美男が「下町の玉三郎」として人気となり、劇団の名前を浸透させた。2012年に座長を富美男に譲り、自らは後見に退いていた。
- 杵屋浄貢** 1月19日、脳梗塞のため死去。84歳。14代目杵屋六左衛門に入門。1956年に7代目杵屋巳太郎を襲名し、長唄杵巳流7代目家元を継承。71年第五郎劇団音楽部に入部し、2012年に浄貢と改名。2007年重要無形文化財保持者(人間国宝)、09年旭日小綬章。
- ギャスパール・ウリエル** 仏・俳優。1月19日、スキー事故のため死去。37歳。代表作に『ハンニバル・ライジング』ハンニバル・レクター役、『サンローラン』イヴ・サンローラン役。2005年『ロング・エンゲージメント』でフランス版アカデミー賞にあたるセザール賞の有望若手男優賞を、17年『たかが世界の終わり』で主演男優賞を受賞した。
- 恩地日出夫** 映画監督。1月20日、肺がんのため死去。88歳。1955年に助監督として東宝に入社し、61年に自身の脚本を映画化した『若い狼』で監督デビュー。以後、『あこがれ』『伊豆の踊子』『めぐりあい』などを手がけ、東宝青春映画を代表する監督に。2003年『蔵野行 わらびこう』で日本映画批評家大賞作品賞。一方で『傷だらけの天使』『人間の証明』などの演出でテレビドラマでも活躍。79年『戦後最大の誘拐 吉展ちゃん事件』で芸術祭賞優秀賞。2005年旭日小綬章。
- ミートローフ** 米・歌手、俳優。1月20日、死去。74歳。1977年に発表したアルバム『地獄のロック・ライダー』が世界的に大ヒット。俳優としても活動し、オフ・ブロードウェイ・ミュージカル『Rainbow(in New York)』や

『More Than You Deserve』に出演。また映画『ロッキー・ホラー・ショー』にも出演した。

●**平松慎吾** 俳優。1月23日、誤嚥性肺炎のため死去。87歳。劇団NLT所属。同劇団公演『毒薬と老嬢』などの舞台のほか、NHK大河ドラマ『独眼竜政宗』(氏家守棟)『八代将軍吉宗』(石河政朝)などテレビや映画の脇役としても多くの作品に出演した。

●**松岡享子** 児童文学者。1月25日、死去。86歳。「くまのパディントン」シリーズなどの翻訳などで知られる。児童文学作家・石井桃子と共に、私立の図書館・東京子ども図書館を設立。児童文学の普及に尽力した。

●**坂本忠雄** 元「新潮」編集長。1月29日、心不全のため死去。86歳。1959年に新潮社に入社。大江健三郎や石原慎太郎ら多くの作家を担当。81年から95年まで文芸誌「新潮」の編集長を務めた。

## 【2月】

●**石原慎太郎** 作家、元東京都知事。2月1日、死去。89歳。一橋大学在学中の1956年に『太陽の季節』で芥川賞を受賞。同作は映画化され、弟・石原裕次郎が主演し俳優デビューした。その後も映画『狂った果実』『俺は待ってるぜ』など多くの映画やドラマで原作や脚本を手がけた。68年参院選で当選。87年竹下内閣で運輸大臣に就任。99年には東京都知事選に初当選、2012年の辞職まで務めた。政界で活動する傍ら作家としても執筆を続け、裕次郎をテーマにした96年『弟』はミリオンセラーに。また77年には日生劇場『若きハイデルベルヒ』で潤色を担当した。2015年旭日大綬章。

●**モニカ・ヴィッティ** 伊・俳優。2月2日、文化相が死去を発表。90歳。ミケランジェロ・アントニオーニ監督に見いだされ、1960年『情事』で世界的な名声を得た後、60～70年代に数多くの作品に出演した。

●**内山斉** 読売新聞グループ本社元社長、顧問。2月2日、心不全のため死去。86歳。1957年読売新聞社に入社。制作局長、東京本社社長などを経て2004～11年までグループ本社社長。日本新聞協会会長、日本相撲協会横綱審議委員長を務めた。2009年、私のレジオン・ドヌール勲章(オフィシエ)受章。

●**西村賢太** 作家。2月5日、死去。54歳。2007年『暗渠の宿』で野間文芸新人賞。「破滅型」といわれる作風の私小説で注目を集め、11年『苦

役列車』で芥川賞を受賞。翌年に映画化もされた。

●**上田敏也** 声優。2月8日、死去。88歳。映画『特攻野郎Aチーム』などの米・俳優ダナ・エルカーの吹替のほか多くの洋画吹替を担当。また、アニメ『おじゃる丸』トミー役などでも知られた。

●**アイバン・ライトマン** 加・映画監督。2月12日、死去。75歳。1978年のコメディ映画『アニマル・ハウス』でスマッシュヒットを記録。その後、『ゴーストバスターズ』『ツインズ』が世界的にヒットした。

●**柳家さん吉** 落語家。2月15日、心不全のため死去。84歳。1957年に五代目柳家小さんに入門し、73年真打ち昇進。69～70年に「笑点」のレギュラーを務めた。

●**松鶴家千とせ** 漫談家。2月17日、心不全のため死去。84歳。松鶴家千代若・千代菊に入門し、1967年に千とせ流家元三代目松鶴家千とせを襲名。70年代に「わかるかなあ、わかんねえだろうなあ」のフレーズで人気を博した。

●**竹本浩三** 演出家、脚本家。2月18日、老衰のため死去。89歳。劇団ぐるみ座、東宝株式会社文芸部などを経て1959年から吉本興行に加わり、新喜劇の作・演出を手がけ礎を築いた。後に吉本興行文芸顧問を務め、デイリースポーツ紙で「吉本の語りべ 竹本浩三の上方演芸史」を長期連載。また帝京平成大学や帝塚山大学の教授なども務めた。

●**大町陽一郎** 指揮者。2月18日、老衰のため死去。90歳。東京芸術大学を卒業後、ウィーン国立アカデミーに留学し、その後カラヤンらに師事。1961年から東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者に就任、80年には日本人で初めてウィーン国立歌劇場で指揮し、82～84年同歌劇場の専属指揮者としてオペラやバレエ公演を担当した。

●**津金沢聡広** 関西学院大学名誉教授。2月19日、急性硬膜下血腫のため死去。89歳。近現代メディアを幅広く考察し、宝塚歌劇団も研究対象とした。著者に『宝塚戦略』など。

●**ゲーリー・ブルッカー** 英バンド「プロコル・ハルム」ボーカル。2月19日、がんのため死去。76歳。1966年にプロコル・ハルムを結成。67年発表のデビューシングル『青い影』が世界的に大ヒットした。

●**西郷輝彦** 歌手、俳優。2月20日、前立腺がんのため死去。75歳。1964年『君だけを』で歌



手デビュー。66年『星のフラメンコ』が大ヒットを記録、曲をモチーフにした映画『遙かなる慕情 星のフラメンコ』で主演。橋幸夫、舟木一夫と「御三家」と呼ばれ人気を集めた。73年に劇作家・花登筐の誘いでドラマ『どてらい男』シリーズに主演。75年「江戸を斬る」シリーズでは遠山金四郎役で人気となった。一方で、舞台版『どてらい男』『江戸を斬る』のほか、『華々しき一族』『女たちの忠臣蔵』『明日の幸福』『屋根の上のヴァイオリン弾き』など多くの舞台にも出演。90年『蘆花野』では第15回菊田一夫演劇賞を受賞した。

●**川津祐介** 俳優。2月26日、慢性心不全のため死去。86歳。1958年、木下恵介監督に誘われて大学在学中に映画『この天の虹』でデビュー。60年には大島渚監督の映画『青春残酷物語』の主役で注目を浴びた。65年から6年間続いたドラマ『ザ・ガードマン』などのアクションドラマで人気を確立。俳優業以外にも『食いしん坊！ 万才』の5代目リポーターとしてお茶の間の人気を博した。また絵画や陶芸も手がけ、福井県・越前市いまだて芸術館の館長も務めた。

●**豊竹松香太夫** 人形浄瑠璃文楽太夫。2月26日、死去。80歳。1959年に豊竹松太夫(三代竹本春子太夫)に入門し1960年に初舞台。2017年3月末に当時現役最年長のベテランとして引退していた。

●**井上倫宏** 俳優、声優。2月28日、食道がんのため死去。63歳。1982年に円演劇研究所に入所し85年に会員に昇格。劇団公演のほか「仮名手本忠臣蔵」「近松心中物語」「パールギョント」など外部の舞台にも多数出演。またテレビドラマや声優としても活躍した。

### 【3月】

●**志垣太郎** 俳優。3月5日、心不全のため死去。70歳。高校在学中の1969年に東京・芸術座で上演された東宝みどりの会第一回公演『巨人の星』星飛雄馬役(当時の名前は河村稔)でデビュー。71年のドラマ『おれは男だ!』で主役の森田健作のライバルを演じ一躍注目を集めた。その後、大河ドラマや「水戸黄門」シリーズ、『あかんたれ』など数多くのドラマや映画に出演する一方、『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』などバラエティー番組にも出演しお茶の間に親しまれた。

●**江森盛夫** 演劇評論家。3月6日、死去。85歳。雑誌『噂の真相』に25年間劇評を掲載した。

●**山本勝一** 能楽観世流シテ方。3月9日、老衰のため死去。96歳。公益財団法人山本能楽堂(大阪)の会長を務め、能楽の発展に尽力した。

●**吉永仁郎** 劇作家。3月12日、ALS(筋萎縮性側索硬化症)のため死去。92歳。早稲田大学、謠芸術学院講習科を経て1955年より虹の会で作品を執筆。74年に劇団東演に『勤皇やぐざ瓦版』を執筆後、民藝、文学座、俳優座、蟬の会などに戯曲を多数書き下ろした。

●**ウィリアム・ハート** 米・俳優。3月13日、死去。71歳。映画『蜘蛛女のキス』でアカデミー賞主演男優賞を受賞。その後『愛は静けさの中に』『プロードキャスト・ニュース』でも同賞候補になった。

●**宝田明** 俳優。3月14日、死去。87歳。1953年に東宝ニューフェース6期生として芸能界入りし、1954年『かくて自由の鐘は鳴る』で映画デビュー、同年『ゴジラ』でゴジラに立ち向かう青年役で注目を集めた。その後『ロマンス娘』『太陽を抱け』などに多くの映画に出演。映画やテレビドラマで活躍する一方で1964年『アニーよ銃をとれ』に出演以後、『サウンド・オブ・ミュージック』『風と共に去りぬ』『マイ・フェア・レディ』など多くの作品に出演し、ミュージカル俳優としても数々の賞を受賞した。

●**笹山栄一** 俳優。3月15日、間質性肺炎のため死去。91歳。1959年に演出家・八田元夫らとともに東京演劇ゼミナール(現・劇団東演)を創設。『どん底』『臨時病室』『明治の枢』など多くの作品に出演した。

●**佐藤忠男** 映画評論家。3月17日、死去。91歳。学生時代から映画雑誌に批評を投稿。1965年、それまでの著作をまとめた『日本の映画』でキネマ旬報賞を受賞。日本を代表する映画評論家として『日本映画史』『小津安二郎の芸術』『キネマと砲声』など多数の著作を発表した。一方で96年日本映画学校校長に就任、2017年同大学名誉学長に。後進の育成にも尽力した。1996年紫綬褒章、2002年勲四等旭日章、03年フランス政府芸術文化勲章(シュヴァリエ章)。

●**増田正造** 能楽研究家。3月19日、死去。92歳。武蔵野大学名誉教授。国立能楽堂・普及公演の解説にも出演した。

●**青山真治** 映画監督。3月21日、頸部食道がんのため死去。57歳。1996年『Helpless』で長編映画デビュー。『EUREKA』で2000年カンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞を受賞。映画を

基にした小説『ユリイカ EUREKA』で三島由紀夫賞を受賞するなど作家としても注目を集めた。その他の代表作に『サッド ヴァケイション』『共喰い』『空に住む』。

●**松田寛夫** 脚本家。3月24日、悪性リンパ腫のため死去。88歳。1958年東映に入社。京都撮影所の助監督を経て脚本家に。主な作品は「女囚さそり」シリーズ、『柳生一族の陰謀』など。85年『花いちもんめ』で日本アカデミー賞最優秀脚本賞、89年『社葬』で毎日映画コンクール脚本賞。

●**山本圭** 俳優。3月31日、肺炎のため死去。81歳。1960年に俳優座養成所に入所、63年に入団。62年に伯父で映画監督である山本薩夫『乳房を抱く娘たち』で銀幕デビュー。66年、ドラマ『若者たち』で人気を獲得、映画版では毎日映画コンクール助演男優賞を受賞した。その後NHK大河ドラマ『八代将軍吉宗』『天地人』『八重の桜』をはじめ、『ひとつ屋根の下』など数多くのドラマや映画に出演した。80年の俳優座退団まで数多くの舞台に立ち、特に『ハムレット』『リア王』『マクベス』などシェイクスピア劇での演技に定評があった。

#### 【4月】

●**藤子不二雄**<sup>㊤</sup> 漫画家。4月7日、死去。88歳。高校生のときに藤子・F・不二雄と書いた『天使の玉ちゃん』でデビュー。卒業後、コンビのペンネーム「藤子不二雄」として64年に連載を始めた『オバケのQ太郎』が大ヒットした。『ドラえもん』『パーマン』など児童漫画を得意としたFに対し、『魔太郎がくる!!』『笑わせえすまん』などブラックユーモアを効かせた作品を得意とした。87年のコンビ解消後は、自作漫画を基に映画『少年時代』をプロデュースしたほか、自伝的作品『まんが道』などを発表した。2008年旭日小綬章。

●**デビッド・マッキー** 仏・絵本作家。4月6日、死去。87歳。風刺漫画の仕事を経て1964年に初の絵本を出版。「ぞうのエルマー」シリーズは29タイトルに及び、60以上の言語に翻訳され、世界で計1千万部以上を売り上げた。同作は劇団風の子などが舞台化して上演している。

●**松島みのり** 声優。4月8日、膵臓がんのため死去。81歳。子役からNHK演技研究所、劇団三十人会、劇団新劇場などに所属。声優としてアニメ『キャンディキャンディ』『キャンディ』『ガラスの仮面』姫川亜弓、『どろろ』どろろ、『キ

ン肉マン』ミート君などを務めた。

●**松本永実子** 演出・演技指導者。4月9日、乳がんリンパ転移のため死去。66歳。JOKO演劇学校教務主任、劇団俳優座講師などを担当。主な作品に『マーヴィンの部屋』（翻訳・演出）、『クリスマス・キャロル』（演出・脚本）など。翻訳書に『スタニスラフスキー入門』。

●**ギルバート・ゴットフリード** 米・俳優。4月12日、筋ジストロフィーに伴う心室頻拍のため死去。67歳。人気コメディイ『サタデー・ナイト・ライブ』への出演で人気を集め、92年公開のディズニー映画『アラジン』ではオウムのイアゴの声を演じた。

●**ジャック・ヒギンズ** 英・作家。4月12日（発表）、死去。92歳。1975年に発表した代表作『驚は舞い降りた』は世界的ベストセラーとなり、76年には映画化（監督：ジョン・スタージェス 出演：マイケル・ケインほか）、2020年にはNHK-FMでラジオドラマ化された。

●**平尾辰夫** 東宝・元専務取締役。4月13日、脳出血のため死去。93歳。1955年に東宝入社。77年演劇部長、83年取締役演劇担当、88年常務取締役演劇担当、92年専務取締役演劇担当を歴任し、長年にわたり東宝演劇を導いた。特に87年の『レ・ミゼラブル』、92・93年『ミス・サイゴン』の日本初演実現に向けて尽力し、両作オリジナルプロダクションのサー・キャメロン・マッキントッシュとの信頼関係を育み、現在に至るまでの長期公演の礎を築いた。

●**ミシェル・ブーケ** 仏・俳優。4月13日、死去。96歳。パリの国立高等演劇学校で学ぶ。ウジェーヌ・イヨネスコの不条理劇『瀕死の王』の主役を800回以上演じたほか、モリエール『守銭奴』での名演で知られた。また仏映画運動「ヌーベルバーグ」をけん引したフランソワ・トリュフォーとクロード・シャブロール両監督の作品への出演でも知られ、仏版アカデミー賞であるセザール賞では主演男優賞を2度受賞するなどフランスを代表する名優として人気を博した。

●**柳生博** 俳優。4月16日、老衰のため死去。85歳。大学中退後に劇団俳優座の養成所に入所。1961年、映画『あれが港の灯だ』でデビュー。その後、ドラマ『飛び出せ！青春』やNHK連続テレビ小説『いちばん星』など多くの作品に出演し存在感のある脇役を演じた。また『100万円クイズハンター』の司会でも親しまれた。俳優業の傍ら自然保護活動にも取り組

み、「日本野鳥の会」の会長も務めた。

●**高橋章** 能楽宝生流シテ方。4月16日、肺炎のため死去。87歳。シテ方宝生流の「昭和の名人」と名を馳せた高橋進の長男として生まれる。父などに師事。観世寿夫記念法政大学能楽賞、日本芸術院賞などを受賞。2007年旭日双光章。

●**佐々木史朗** 映画プロデューサー。4月18日、肺がんのため死去。83歳。1979年、日本アート・シアター・ギルド(ATG)の代表に就任。大林宣彦監督『転校生』や森田芳光監督『家族ゲーム』など個性的な作品や新進気鋭の監督の作品などをプロデュースした。

●**鈴木富夫** 劇作家。4月12日、死去。88歳。戯曲春秋の同人。代表作に『白布峠の雪』『会津下級武士の維新』、四部作『投票日前夜』など。

●**桑原幸子** 元俳優。4月21日、心不全のため死去。74歳。東映児童研究所に入所後、1960年『白馬童子』で子役デビュー。69年『プレイガール』で華やかでセクシーな国際秘密保険調査員・ユッコ役を演じて人気を集めた。2000年には「プレイガールオフィス」を立ち上げ、03年の『プレイガール』のDVD化に尽力、04年にはドラマの30年後を描いた舞台をプロデュースした。近年は実家の工業ゴムを扱う会社の社長を務めていた。

●**ジャック・ペラン** 仏・俳優。4月21日、死去。80歳。パリの国立高等演劇学校で学ぶ。1950年代から映画俳優のキャリアを始め、『ロシュフォールの恋人たち』『ロバと王女』などで人気を集め、大ヒット映画『ニュー・シネマ・パラダイス』では主人公の中年期を演じ世界中で高い評価を得た。

●**結城貢** 料理研究家。4月24日、直腸がんのため死去。会社員を経て料理研究家に。料理番組『夕食ばんざい』などに出演し、「料理は愛情」のキャッチフレーズで知られた。またNHKドラマ『びいどろで候〜長崎屋夢日記』にも出演した。

●**柳家小はん** 落語家。4月25日、すい臓がんのため死去。80歳。三代目桂三木助に入門、没後は五代目柳家小さんの門下。1975年に真打ち昇進、77年に二代目小はんを襲名した。『二番煎じ』など古典落語の滑稽話を得意とし、地域寄席の発展にも尽力した。

●**田中弘史** 俳優。4月28日、たこつぼ型心筋症のため死去。86歳。「暴れん坊将軍」シリーズなどでテレビ時代劇で悪役を中心に活躍。また舞台では演出家としての活動も行っていた。1995年、大阪新劇団協議会合同公演『茶館』で大

阪舞台芸術賞受賞。関西俳優協議会の会長も務め、後進の育成にも尽力した。

●**小田信吾** 「ホリプロ」前会長。4月30日、急性心不全のため死去。83歳。1968年にホリプロダクション(現・ホリプロ)に入社。山口百恵のチーフマネージャーを務めたほか、創業者・堀威夫と共に同社を大きく成長させた人物の一人。84年に同社社長、2002年に会長、10年からは最高顧問を務めた。

## 【5月】

●**渡辺裕之** 俳優。5月3日、自宅で縊死しているのが発見された。66歳。1982年の映画『オン・ザ・ロード』の主演でデビュー。映画やVシネマ、テレビドラマなど多数出演。「ファイト、一発!」のフレーズで知られる栄養ドリンクのCMでも人気を博した。

●**大日方俊子** 作詞家。5月6日、心不全のため死去。90歳。ザ・キング・トーンズ「グッド・ナイト・ベイビー」、和田アキ子「どしゃぶりの雨の中で」など多くのヒット曲を手がけた。

●**飯田宗孝** 東京バレエ団団長。5月7日、食道がんのため死去。64歳。1980年に東京バレエ団に入団。ダンサーとしての代表作に『ザ・カブキ』『M』など。芸術監督を経て2015年から団長を務めていた。

●**田中健五** 元・文芸春秋会長。5月7日、肺炎のため死去。93歳。1953年、文芸春秋新社(現：文芸春秋)入社。72年に月刊誌「文芸春秋」の編集長に就任、74年にはジャーナリスト・立花隆の「田中角栄研究—その金脈と人脈」を掲載。金権政治の実態を暴き、内閣総辞職の引き金となった。77年「週刊文庫」編集長、88年社長、95年会長、97年最高顧問、99年退任。

●**姜受延(カン・スヨン)** 韓・俳優。5月7日、脳出血のため死去。55歳。1986年の映画『シバジ』でベネチア国際映画祭、ナント三大陸映画祭で主演女優賞、89年の映画『ハラギャティ』でモスクワ国際映画祭の最優秀主演女優賞を受賞した。

●**東家浦太郎** 浪曲師。5月8日、食道がんのため死去。79歳。1995年に二代目東家浦太郎を襲名。古典演目を得意とし、代表作に『野狐三次』『大岡政談 徳川天一坊』『銭形平次』。2002～03年には日本浪曲協会会長も務めた。87年度文化庁芸術祭賞、90年度芸術選奨文部大臣新人賞。

●**デニス・ウォーターマン** 英・俳優。5月8

日、死去。74歳。演劇学校を経て12歳で名門「ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー」に勧誘されて入団。1970年代に映画やテレビドラマで人気を博した。代表作に映画『荒野に生きる』、ドラマ『ニュー・トリックス～退職デカの事件簿』など。

●**金芝河** 韓・詩人。5月8日、死去。81歳。1970年代前後の韓国民主化運動を象徴する詩人。劇団民藝で『銅の李舜臣』『蜚語一音の来歴』『鎮悪鬼』が上演された。

●**清元小志寿太夫** 清元節太夫。5月9日、多臓器不全のため死去。88歳。三味線方として初舞台を踏むが1954年から浄瑠璃に転向、清元節の太夫として美声を聞かせた。83年度芸術祭音楽部門優秀賞。

●**早乙女勝元** 作家。5月10日、老衰のため死去。90歳。1945年3月10日の東京大空襲を経験。作家として『東京大空襲一昭和20年3月10日の記録』などを刊行。2002年に閉館した東京大空襲・戦災資料センターの館長を務めた。また、児童向け絵本『死んでもプレストを』を劇団前進座が朗読劇として上演。映画『戦争と青春』では原作・脚本を手がけた。

●**上島竜兵** タレント、俳優。5月11日、死去。61歳。青年座研究所やテアトル・エコー付属養成所を経て、お笑いトリオ「ダチョウ倶楽部」を結成。「聞いてないよお」「ヤー！」などのギャグで人気を博した。一方で『釣りバカ日誌』『怪物くん』などの映画やドラマで俳優としても活躍。また『わらしべ夫婦双六旅』『KANSAI SUPER SHOW 七人の侍』などの舞台でも活躍した。

●**テレサ・ベルガンサ** オペラ歌手。5月13日、死去。89歳。1957年の仏エクサンプロバンス音楽祭『コシ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ役でデビュー。カルメン役を得意とし、カラヤンなど一流の指揮者としてしばしば共演、ミラノ・スカラ座をはじめとする欧米の一流歌劇場を席卷。20世紀最高のメゾソプラノの一人として知られ、92年のバルセロナ五輪開会式でプラシド・ドミンゴらとともに歌唱するスペインの国民的歌手でもあった。75年以降、日本でも度々公演を開き、昭和音大での公開レッスンなどで後進の指導にも尽力した。

●**バンゲリス** 作曲家。5月17日、死去。79歳。1981年の映画『炎のランナー』で米アカデミー賞作曲賞を受賞。その他、82年『ブレッドランナー』、83年『南極物語』など。

●**柗屋弥吉** 長唄三味線方八代目家元。5月18

日、肺炎のため死去。82歳。

●**澤孝子** 浪曲師。5月21日、脳出血のため死去。82歳。女性の心理を丹念に描く芸風で知られ、テレビやラジオなどに出演、浪曲界の第一人者として活躍した。日本演芸家連合副会長などを歴任。82年文化庁芸術祭優秀賞。

●**藤野藤作** 能楽高安流ワキ方。5月22日、呼吸不全のため死去。95歳。

●**石井隆** 映画監督、劇画家。5月22日、死去。75歳。代表作は映画『天使のはらわた』『花と蛇』『GONIN』。鮮烈な映像美と巧みな演出による作風から「鬼才」の異名を持ち、クエンティン・タランティーノ監督からも熱烈に支持されていた。

●**大島信久** 劇作・演出家、俳優、制作。5月22日頃、死去。82歳。劇団『吹きだまり』主宰。「ハッピー・エンド」「ゴールデン・ボーイ」「虹の上に昇った女」「月蝕を喰う女」など多くの作品で作・演出を手がけた。一方で「笑ギャラリー」「カリスマ芸人待合室」などのライブを長年主催、数多くの芸人に発表の場を創った。日本演劇協会会員。

●**高橋よしこ** 新派俳優。5月24日、老衰のため死去。85歳。俳優養成所7期生で1959年に劇団新派に入団、初代水谷八重子に師事した。『女優』『明治の雪』『明日の幸福』『鹿鳴館』など多くの舞台で活躍した。松竹社長賞、国立劇場会長賞、北條秀司賞など。

●**佐々木陽子** 脚本家。5月25日、死去。92歳。民法テレビ局草創期からドラマ脚本を執筆。主な作品に『民話劇場・二人の落人』『テレビ幼稚園 ぴつきいちゃん』『美空ひばり劇場』『なんだって18歳!』など。

●**和田庸子** 俳優、劇作家、演出家。5月26日、大動脈解離のため死去。66歳。1976年に京浜共同劇団に入団。全日本リアリズム演劇会議にも長年携わった。

●**レイ・リオッタ** 米・俳優。5月26日、死去。67歳。1989年、映画『フィールド・オブ・ドリームス』でケビン・コスナーと共演。映画『グッドフェローズ』では主役を務めた。2005年エミー賞受賞。

## 【6月】

●**沢本忠雄** 俳優。6月5日、肺炎のため死去。86歳。1958年の映画『十代の恋よさようなら』で初主演。以降、『嵐を呼ぶ友情』や「事件記者」シリーズなど日活映画に数多く出演。舞台『細雪』などテレビや舞台でも活躍した。



●**升田尚宏** 　TBS社員、元アナウンサー。6月9日、死去。55歳。1989年NHKに入局。94年にTBSに入社。スポーツ中継を中心に活躍したほか、報道局にも在籍。2017年以降はアナウンサーを離れ財務戦略室で勤務していた。

●**河村光庸** 　映画プロデューサー。6月11日、心不全のため死去。72歳。2008年に映画配給会社スターサンズ設立。菅田将暉とヤン・イクチュンW主演の映画『あゝ、荒野』で日本アカデミー賞最優秀主演男優賞などを受賞、また『新聞記者』では日本アカデミー賞最優秀作品賞など3冠を受賞。社会的なテーマを題材に骨太な作品を数多くプロデュースした。

●**竹内照夫** 　俳優。6月15日、肺気腫のため死去。75歳。1966年に劇団民藝に入団。主な舞台に『アンネの日記』『研師源六』『巨匠』『幽霊』『SOETSU』など。

●**森崎和江** 　作家、詩人。6月15日、急性呼吸不全のため死去。95歳。1958年、福岡・筑豊の炭鉱地帯で詩人・谷川雁、作家・上野英信らと文芸誌「サークル村」を創刊、翌年に女性交流誌「無名通信」を発行。炭鉱の女性労働者の声を集めた『まっくら』、海外に渡り娼婦として働いた女性を描いた『からゆきさん』などを発表。78年ラジオドラマ『海鳴り』で芸術祭賞優秀賞を受賞した。

●**坂東竹三郎** 　歌舞伎俳優。6月17日、骨髄異形成症候群のため死去。89歳。1949年に四代目尾上菊次郎の弟子となり、尾上笹太郎を名のり初舞台。1959年三代目坂東新車と改名し名題昇進。1967年菊次郎の名前養子となり五代目坂東玉三郎を襲名した。関西に居を構える数少ない俳優の一人。多くの舞台に出演する傍ら、自主公演「坂東竹三郎の会」では復活狂言にも取り組み、1997年に開塾した「松竹・上方歌舞伎塾」の講師を務めるなど、上方歌舞伎の復興と後進の育成にも注力した。

●**ジャンルイ・トランティニャン** 　仏・俳優。6月17日、死去。91歳。1956年の映画『素直な悪女』でブリジット・バルドーと共演し一躍注目を集め、66年『男と女』でアヌーク・エーメとカップルを演じ映画史にその名を刻んだ。1969年『Z』でカンヌ国際映画祭男優賞を受賞。2012年『愛、アムール』の主演など近年まで活躍した。

●**岩内克己** 　映画監督。6月18日、虚血性心筋症による心不全のため死去。96歳。東宝に入社、『エレキの若大将』『レッツゴー！若大将』な

ど加山雄三主演の「若大将」シリーズ作品の監督を多く務めた。

●**澤村田之助** 　歌舞伎俳優。6月23日、肺炎のため死去。89歳。五代目澤村田之助の長男。1941年に四代目澤村由次郎を名のり初舞台。1964年に六代目澤村田之助を襲名。七代目尾上梅幸や六代目中村歌右衛門の薫陶を受けた女方として品格と風格のある芸で知られ、後年は永年積み重ねた実力と芸域の広さで、二枚目立役、老け役まで幅広く演じた。1997年紫綬褒章、2002年重要無形文化財保持者(人間国宝)の各認定、2013年旭日小綬章。

●**渡辺宙明** 　作曲家。6月23日、老衰による心不全のため死去。96歳。『マジンガーZ』『野球狂の詩』などのアニメから、『秘密戦隊ゴレンジャー』『人造人間キカイダー』などの特撮ヒーロー作品、映画やドラマ、CM音楽も手がけ、幅広いジャンルで活躍した。77年の舟木一夫主演舞台『怪傑!! 迅雷也』で劇伴・主題歌の作編曲も担当した。

●**岡田正子** 　翻訳、演出、ベラシステム指導。6月25日、死去。93歳。1955年、パリで独自の演技の基礎訓練「ベラ・レーヌ・システム」を提唱するベラ・レーヌに出会い、日本人として初めて指示。日本人として初めて講師の資格を得た。帰国後は、宝塚歌劇団、テアトルエコー養成所、NLT養成所などの講師を務め、「フランス演劇クレアシオン」代表に。1983年以降、フランスの優れた作品を発掘し、自ら日本で翻訳・初演を行った。訳書に『JPアレーグル戯曲集』、Nバタイユ『私の演出論』など。著書に『ベラ・レーヌシステム』『ふり返れば革命人生』。96年仏・芸術文化勲章「シュヴァリエ」、2011年仏・劇作家協会「ポーマルシェ章メダル」。

●**小池康生** 　脚本家。6月25日、死去。65歳。関西の放送局を中心に多くのドラマ脚本を手がけた。主な作品に『田園のエイリアン』『わんぱく天使』『料理少年Kタロー』『水戸黄門第28部』など。

●**中野昭慶** 　特技監督。6月27日、敗血症のため死去。86歳。1959年東宝に入社。『日本沈没』『人間革命』『ゴジラ対メカゴジラ』などで特撮技術監督を務めた。

●**あいはらひろゆき** 　絵本作家。6月27日、死去。60歳。2002年に出版した絵本『くまのがつこう』が人気シリーズとなり映画化もされた。

●**葛城ユキ** 　歌手。6月27日、腹膜がんのため死去。73歳。独特のハスキーボイスと共に『ポ



へミアン』のヒットで知られる。俳優としてドラマにも出演した。

●**佐野浅夫** 俳優。6月28日、老衰のため死去。96歳。日本大学芸術学部在学中の1943年に劇団苦楽座に入団、後に劇団民藝などに所属し数多くの舞台に出演したほか、『地の群れ』『ビルマの豎琴』などの映画やドラマに出演。1993年から2000年まで時代劇『水戸黄門』で3代目の水戸光圀役に。初代や2代目と趣の違う、人情味溢れる「黄門様」の演技で人気を博した。またNHKラジオ『お話でてこい』では50年以上に渡り童話の朗読を担当した。96年勲四等瑞宝章。

## 【7月】

●**野村昭子** 俳優。7月1日までに死去。95歳。1949年に俳優座養成所1期生として入所し、52年に入団。舞台のほか、映画『赤ひげ』（黒澤明監督）などに出演。NHK連続テレビ小説『おはなはん』、人気シリーズ「家政婦は見た!」、『渡る世間は鬼ばかり』など、庶民的な味のある演技と存在感でお茶の間に親しまれた。

●**ピーター・ブルック** 英・演出家。7月2日、死去。97歳。オックスフォード大学在学中に演出家デビュー、早くからロイヤル・シェイクスピア・カンパニーやロイヤル・オペラ・ハウスなどで演出を手がけ才能を発揮。舞台装置をできるだけ排除した手法で『リア王』『真夏の夜の夢』を発表した。1971年には国際演劇研究センター（現：国際演劇創造センター）を設立。実験的な舞台を多く手がけ、上演時間9時間を超える『マハーバーラタ』は代表作の1つで、日本でも上演された。その他日本で上演された作品は『カルメンの悲劇』『桜の園』『テンペスト』『バトルフィールド』『ザ・スーツ』など。また映画監督としても活動し、主な作品に『三文オペラ』『雨のしのび逢い』『蠅の王』など。トニー賞など数々の受賞歴を誇り、日本でも1991年に第7回京都賞（思想・芸術部門）、97年高松宮殿下記念世界文化賞（演劇・映像部）を受賞した。

●**レオニード・シュワルツマン** 旧ソ連・アニメ美術監督。7月2日、死去。101歳。1948年にアニメスタジオ「ソユーズムリトフィルム」に入り、57年『雪の女王』で美術監督を担当、同作は宮崎駿監督に大きな影響を与えたと言われている。また日本でも知られるキャラクター「チェブラーシカ」のデザインした“生みの親”

と呼ばれていた。

●**山本コウタロー** 歌手。7月4日、脳内出血のため死去。73歳。大学在学中からフォークグループ「ソルティエ・シュガー」で活躍。1970年に『走れコウタロー』で日本レコード大賞新人賞、74年に「山本コウタローとウイークエンド」で『岬めぐり』がヒットした。

●**ジェームズ・カーン** 米・俳優。7月6日、死去。82歳。映画『ゴッドファーザー』でマフィア一族のソニー・コロレオーネを演じ、同年度アカデミー助演男優賞にノミネート。その他『エルフ』『ミザリ』など数多くの作品に出演した。

●**小林のり** ボードビリアン、コメディアン。7月6日、心不全のため死去。71歳。俳優・三木のり平の長男。舞台、映画、テレビなどで活躍。父の死後は桃屋のCMを受け継いでいた。

●**高橋和希** 漫画家。7月6日、死去。60歳。人気漫画『遊☆戯☆王』の作者で、シリーズ累計発行部数は4000万部を超え、アニメや映画化もされるなど大ヒット。作中に登場したものをモチーフにしたカードゲームは世界的な人気となり「世界で最も販売枚数の多いトレーディングカードゲーム」としてギネス記録にも認知された。

●**安倍晋三** 元首相。7月8日、死去。67歳。祖父は岸信介元首相、父は安倍晋太郎元外相。1993年の衆院選で初当選。自民党幹事長や官房長官などを歴任し、2006年9月に戦後最年少の52歳で首相に就任。在職期間は連続2822日、通算3188日で憲政史上最長を更新した。「アベノミクス」の推進など、内政・外交両面で大きな足跡を残した。

●**嶋田親一** テレビプロデューサー。7月9日、うっ血性心不全のため死去。90歳。1959年にニッポン放送からフジテレビに異動。82年にフリーの演出家、プロデューサーとして活躍。『三太物語』や『6羽のかもめ（倉本聰脚本）』など多くのテレビドラマのほか、舞台や映画も手がけた。元日本演劇協会理事。

●**山下惣一** 農民作家。7月10日、肺がんのため死去。86歳。農業に従事する傍ら、作家として活動。1970年『海鳴り』で第13回日本農民文学賞受賞。『減反神社』『父の寧日』が直木賞候補に挙がった。また著作から想を得て作られた舞台『遺産らぶそでい』『田畑家の行方』などが青年劇場により上演された。

●**平山忠夫** 作詞家。7月10日、心不全のため

死去。94歳。1980年発売の松村和子が歌った『帰ってこいよ』が大ヒットした。

●**モンティ・ノーマン** 英・作曲家。7月11日、死去。94歳。映画「007」シリーズの第1作『ドクター・ノオ』のために制作したジェームス・ボンドのテーマが、その後シリーズを通じて使用された。

●**中丸シオン** 俳優。7月11日、死去。38歳。父は俳優の中丸新将。『ウルトラマンネクサス』、NHK・よるドラ『いいね!光源氏くん』、『警視庁・捜査一課』などに出演。また舞台『ガラスの仮面』『神州天馬俠』『オープン THE SHOW』などにも出演した。

●**高橋匠郎** 俳優。7月14日、肺炎のため死去。84歳。1968年に劇団民藝に入団し、劇団公演のほか『ひかりごけ』など劇団四季公演にも多数出演。またNHK『おかあさんといっしょ』の「どうぶつこんにちは」コーナーに動物のお兄さん役で60年から66年まで出演するなどテレビやラジオでも活躍した。

●**ハンス＝ティース・レーマン** 独・演劇学者。7月16日、死去。77歳。1999年出版の『ポストドラマ演劇』は20以上の言語に翻訳され、世界的に大きな影響をもたらした。

●**松原春明** テレビディレクター。7月17日、死去。88歳。主な脚本作品に『走れ健ちゃん』『裸の大將』、ディレクターとして『必殺』シリーズの第1作から17作までの30作品を演出。また『裸の大將放浪記』(関西テレビ)では全作品を演出した。

●**西東清明** 映画編集技師。7月18日、多臓器不全のため死去。81歳。1961年東映入社。『二百三高地』『Wの悲劇』『鉄道員(ぼっばや)』などの編集を手がけた。

●**佐藤陽子** バイオリンリスト、声楽家。7月19日、肝臓がんのため死去。72歳。モスクワ国立音楽院を主席で卒業、パガニーニ国際コンクール第2位、チャイコフスキー国際コンクール第3位など世界的なコンクールで評価されて活躍。一方で、声楽家として『蝶々夫人』を国内外で演じ話題を集めた。

●**村上豊** 画家。7月22日、病気のため死去。86歳。司馬遼太郎『風の武士』や山田風太郎、吉村昭ら著名な作家の新聞小説、また「小説現代」などの挿絵を数多く手がけた。

●**ボブ・ラフェルソン** 米・映画監督。7月23日、死去。89歳。映画『ファイブ・イージー・ピーセズ』『郵便配達は二度ベルを鳴らす』など

を製作し、ハリウッド映画の新時代を築いた。またテレビ番組用に結成されたバンド「モンキーズ」の企画に携わった。

●**枇杷阪明** 元ニッポン放送アナウンサー。7月23日、誤嚥性肺炎のため死去。89歳。1957年、ニッポン放送に入社。プロ野球中継「ショウアップナイター」で活躍し、1977年の王貞治ホームラン通算756号の世界記録(当時)を達成した際の実況を担当した。

●**島田陽子** 俳優。7月25日、病気のため死去。69歳。1971年のドラマ『続・氷点』のヒロイン役で注目を集め、その後、映画『犬神家の一族』『砂の器』、ドラマ『白い巨塔』『丘の上の向日葵』、NHK大河ドラマ『山河燃ゆ』などに出演し人気を博した。80年には米ドラマシリーズ「將軍 SHOGUN」に出演、米ゴールデングローブ賞のテレビドラマ部門主演女優賞を受賞し、国際派の俳優としても人気を集めた。

●**ポール・ソルヴィノ** 米・俳優。7月25日、死去。83歳。60年代にブロードウェイでミュージカルや舞台俳優として活躍した後、映画やテレビの場へ。映画『パパはどこ?』『グッドフェローズ』『ニクソン』などへの出演し人気を博した。

●**石濱朗** 俳優。7月26日、老衰のため死去。87歳。1951年『少年期』でデビューし、『伊豆の踊子』では美空ひばりの相手役、『切腹』では切腹をしたくない浪人役で好演、その他多くの映画やドラマで活躍した。2009年からは日本映画俳優協会の理事長を務めていた。

●**小林清志** 声優。7月30日、肺炎のため死去。89歳。日本大学芸術学部演劇学科、国民文化研究所・劇団和泉座を経て東京俳優生活協同組合(俳協)の創立に参加。「ルパン三世」次元大介役、「妖怪人間ベム」ベム役、トミー・リー・ジョーンズなどの吹替で知られた。

●**ニシエル・ニコルズ** 米・俳優。7月30日、老衰のため死去。89歳。1960年代の人気テレビドラマ「スタートレック」の通信士官役で人気を博した。同番組でテレビ画面上で初めて白人俳優とキスシーンを演じて話題になるなど、米・黒人俳優の草分け的存在として活躍した。

●**飯村隆彦** 映像作家。7月31日、誤嚥性肺炎のため死去。85歳。1964年に大林宣彦、高林陽一らと「フィルム・アンデパンダン」を結成。実験的・前衛的な映画を製作し、日本の実験映画の草分けとして世界的に知られた。またビデオアートやインスタレーションにも先駆的

に取り組み、日本のメディア・アートをけん引した。

## 【8月】

●**大竹宏** 声優。8月1日、急性心不全のため死去。90歳。アニメ『サイボーグ009』004/アルベルト・ハインリヒ役、『もーれつア太郎』ニャロメ役、『パーマン』パーマン2号/ブービー役、『キテレツ大百科』熊田薫(ブタゴリラ)役など多くのアニメで活躍した。

●**市田ひろみ** 服飾評論家。8月1日、急性呼吸不全のため死去。90歳。会社勤務を経て大映の専属女優となり、1958年に映画『手錠』で俳優デビュー。ドラマ「京都迷宮案内」シリーズでは主人公らの下宿先の女将役として親しまれた。緑茶のCMに93年から出演、京言葉を用いる和服姿の女性を演じて人気を博した。60年代から京都で美容室を営み、服飾評論家として着物教室や着物ショー、テレビなどでも活躍した。

●**景山正隆** 国文学者。8月2日、死去。90歳。選考は歌舞伎音楽、義太夫節など。著書に『歌舞伎音楽の研究：国文学の視点』『勸進帳いろいろ：芸能あ・ら・かると』『上方狂言本』など。一般社団法人義太夫協会名誉会長。長らく国立劇場歌舞伎音楽・歌舞伎俳優研修の講師を務めたほか、公演解説書にも寄稿した。

●**加藤正俊** 日本テレビプロデューサー。8月2日、こう芽腫のため死去。54歳。共同テレビを経て2001年に日本テレビに入社。ドラマ『ごくせん』『花咲舞が黙ってない』『東京タラレバ娘』などを手がけた。

●**内山美樹子** 早稲田大学名誉教授。8月3日、心不全で死去。82歳。人形浄瑠璃・文楽研究の第一人者として知られる。1960年代から新聞や演劇雑誌などで人形浄瑠璃・文楽評を執筆。著書に『浄瑠璃史の十八世紀』『文楽 二十世紀後期の輝き 劇評と文楽考』など。

●**三宅一生** ファッションデザイナー。8月5日、肝細胞がんのため死去。84歳。1970年に三宅デザイン事務所を設立し、「イッセイミヤケ」ブランドを立ち上げ73年にパリのプレタポルトコレクションに進出。独創的な服を生み出し、世界的なブランドとして人気を集めた。91年仏・芸術文化賞最高位コマンドール、97年紫綬褒章、2005年高円宮殿下記念世界文化賞、2011年文化勲章、2016年仏・レジオンドヌール勲章。

●**青木新門** 作家。8月6日、肺がんのため死

去。85歳。著書『納棺夫日記』が映画『おくりびと』誕生のきっかけになった。

●**オリビア・ニュートン・ジョン** 豪・歌手。8月8日、死去。73歳。透明感のある伸びやかな歌声で『そよ風の誘惑』『愛の告白』『フィジカル』などのヒット曲を次々と発表、米グラミー賞を4度受賞。またミュージカル映画『グリース』『ザ・ナドウ』などにも主演し、世界的な人気を集めた。

●**ラモント・ドジャー** 米・ソングライター、音楽プロデューサー。8月8日、死去。81歳。エディ・ホーランドとブライアン・ホーランド兄弟と組んだ作詞・作曲チーム「ホーランド＝ドジャー＝ホーランド(H=D=H)」で米レコード・レーベル「モータウン」に楽曲を提供。ミュージカル『ドリームガールズ』のモデルとなった女性ボーカルグループ、シュープリームスらが歌った楽曲『愛はどこへ行ったの』『ベイビー・ラブ』『ストップ・イン・ザ・ネイム・オブ・ラブ』など数多くのヒット曲を生み出した。

●**島村晶子** 俳優。8月9日、肺炎のため死去。90歳。NHK連続テレビ小説『オードリー』『てっぱん』のほか、「水戸黄門」「遠山の金さん」「必殺」シリーズなど、数多くのドラマに出演した。

●**ニコラス・エヴァンス** 英・作家。8月9日、心臓発作のため死去。72歳。記者や脚本家を経て、1995年に小説『モンタナの風に抱かれて』を発表。世界20カ国で1500万部以上売り上げ、98年にはロバート・レッドフォード監督・主演で映画化もされた。

●**レイモンド・ブリッグズ** 英・絵本作家。8月9日、死去。88歳。代表作となった文字のない絵本『スノーマン』は世界中で550万部以上も販売され、アニメーション化やミュージカル化もされた。また核戦争の脅威を描いた『風が吹くとき』もアニメーション化され、日本版の監督を大島渚が務めた。

●**若林清造** 元時事通信社社長。8月10日、急性呼吸器不全のため死去。75歳。1970年時事通信社に入社。2005年6月から08年6月まで社長。08年に仏レジオン・ドヌール勲章。

●**森英恵** ファッションデザイナー。8月11日、老衰のため死去。96歳。1951年にスタジオ設立。50年代から『太陽の季節』など数百本の映画衣裳を担当。65年ニューヨークで海外初のショーを成功させて以降は、世界的な活動を展開。独自のオートクチュール・ファッション

ンを発表する一方で、ミラノ・スカラ座やパリ・オペラ座、新国立劇場などのオペラやバレエの衣裳を担当。また劇団四季の『鹿鳴館』『エビータ』『オンディーヌ』『人間になりたがった猫』『李香蘭』、新作歌舞伎『斑雪白骨城』、能とバレエ『胡蝶』など数多くの舞台衣裳も手がけた。88年紫綬褒章、89年文化功労者、仏レジオン・ドヌール勲章(シュバリエ)、96年文化勲章、2002年仏レジオン・ドヌール勲章(オフィシエ)。

●**ウォルフガング・ペーターゼン** 独・映画監督。8月12日、すい臓がんのため死去。81歳。1981年『Uポート』で国際的な評価を高め、『ネバーエンディング・ストーリー』『ザ・シークレット・サービス』『エアフォース・ワン』などのヒット作を世に送り出した。

●**近藤誠** 医師。8月13日、虚血性心不全のため死去。73歳。80年代から乳房温存療法を提唱し、多数の著作も執筆。2012年『医者に殺されない47の心得』がベストセラーに。がん治療の先駆的意見を発表したとして2012年菊池寛賞を受賞した。

●**清川元夢** 声優。8月17日、肺炎のため死去。87歳。1957年に俳優座養成所に入所、68年に東京俳優生活協同組合(俳協)に所属。舞台出演の一方で声優としても活動。『機動戦士ガンダム』テム・レイ、『ふじぎの海のナディア』ガーゴイル、『新世紀エヴァンゲリオン』冬月コウゾウなど、テレビアニメ黎明期から庵野秀明作品まで、幅広い役柄を演じた。

●**レオン・ビタリ** 英・俳優。8月19日、死去。74歳。長年に渡りスタンリー・キューブリック監督の“右腕”として活躍。『バリー・リンダ』、『アイズ・ワイド・シャット』に出演したほか、『フルメタル・ジャケット』では製作陣の一員として名を連ねた。

●**小林政広** 映画監督。8月20日、横行結腸がんのため死去。68歳。歌手や脚本家を経て1996年に監督デビュー。カンヌ国際映画祭コンペティション部門に出品された『バッシング』、ロカルノ国際映画祭で最高賞の金豹賞を受賞した『愛の予感』などでメガホンをとり、海外で高く評価された。

●**新川二郎** 演歌歌手。8月21日、死去。82歳。1962年『君を慕いて』でデビュー。64年『東京の灯よいつまでも』がミリオンセラーとなり、同年のNHK紅白歌合戦にも初出場。今年デビュー60周年を迎えていた。

●**久野綾希子** 俳優。8月22日、乳がんのため死去。71歳。1972年に劇団四季に入団。『ジーザス・クライスト＝スーパースター』マグダラのマリヤ、『エビータ』エビータ、『ウエストサイド物語』マリア、『キャッツ』グリザベラなど、ヒットミュージカルの主要キャストとして出演、劇団の看板俳優として活躍した。退団後も、舞台や映画、ナレーターや声優など多岐にわたり活躍。コンサートなど音楽活動も精力的に行っていた。

●**古谷一行** 俳優。8月23日、死去。78歳。大学在学中に俳優座養成所に入り、俳優座で初舞台。日生劇場『アンナ・カレーニナ』などにも出演する一方、1974年のドラマ『華やかな荒野』で主役を抜擢され一躍注目を浴びる。「横溝正史シリーズ」の金田一耕助役が当たり役になったほか、『金曜日の妻たちへ』『失楽園』などヒットドラマに多数出演した。

●**稲盛和夫** 京セラ創業者。8月24日、老衰のため死去。90歳。大学卒業後に京都の碍子メーカーに入社。その後独立し、1959年に京都セラミック(現・京セラ)を設立した。また85年には第二電電(DDI)を設立し、現在のKDDIへの統合も進めた。84年紫綬褒章。

●**小林七郎** アニメ美術監督。8月25日、うっ血性心不全のため死去。89歳。東映動画(現・東映アニメーション)に入社し、後に独立。アニメ美術監督の第一人者で、映画『ルパン三世カリオストロの城』、テレビアニメ『ど根性ガエル』『ガンバの冒険』などを手がけた。

●**鈴木敏男** 元朝日新聞社専務。8月26日、老衰のため死去。97歳。

●**三遊亭金翁** 落語家。8月27日、慢性心不全のため死去。93歳。1941年に三遊亭金馬入門。45年に二つ目に昇進し小金馬を名のり、58年に真打ち昇進。67年に四代目三遊亭金馬を襲名した。『文七元結』『藪入り』などの古典のほか新作にも取り組み、落語会屈指の持ちネタを誇ったほか、テレビ「お笑い三人組」に龍斎貞鳳、江戸屋猫八と出演し、国民的人気を集めた。また国立演芸場の開設にも尽力した。

●**ロバート・ルポーン** 米・俳優。8月27日、膵臓がんのため死去。78歳。1960年代から俳優として活動を始め、舞台やドラマで活躍。人気ドラマシリーズ「ザ・ソプラノズ 哀愁のマフィア」「セックス・アンド・ザ・シティ」などに出演した。

●**森川時久** 映画監督。8月28日、消化管出血



のため死去。93歳。フジテレビでディレクターとして連続ドラマ『若者たち』などを担当。同作の劇場版『若者たち』で映画監督デビュー。1976年フリーに。代表作に『次郎物語』など。

●**植田泰治** 映画プロデューサー。8月29日、心不全のため死去。86歳。1960年に東映に入社。『はいからさんが通る』『スケバン刑事』『白い手』などの映画で企画やプロデューサーを務めた。

●**竹内日出男** 脚本家。8月30日、心不全のため死去。88歳。NHK勤務を経てフリーの脚本家に。ラジオを中心に多数の脚本を手がけた。主な作品にドラマ「中学生日記シリーズ」、ラジオドラマ「モグラたちの夢ゲリラ」など。

●**三條町子** 歌手。8月30日、老衰のため死去。97歳。1948年『泪のブルース』でデビュー。『かりそめの恋』『私は銀座リル』などのヒット曲で知られた。

●**ミハイル・ゴルバチョフ** 元ソ連大統領。8月30日、病気のため死去。91歳。1985年に旧ソ連共産党のトップ・党書記長に就任。アメリカとの核軍縮を進め、1989年12月に当時の米・ブッシュ大統領とともに東西冷戦の終結を宣言した。90年には共産党の一党独裁を廃止し、初代のソ連大統領に就任。しかし91年12月、ソ連を構成する共和国が参加した独立国家共同体(CIS)の発足が表明され、大統領を辞任。69年続いたソ連の歴史に幕が下ろされた。

●**倉田喜弘** 芸能史家。8月31日、肺がんのため死去。91歳。江戸時代の流行歌「端唄」を編纂した「江戸端唄集」や「日本近代思想大系」『芸能』など著書等多数。

## 【9月】

●**高田一郎** 舞台美術家。9月1日、肺炎のため死去。93歳。抽象的な舞台美術作品を数多く手がけ、長年第一線で活躍。代表作に『マリアの首』(演出：田中千禾夫)『三文オペラ』(演出：千田是也)など。武蔵野美術大学教授、日本舞台美術家協会理事長などを歴任。

●**結城良照** 映画プロデューサー。9月1日、前立腺がんのため死去。83歳。1961年に日活に入社し、ロマンポルノの名作を多く手がけた。その他『十階のモスキート』『敦煌』なども手がけた。

●**諸角憲一** 俳優、声優。9月1日、虚血性心不全のため死去。67歳。1975年に円・演劇研究所に入所し、79年演劇集団円の会員に昇格。舞

台『夢の女』『ロミオとジュリエット』、ドラマ『いのちの現場からⅢ』などに出演。声優として「ハリ・ポッター」シリーズ、「アルマゲドン」ブルース・ウィリスの吹替などを担当した。

●**おおたか清流** 歌手。9月5日、病気のため死去。69歳。1990年にCMで喜納昌吉『花』をカバーして話題に。映画『シコふんじやった』の挿入歌『悲しくてやりきれない』で人気を集めた。また『スーパー歌舞伎Ⅱ ワンピース』でボイスを担当したほか、NHK「ほんごであそぼ」に出演するなど歌以外でも活躍した。

●**神坂次郎** 作家。9月6日、老衰のため死去。95歳。1984年『元禄御畳奉行の日記』がベストセラーに。特攻隊員らの記録をつづる『今日われ生きてあり』シリーズのほか、評伝『縛られた巨人 南方熊楠の生涯』は熊楠ブームの火付け役にもなった。

●**ジュスト・ジャカン** 仏・映画監督。9月6日、病気のため死去。82歳。ファッション写真家として活動していた際、ベストセラー小説だった『エマニエル夫人』を映画化し、世界的に大ヒットした。主演女優のシルビア・クリステルを『チャタレイ夫人の恋人』でも起用し話題を集めた。

●**渡部又兵衛** 社会風刺コント集団「ザ・ニュースペーパー」リーダー。9月7日、死去。72歳。大学で演劇を学び劇団民藝に入団。1988年に「ザ・ニュースペーパー」を立ち上げ、ニュースをネタにしたコントを得意とした。

●**マーシャ・ハント** 米・元俳優。9月7日、老衰のため死去。104歳。ニューヨークで演劇学校に通い、1935年に映画デビューし『高慢と偏見』などに出演。1944年、映画関係者が選ぶ「明日のスター」にもランクインした。

●**鈴木志郎康** 詩人、映像作家。9月8日、腎盂腎炎のため死去。87歳。NHKカメラマンとして勤務する一方、天沢退二郎と同人誌『凶区』を創刊。詩集『罐製同棲又は陥穽への逃走』『声の生地』などを発表。映像作家としても『日没の印象』『15日間』などを発表し、日本の日記映像の草分け的な存在として活躍した。

●**エリザベス2世女王** 英・国王。9月8日、死去。96歳。1926年に国王ジョージ5世の次男ヨーク公(後のジョージ6世)の第1子として生まれる。出生時は王位継承順位3位だったが、伯父エドワード(後のエドワード8世)が1936年退位したことから継承順位1位となった。1952年、父・ジョージ6世の急死を受けて25歳の若



さで即位。歴代最長の70年にわたり英国君主の座にあり、「国民に開かれた王室」を目指して敬愛を集めた。2012年ロンドン・オリンピックの開会式では『007』シリーズのジェームス・ボンドと共演。格式を重んじながらも革新を生み出してきたイギリスらしいコラボレーションだと世界中で高く評価された。

●**照喜名朝一** 琉球古典音楽家。9月10日、老衰のため死去。90歳。1957年に琉球古典音楽安富祖流の宮里春行に弟子入りし演奏活動を開始。1986年、国指定重要無形文化財「組踊」（総合認定）保持者に認定。2000年には鳥袋正と共に沖繩の芸能部門で初の重要無形文化財「琉球古典音楽」（各個認定）保持者〔人間国宝〕に認定された。

●**アラン・タネール** スイス・映画監督。9月11日、死去。92歳。1969年の長編映画第1作『どうなってもシャルル』でロカルノ映画祭の最高賞を受賞。1981年『光年のかたな』でカンヌ国際映画祭審査員特別賞を受賞。70年代を中心にとしたスイス映画のニューウェーブを先導した。

●**宮沢章夫** 劇作家、演出家、作家。9月12日、うっ血性心不全のため死去。65歳。1985年に竹中直人らと作ったユニット「ラジカル・ガジベリピンバ・システム」で作・演出を担当。90年に演劇ユニット「遊園地再生事業団」を結成し、93年『ヒネミ』で岸田國士戯曲賞を受賞。日常会話のズレを巧みに描く群像劇を発表した。また2000年に小説『サーチエンジン・システムクラッシュ』が芥川賞と三島由紀夫賞の候補になり、2010年『時間のかかる読書』で伊藤整文学賞を受賞するなど、作家としても高い評価を得た。

●**水野龍司** 俳優、声優。9月12日、肺炎による全身敗血症のため死去。70歳。劇団昴に所属し舞台に出演したほか、映画吹替やアニメの声優としても活躍した。

●**ジャン＝リュック・ゴダール** 仏・映画監督。9月13日、死去。91歳。短編映画から撮り始め、長編デビュー作としてジャン＝ポール・ベルモンドさんを主演に『勝手にしやがれ』を公開。即興演出や街頭ロケ、独創的な映画編集など新たな手法で映画界に革命を巻き起こし『女は女である』『気狂いピエロ』などヌーベルバーグの代表作を次々と生み出した。83年『カルメンという名の女』でベネチア国際映画祭で最高賞の金獅子賞を獲得した。

●**イレーネ・パパス** ギリシャ・俳優。9月14

日、死去。93歳。映画『ナパロンの要塞』『その男ゾルバ』で国際的名声を得たほか、映画や舞台でリチャード・バートン、カーク・ダグラスら名優たちと共演した。

●**三遊亭円窓** 落語家。9月15日、心不全のため死去。81歳。1959年に八代目春風亭柳枝に入門、同年六代目三遊亭円生門下へ、69年真打ちに昇進。六代目円窓を襲名した。古典のほか文学や戯曲を題材にした創作落語も手がけた。

●**松本千代栄** お茶の水女子大学名誉教授、舞踊学。9月15日、老衰のため死去。102歳。著書に『舞踊教育史・比較舞踊学領域』『舞踊運動学領域』など。

●**石井いさみ** 漫画家。9月17日、急性心不全のため死去。80歳。高校在学中に漫画誌「少年クラブ」でデビュー。1975年から85年まで「週刊少年チャンピオン」で連載した『750ライダー』が人気に。その他の代表作に『くたばれ!! 涙くん』『高校悪名伝』など。

●**澤田幸弘** 映画監督。9月21日、老衰のため死去。89歳。1956年、日活に入社。『反逆のメロディー』『あばよダチ公』『俺達に墓はない』などのアクション映画を監督した。また「太陽にほえろ!」「大都会」シリーズなどテレビドラマの演出、91年にはファミリー映画『仔鹿物語』も手がけた。

●**中村健之介** ロシア文学研究者、北海道大学名誉教授。9月22日、肺炎のため死去。83歳。監修した『宣教師ニコライの全日記』で日本翻訳出版賞を受賞。著書に『ドストエフスキー・作家の誕生』『ドストエフスキー人物事典』など。

●**木島三代子** 新宿ゴールデン街・居酒屋「呑家」ママ。9月24日、子宮がんのため死去。81歳。1973年に新宿ゴールデン街に「呑家」を開き、“街一番の毒舌”を自称する率直な語りで客たちに親しまれた。原田芳雄や太地喜和子らとの交流でも知られ、新宿を拠点に演劇やコンサートなどを企画した。

●**江原真二郎** 俳優。9月27日、進行性核上性まひのため死去。85歳。1957年の映画『米』『純愛物語』などに出演。時代劇やドラマなどで幅広い役をこなし、舞台『晚菊』で96年度菊田一夫演劇賞を受賞した。

●**前田忠明** 芸能リポーター。9月28日、くも膜下出血のため死去。81歳。1970年に週刊誌「女性自身」の記者となり主に芸能記事を担当。80年にフジテレビと専属契約を結び芸能リ

ポーターに転身、「前忠(まえちゆう)」の愛称で親しまれた。

●**山脇百合子** 画家。9月29日、シェーグレン症候群による老弱のため死去。80歳。大学生のころから絵本の挿絵を手がけ、児童文学作家で実姉・中川孝枝子とのコンビで数多くの作品を発表。1963年に発表した「ぐりとぐら」シリーズは累計2150万部のロングセラーに。他の代表作に『いやいやえん』『そらいろのたね』など。

●**三遊亭円楽** 落語家。9月30日、肺がんのため死去。72歳。大学在学中から五代目三遊亭円楽の付き人になり1970年に入門。三遊亭楽太郎を名乗り、76年二つ目、81年真打ち昇進。2010年に六代目円楽を襲名した。77年、27歳で「笑点」の大喜利レギュラーメンバーに。故・桂歌丸との軽妙なやり取りで“毒舌キャラ”として親しまれた。古典落語では『藪入り』『芝浜』などを得意とする一方、「博多・天神落語まつり」をプロデュースするなど落語会の振興にも力を注いだ。

●**仙石紀子** 演劇プロデューサー。9月30日、死去。83歳。1963年、劇団四季の浅利慶太と出会い、日生劇場のこけら落としをはじめ、同劇団の実験的な作品や海外からの招聘に携わる。その後米国へ留学。71年から劇団四季のニューヨーク事務所長を務めた後、80年にインター・アーツNY社を設立。蜷川幸雄『王女メディア』『Ninagawa マクベス』、野田秀樹『彗星の使者』、セントラルパークでの梅若六郎による薪金など、数々の日本の舞台をプロデュースした。また、ラ・ママ実験劇場の財政危機時にNPO法人を立ち上げ支援した。

●**朝田淳一** 舞台美術家。9月、死去。86歳。代表作に、石井ふく子演出『宮本武蔵』『花は紅・染千代一座』『夕やけ小やけでまだ日は暮れぬ』、新芸座『こんにちは、母さん』『マンザナ、わが町』など。

## 【10月】

●**花井幸子** デザイナー。10月1日、老衰のため死去。84歳。「セツ・モードセミナー」で学び、1964年にデザイナーとして独立。68年に東京・銀座に「マダム花井」をオープン、ブランド「YUKIKO HANAI」を立ち上げた。全日空をはじめ、銀行や百貨店、学校などの制服のデザインを多くてがけたほか、アニメ映画『宇宙戦艦ヤマト』衣裳デザイン、ドイツ国立ハンブルグ

バレエ団公演の衣裳なども手がけた。

●**アントニオ猪木** プロレスラー、元参院議員。10月1日、心不全のため死去。79歳。1960年に17歳で力道山にスカウトされプロレス界入り。ジャイアント馬場、ザ・デストロイヤーらとともにプロレス・ブームを巻き起こした。72年に新日本プロレスを設立。76年にはボクシングの世界ヘビー級王者モハメド・アリと異種格闘技戦を行うなど、常に革新を貫いた。「1、2、3、ダァーッ!」「元気ですかー!」の掛け声や「闘魂ビンタ」などのパフォーマンスで、国内外で幅広く親しまれた。晩年は難病「全身性アミロイドーシス」を患い闘病生活を送っていた。

●**海野洋司** 脚本家。10月2日、誤嚥性肺炎のため死去。89歳。NHKの音楽番組『世界の音楽』の構成、脚本を担当。「小さな木の実」など歌の作詞も手がけた。

●**津原泰水** 作家。10月2日、病気のため死去。58歳。1989年「津原やすみ」名義で少女小説家として活動、97年「津原泰水」として『妖都』を発表。SFから幻想小説、青春小説まで作風は多岐に渡り、2006年に吹奏楽部での経験を元にした『ブラバン』がベストセラーに。短編集『11 eleven』で第2回Twitter文学賞国内部門第1位を獲得した。その他『ヒッキーヒッキーシェイク』『蘆屋家の崩壊』『バレエ・メカニック』など。

●**かざま鋭二** 漫画家。10月2日、膵臓がんのため死去。75歳。1991年にゴルフ漫画『風の大地』の連載を始め、単行本は84巻、シリーズ累計発行部数1878万部に達する人気作品となった。

●**川井康弘** 俳優。10月3日、急性腸炎から敗血症性ショックのため死去。55歳。桐朋学園短期大学演劇専攻卒業後、1989年に劇団俳優座に入団。ストレートプレイに限らず、ミュージカルなど硬軟幅広い演技力で劇団公演や外部公演で活躍した。

●**近石真介** 声優。10月5日、老衰のため死去。91歳。1950年代に俳優として舞台デビューした後に声優としても活動。アニメ『サザエさん』ではフグ田マスオ役の初代の声優として10年間務めた。またNHK連続人形劇『新八犬伝』でも声優を務めたほか、映画『猿の惑星』コーネリアス役など吹替も多く担当、テレビ番組のナレーションでも人気を集めた。

●**桑原秀郎** テレビプロデューサー。10月5日、肺結核のため死去。87歳。1959年に東映に

入社。ドラマの企画やプロデュースを手がけた。主な作品に『非情のライセンス』『人間の証明』はぐれ刑事純情派』など。

●**倉内均** テレビプロデューサー、映画監督。10月7日、脳内出血のため死去。73歳。テレビマンユニオンを経て1988年に番組制作会社アマゾン設立。映画監督としても『佐賀のがばいばあちゃん』『日本のいちばん長い夏』などを手がけた。12～18年には全日本テレビ番組製作者連盟(ATP)の理事長を務めた。

●**松原千明** 俳優。10月8日、死去。64歳。化粧品ブランドのキャンペーンガールから芸能活動を始め、80年代からNHK連続テレビ小説『都の風』などのドラマや映画に数多く出演。バラエティー番組でも活躍した。

●**和田肇** 出版社「作品社」前社長。10月8日、肺がんのため死去。81歳。近現代の随筆をテーマ別に集めた「日本の名随筆」シリーズを企画・出版。99年に毎日出版文化賞を受賞した。

●**山本豊三** 俳優。10月11日、くも膜下出血のため死去。82歳。小学生時代の1951年に映画『海賊船』でデビュー。松竹に入り『野を駆ける少女』『明日をつくる少女』『恋人』などの青春映画に桑野みゆきとのコンビで主演し人気を博した。小林一也、三上真一郎と共に、松竹の「三代目三羽鳥」と呼ばれた。

●**アンジェラ・ランズベリー** 英・俳優。10月11日、死去。96歳。1944年の映画『ガス燈』でアカデミー賞助演女優賞にノミネート、45年『ドリアン・グレイの肖像』などでゴールデングローブ賞を6度受賞した。60年代には舞台を中心に活躍。『メイム』『ジブシー』『スウィーニー・トッド』などでトニー賞ミュージカル主演女優賞、『陽気な幽霊』では演劇助演女優賞、2022年第75回トニー賞では功労賞を受賞した。70年代からは映像の世界での活動も再開。84年から始まった米ドラマ『ジェシカおばさんの事件簿』では主人公の作家ジェシカ・フレッチャーを演じ世界的に有名に。91年のディズニーマニア映画『美女と野獣』ではポット夫人を演じた。2014年大英帝国勳章デイム・コマンダー授与。

●**ロビー・コルトレーン** 英・俳優。10月14日、死去。72歳。芸術学校を経てコメディ俳優などとして活躍。映画「007」シリーズの『ゴールドアイ』『ワールド・イズ・ノット・イナフ』などに出演、2001年『ハリーポッターと賢者の石』から森の番人・ハグリット役で出演し世

界的な人気を集めた。

●**柴英三郎** 脚本家。10月17日、老衰のため死去。95歳。1957年の映画『大菩薩峠』の脚本でデビュー。その後、『三匹の侍』『傷だらけの天使』など数多くのテレビドラマを手がけた。79年『戦後最大の誘拐・吉屋ちゃん事件』は芸術祭優秀賞などを受賞し、話題作となった。

●**桃山邑** 劇作家。10月18日、死去。建築職人、テント劇団「曲馬館」などを経て1987年「水族館劇場」を創設。公演の劇作・美術を手がけた。編著に『水族館劇場のほうへ』。

●**仲本工事** タレント、俳優。10月19日、急性硬膜下血腫のため死去。81歳。学習院大学卒業後、1965年に「ザ・ドリフターズ」に加入。69年から85年まで放送された『8時だヨ！全員集合』では体操コーナーなどで人気を集めた。俳優としては90年『水戸黄門 第19部』左甚五郎役、ドラマ『総理と呼ばないで』『世にも奇妙な物語』『テセウスの船』などに出演したほか、『二十四の瞳』『おんなの花時計』『妻の詫び状 星野哲郎物語』などの舞台でも活躍。2022年11月に東京芸術劇場シアターウエストで上演予定の舞台『日本昔ばなし 貧乏神と福の神』に出演予定だった。

●**永田竹丸** 漫画家。10月19日、老衰のため死去。88歳。「トキワ荘」を拠点とした若手漫画家グループの一員。代表作は『ピックルくん』。山根青鬼、山根赤鬼とともに田河水泡『のらくろ』の漫画執筆権を譲り受けた正統継承者の一人。

●**長谷川勘兵衛** 演劇大道具・舞台美術家。10月21日、死去。97歳。歌舞伎大道具師の名家・十六代長谷川勘兵衛の次男として生まれ、大学在学中より父に従事し、歌舞伎大道具の仕事に携わる。1965年に十七代長谷川勘兵衛を襲名。歌舞伎を始めとする伝統芸能の発展に大きく寄与した。92年紫綬褒章、97年勲四等旭日小綬章。

●**レスリー・ジョーダン** 米俳優。10月24日、事故で死去。67歳。大学で演劇を学んだ後、『ふたりは友達？ ウィル&グレイス』など数多くの作品で活躍。2006年にエミー賞を受賞した。

●**土井共成** 元読売テレビ社長。10月26日、老衰のため死去。92歳。1955年、読売新聞社に入社。同社専務を経て94年、読売テレビ副社長に。96年に社長に就任、その後会長、最高顧問などを歴任した。

●**まっちゃん(本名：増田逸男)** 新宿二丁目「九州男」オーナー。10月26日、がんのため死去。75歳。1977年「九州男」をオープン。フレディ・マーキュリーを始め、国内外問わず多くの芸能人とも親交があったことで知られる、新宿二丁目のレジェンドだった。

●**金宇満司** 撮影監督。10月27日、死去。89歳。岩波映画や石原プロモーションに所属しながら、劇映画やドラマの撮影監督を務めた。主な作品に映画『黒部の太陽』、ドラマ『大都会』『西部警察』など。

●**酒井くにお** 漫才師。10月28日、慢性虚血性心疾患のため死去。75歳。1970年に兄弟漫才コンビ「酒井くにお・とおる」を結成、74年に松竹芸能に所属。「とおるちゃん!」のギャクなどで人気を博し、97年上方漫才大賞、2021年第56回大阪市市民表彰文化功労部門などを受賞した。

●**清水良英** 俳優。10月30日、死去。79歳。俳優座養成所14期生を経て1965年に劇団俳優座に入団。朗読『戦争とは…』、『七人の墓友』『風薫る日に』など多くの舞台に出演したほか、ドラマや吹替でも活躍した。

●**聖悠紀** 漫画家。10月30日、肺炎のため死去。72歳。1967年に代表作『超人ロック』を同人誌に発表。79年に同シリーズ「炎の虎」が少年キングで連載が始まり84年には映画化された。

●**綿貫凜** 演劇プロデューサー。10月31日、呼吸不全のため死去。58歳。制作会社オフィスコトーネを主宰。劇作家・大竹野正典や海外作家の作品などを多く手がけ、企画制作した『夜、ナク、鳥』が第26回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞した。

## 【11月】

●**普久原恒勇** 作曲家。11月1日、大動脈弁狭窄症のため死去。89歳。1965年に代表作『芭蕉布』を発表。沖縄の伝統的な旋律に西洋音楽の形式を取り入れた楽曲は「普久原メロディー」として親しまれた。

●**松居直** 元福音館書店社長。11月2日、老衰のため死去。96歳。大学卒業後、福音館書店の創立に携わり、1956年に月刊絵本『こどものとも』を創刊。その後、「ぐりとぐら」「だるまちゃん」シリーズや「おおきなかぶ」などの名作を世に送り出したほか、安野光雅、長新太(ちょう・した)、加古里子(かこ・さとし)らを発掘し

た。

●**山本進** 芸能史研究家。11月4日、老衰で死去。91歳。落語に造詣が深く、NHK勤務のかたわら、六代目三遊亭円生や八代目林家正蔵をはじめ落語家の口演や聞き書きの本を多く手がけた。主な著書・編著に『えびたふ 六代目圓生』『図説 落語の歴史』『落語ハンドブック』など。

●**松本一起** 作詞家。11月4日、死去。73歳。1982年、早見優のデビュー曲『急いで!初恋』の作詞を担当し、作詞家として活動をスタート。代表曲に鈴木雅之『ガラス越しに消えた夏』、中森明美『ジプシー・クイン』、class『夏の日の1993』など。一方でラジオのパーソナリティやエッセイストとしても活躍した。

●**レスリー・フィリップス** 英・俳優。11月7日、死去。98歳。1930年代に映画界にデビューして以来、『ヴィーナス』『最高の人生をあなたと』など200本以上の映画やテレビ、ラジオで活躍。映画『ハリーポッター』シリーズの「組分け帽子」の声優として知られた。

●**マイケル・バトラー** 米・製作者。11月7日、死去。95歳。ミュージカル『ヘアー』を製作、1969年のトニー賞で最優秀ミュージカル賞を受賞したほか、6つの演劇賞を受賞。長年に渡り、同作を30作以上リバイバル製作しており、2021年にハリウッドでのリバイバル公演が予定されていた。

●**村田兆治** 元プロ野球選手。11月11日、死去。72歳。1968年にドラフト1位で東京オリオンズ(現・千葉ロッテマリーンズ)に入団。「マサカリ投法」で知られ、日曜日に登板して勝利を重ねたことから「サンデー兆治」の異名を取った。通算215勝を挙げ90年に引退。引退後は野球解説者やコーチとして活動し、2005年に野球殿堂入りした。

●**大森一樹** 映画監督。11月12日、急性骨髄性白血病のため死去。70歳。1978年『オレンジロード急行』で商業映画監督デビュー。その後『ヒポクラテスたち』『すかんぴんウォーク』『風の歌を聴け』『ゴジラVSビオランテ』など幅広いジャンルの作品を手がけた。86年『恋する女たち』で日本アカデミー賞優秀脚本賞・優秀監督賞、96年『わが心の銀河鉄道 宮沢賢治物語』で日本アカデミー賞優秀監督賞を受賞した。

●**芳賀日出男** 民俗写真家。11月12日、老衰のため死去。101歳。約80年に渡り国内外の祭礼や民間習俗を取り続けた。著書に『折口信夫と古代を旅ゆく』『日本の民俗』など。



●**林家市楼** 落語家。11月14日、心臓疾患のため死去。42歳。林家染語楼の三代目を祖父、四代目を父が名乗った落語一家で、2001年に父・四代目入門。古典のほか、祖父と父が得意とした新作落語も手がけた。死去を受け、五代目林家染語楼が追贈された。

●**梁田清之** 声優。11月14日、病気のため死去。57歳。テレビアニメ『SLAM DUNK』赤木剛憲役などを多数のアニメで声優を務めたほか、洋画の吹替や特撮番組の声も務めた。

●**三遊亭左遊** 落語家。11月15日、心不全のため死去。69歳。1969年三遊亭遊三入門、73年二ツ目昇進で三遊亭松遊三に改名、84年真打昇進と共に三遊亭左遊に改名。珍しい演目を演じたほか、晩年は古典落語を軽快に時に重厚に巧みに演じ分けた。

●**高木浩志** 文楽研究家。11月17日、急性心不全のため死去。人形浄瑠璃文楽の演者への取材などを通じて魅力を考察、普及にも尽力した。著書に『文楽に親しむ』、共著に『織太夫夜話 文楽へのいざない』など。NHKでプロデューサーも務めた。

●**ドウス昌代** ノンフィクション作家。11月18日、パーキンソン病による合併症のため死去。84歳。第2次世界大戦中、米軍向けに流したラジオ放送に携わった日系2世の女性の半生を取材した『東京ローズ』でデビュー。多くの演劇作品の原作にもなった。そのほかの代表作に『日本の陰謀』『イサム・ノグチ』など。

●**森山司** 俳優。11月20日、死去。82歳。1962年に東宝芸能学校を卒業し、劇団世代に所属。71歳に青年劇場に入団。『博士の愛した数式』など多くの劇団公演に出演したほか、映画『砂の器』『八つ墓村』やテレビドラマでも活躍した。

●**山田奈々子** 舞踊家。11月22日、骨髄異形成症候群のため死去。89歳。モダンダンス界で活躍し、主な作品に『炎立 女優松井須磨子』など。

●**中野弘隆** 画家、絵本作家。11月22日、老衰のため死去。79歳。代表作『ぞうさんのさんぽ』シリーズは累計部数200万部を超えた。

●**山崎敏広** 大相撲元立行司・第36代木村庄之助。11月23日、肺がんのため死去。74歳。1964年夏場所で井筒部屋から初土俵。2011年九州場所で行司の最高位・木村庄之助を襲名し、13年夏場所の定年までの49年間、一度も休場はなかった。達筆で知られ、番付表の書き手も長く務めた。

●**佐川一政** 作家。11月24日、肺炎のため死去。73歳。1981年に留学先のパリで出会った女性を殺害し、その肉を食べたとしてセンセーショナルに報じられた。精神鑑定の結果、心神喪失状態として不起訴処分となり日本に送還。その後、『霧の中』『新宿ガイジンハウス』などを執筆し作家として活動。唐十郎が事件を題材に書いた小説『佐川君からの手紙』は第88回芥川賞を受賞した。

●**樋口覚** 文芸評論家。11月24日、肺炎のため死去。74歳。1997年『三弦の誘惑—近代日本精神史覚え書—』で三島由紀夫賞を受賞。日本文学館専務理知も務めた。

●**アイリーン・キャラ** 米・歌手。11月25日までに死去。63歳。1980年のミュージカル映画『フェーム』に出演、主題歌『Fame』でアカデミー歌曲賞を受賞。83年『フラッシュダンス』の主題歌『FLASHDANCE… WHAT A FEELING』が世界的に大ヒットし、アカデミー歌曲賞やグラミー賞最優秀女性歌唱賞などを受賞した。

●**崔洋一** 映画監督。11月27日、膀胱がんのため死去。73歳。大島渚監督『愛のコリーダ』で助監督を務め、1983年『十階のモスキート』で劇場映画監督デビュー。1993年『月はどっちに出ている』では第67回キネマ旬報ベストテンの委員選出日本映画第1位、第48回毎日映画コンクールの日本映画大賞など数々の賞を受賞。2004年『血と骨』では第28回日本アカデミー賞最優秀監督賞、最優秀脚本賞を受賞した。その他の代表作に『友よ、静かに眠れ』『マークスの山』など。04年から22年まで日本映画監督協会理事長を務めた。

●**渡辺徹** 俳優。11月28日、敗血症のため死去。61歳。1980年に文学座附属演劇研究所に入所。ドラマ『太陽にほえろ!』新人刑事・ラガー役で出演し一躍人気を集めた。歌手として発表した82年『約束』はCMソングとして大ヒットした。85年に文学座の座員に。文学座公演に数多く出演する一方で、『夕鶴』『功名が辻』『ラブ・レターズ』『検察側の証人』『アリージャンス〜忠誠』『有頂天作家』など多くの舞台に出演した。テレビドラマに数多く出演したほか、明るいキャラクターからバラエティ番組でも人気を集めた。

●**寺林晃** エイベックス・エンタテインメントレーベル事業本部アドバイザー。11月28日、肺炎のため死去。77歳。1972年にウード音



楽事務所に入社後、79年にワーナー・パイオニアに転社。中森明菜、矢沢永吉、CHAGE & ASKA、少年隊、森高千里などのデビューに尽力。“中森明菜の育ての親”として知られていた。

●**江沢民** 中国元国家主席。11月30日、白血病と滝蔵不全により死去。96歳。1989年6月の天安門事件の後から13年間にわたり中国のトップに君臨。高度成長をけん引し、中国を経済大国へと導いた。一方で、日本と歴史問題で対立するきっかけも作ったほか、幹部の腐敗を深刻化させるなど社会のひずみも生み出した。

## 【12月】

●**岳宏一郎** 歴史小説家。12月1日、肺がんのため死去。84歳。テレビドラマや舞台の脚本家、雑誌ライターを経て作家活動に入る。1994年、関ヶ原の戦いを題材にした群像劇『群雲、関ヶ原へ』でデビュー。その他代表作に『蓮如夏の嵐』『天正十年夏ノ記』など。

●**ミレーヌ・ドモンジョ** 仏・俳優。12月1日、死去。87歳。1958年の映画『悲しみよこんにちは』、60年代「ファントマ」シリーズ、84年の日本映画『ヨーロッパ特急』など約70作もの映画などに出演。フランスにとどまらず日本でも人気を博した。

●**西村嘉郎** 元朝日放送(現:朝日放送テレビ)社長。12月2日、死去。85歳。1958年に朝日放送に入社。テレビ編成局長などを経て2002年から08年まで社長を務めた。プロデューサーとして『プロポーズ大作戦』を制作するなど視聴者参加型のバラエティーや演芸番組を数多く手がけた。

●**藤岡俊夫** 祥伝社元社長。12月2日、肺炎のため死去。91歳。光文社で勤務したのち、1970年に祥伝社の創業に携わり、93年から2002年まで社長を務めた。

●**坂本博士** 声楽家。12月3日、誤嚥性肺炎のため死去。90歳。東京芸術大学声楽家卒業後、1957年の藤原歌劇団公演『ラ・ボエーム』でデビュー。63年からNHK『歌おう世界の友よ』で歌と司会を担当した。69年にサカモト・ミュージック・スクールを設立し校長に就任。ミュージカル・プレイ『鹿吠えば谷にこだまする』で第25回芸術祭優秀賞(大衆芸能)、坂本博士ミュージカル『らくだの天使 ベンキイ』で第30回芸術祭優秀賞(大衆芸能)を受賞。2015年文化庁長官表彰。

●**水木一郎** 歌手。12月6日、肺がんのため死去。74歳。1968年に歌手デビューし、71年のアニメ『原始少年リュウ』の主題歌を歌ったのを機にアニメ・ソングの歌手に転身。『バビル2世』『マジンガーZ』、『仮面ライダー』シリーズなどパワフルな歌唱で人気を集めた。持ち歌は1200曲を超えるといい、『アニキ』の愛称で幅広い世代に親しまれた。

●**岡田昌己** スペイン舞踊家。12月7日、肺がんのため死去。82歳。1960年代にスペインへ留学し現地のバレエ団などで活躍。帰国後は国内公演を数多く開催、日本フラメンコ協会副会長も務めた。

●**吉田喜重** 映画監督。12月8日、肺炎のため死去。89歳。東京大学仏文科卒業後、1955年に松竹大船撮影所に入社。木下恵介監督らに師事し、60年に映画『ろくでなし』で監督デビュー。『秋津温泉』『日本脱出』などを手がけ、先鋭的な作品で大島渚、篠田正浩らとともに『松竹ヌーベルバーグ』の旗手として活躍。86年『人間の約束』で芸術選奨文部大臣賞を受賞、2002年『鏡の女たち』がカンヌ国際映画祭特別招待作品に選ばれた。また90年にはフランス・オペラ座で『蝶々夫人』の演出をするなど文化交流に貢献したとして、2003年に仏・芸術文芸勲章オフィシエ章を受けた。

●**佐藤蛾次郎** 俳優。虚血性心不全のため死去し、12月10日に見つかった。78歳。大阪の児童劇団などを経て映画やドラマ、舞台の名脇役として活躍。『男はつらいよ』シリーズでは、渥美清演じる寅さんの弟分・源公役で人気を博した。

●**藤山陽子** 元女優。12月11日、くも膜下出血のため死去。80歳。1961年「オール東宝ニュータレント」1期生として東宝に入社。若大将シリーズやクレイジーキャッツ映画、森繁久彌の社長シリーズなど、数多くの作品に出演。ドラマ『青春とはなんだ』の教師役で人気を博した。

●**桜多吾作** 漫画家。12月12日、死去。74歳。石ノ森章太郎のアシスタントを経て、1969年『ボーイフレンドやーい!』でデビュー。永井豪原作版とは異なる桜多吾作版『マジンガーZ』が伝説的な作品として高い評価を得たほか、『釣りバカ大将』で人気を博した。

●**笠浩二** C-C-Bドラム・ボーカル担当。12月14日、脳梗塞のため死去。60歳。1983年にメジャーデビュー後、85年にバンド名を「C-C-B」に改め、『Romanticが止まらない』が大ヒット

した。

●**御厨さと美** 漫画家。12月14日、死去。74歳。1970年に『黒いつるぎ』でデビュー。代表作に『ノーラの箱舟』『ケンタウロスの伝説』『裂けた旅券』『イカロスの娘』など。

●**常磐津英寿** 常磐津節三味線演奏家。12月15日、急性心不全のため死去。95歳。1960年に四世常磐津文字兵衛を襲名、96年に英寿と改名。常磐津節三味線の保存と伝承に尽力し、現代邦楽など幅広いジャンルで400曲以上を作曲した。92年人間国宝、94年日本芸術院会員、97年勲三等瑞宝章、2014年文化功労者に選ばれた。

●**あき竹城** 俳優、タレント。12月15日、死去。75歳。1983年の映画『榎山節考』への出演で注目され、映画「男はつらいよ」シリーズやNHK連続テレビ小説『どんと晴れ』、大河ドラマ『天地人』など多くの作品に出演。硬軟を演じ分け、味のある名脇役として存在感を發揮。また山形弁の飾らない語り口で「秘密のケンミンSHOW」などのバラエティーでも人気を博した。

●**大原薫** 演劇ライター。12月15日、死去。演劇ライターとして宝塚歌劇団やミュージカルの話題を中心に雑誌やウェブ、公演パンフレットなどに執筆した。

●**仲田育史** 俳優。12月18日、くも膜下出血のため死去。47歳。映画『フラガール』『さくらん』『勝手にふるえてろ』のほか、NHK大河『徳川慶喜』などのドラマやCMに数多く出演。劇団「男魂(メンソウル)」に所属。その本番中に舞台上で倒れ帰らぬ人となった。

●**大野松雄** 音響デザイナー。12月19日、肺化膿症のため死去。92歳。NHK東京放送効果団などを経て独立。1963年放送開始の『鉄腕アトム』で音響効果を担当、アトムの足音や飛ぶ音などを制作した。音響デザイナーの先駆けとして数多くの映像作品に携わった。

●**高見知佳** 歌手、俳優、タレント。12月21日、がん性腹膜炎のため死去。60歳。1978年にアイドル歌手としてデビュー。84年の資生堂CMソング「くちびるヌード」がヒットした。82年の映画『蒲田行進曲』など多くの映画やドラマに出演。また天性の明るさと頭の回転の速さで司会者としても多くの番組に出演した。

●**布川都司** スタジオぴえろ創業者。12月25日、死去。75歳。複数のアニメ制作会社を経て、タツノコプロで「タイムボカン」シリーズの企画や、『いなかつぱ大将』『みなしごハッチ』

『科学忍者隊ガッチャマン』などの人気アニメの演出と制作に携わった。1979年に『ニルスのふしぎな旅』を制作するため、スタジオぴえろを設立し社長に就任。以降、『魔法の天使クリィミーマミ』などのヒット作を生み出した。

●**渡辺京二** 評論家、日本近代史家。12月25日、老衰のため死去。92歳。幕末から明治の来日外国人の手記を元に、失われた日本の近代文明を浮き彫りにした『逝きし世の面影』がロングセラーになった。その他『黒船前夜』『パレレンの世紀』など。

●**篠田浩一郎** 仏文学者。12月25日、老衰のため死去。94歳。構造主義や記号学を研究し、日本文学についても考察。主な著書に『ロラン・バルト 世界の解説』『空間のコスモロジー』など。

●**絵沢萌子** 俳優。12月26日、老衰のため死去。87歳。京都・劇団ぐるみ座などを経て72年に日活ロマンポルノ『濡れた唇』に主演し注目を集め、映画『月ほどっちに出てる』、NHK大河ドラマ『風林火山』など、数多くの映画やドラマで活躍した。

●**磯崎新** 建築家。12月28日、老衰のため死去。91歳。東京大学大学院・博士課程を修了し、丹下健三に師事。1963年に磯崎新アトリエを設立。70年の大阪万博で丹下らと共に「お祭り広場」などを手がけた。主な作品に大分県立大分図書館、群馬県立近代美術館のほか、ロサンゼルス現代美術館、水戸芸術館、富山・国際舞台芸術研究所、京都コンサートホールなど。

●**松波喬介** 演出家。12月29日、病気のため死去。86歳。1969年に秋田雨雀・土方与志記念青年劇場に入団。俳優として活動を経て、『遺産らぶそでい』など多くの作品で演出家として活躍しながら、後進の育成にも尽力した。

●**ベレ(本名:エドソン・アランテス・ド・ナシメント)** 元サッカー・ブラジル代表。12月29日、死去。82歳。1958年ワールドカップで17歳でブラジル代表に選ばれ、4試合で6ゴールを記録、ブラジルの初優勝に貢献した。その後、ワールドカップに4回連続出場し、ブラジルを3度の優勝に導き、「サッカーの王様」「20世紀最高のサッカー選手」と呼ばれた。

●**ヴィヴィアン・ウエストウッド** 英・ファッションデザイナー。12月29日、死去。81歳。70年代に音楽界で流行したパンクをファッションに持ち込み「パンクの女王」と呼ばれた。

●**矢崎泰久** ジャーナリスト。12月30日、急性

白血病のため死去。89歳。1965年に「話の特集」を創刊し、95年の休刊まで編集長を務めた。同誌で寺山修司ら新たな書き手を発掘したほか、永六輔ら多彩な執筆陣が盛り立て、日本の雑誌文化に大きな足跡を残した。

●**ベネディクト16世(本名：ヨーゼフ・ラッツィンガー)** 前ローマ教皇、名誉教皇。12月31日、死去。95歳。2005年4月に78歳で第265代ローマ教皇に就任。Twitterなどの投稿で「開かれたバチカン」をアピールした。2013年に高齢による体力の低下を理由に辞任することを表明。教皇が死去する前に辞任したのは約600年ぶりとされ、世界を驚かせた。



# 公益社団法人日本演劇協会

## Japan Theatre Arts Association (JTAA)

当会は1920年(大正9年)に菊池寛・山本有三両氏を中心として組織された「劇作家協会」を母体とし、1951年(昭和26年)4月に設立されました。2013年(平成25年)4月には内閣府より公益社団法人の認可を受け、演劇(劇放送を含む)の向上発展を図り、芸術及び文化の高揚に寄与するとともに演劇関係者の社会的地位の確立を目的とし活動しています。

### ～沿革～

- 1920年(大正9年)  
菊池寛・山本有三両氏を中心に「劇作家協会」が組織される
- 1941年(昭和16年)  
久保田万太郎・高田保を中心に「(第一次)日本演劇協会」が設立される
- 1945年(昭和20年)  
第二次世界大戦終戦と同時に解散
- 1946年(昭和21年)  
新たに「劇作家組合」として組織される
- 1951年(昭和26年)4月  
「(第二次)日本演劇協会」と改称
- 1953年(昭和28年)12月  
「社団法人」の認定を受け、「一般社団法人日本演劇協会」となる
- 2013年(平成25年)4月  
内閣総理大臣より「公益社団法人」の認定を受け、現在に至る

### ～歴代会長～

- |            |                           |
|------------|---------------------------|
| 初代：久保田 万太郎 | 1951年(昭和26年)～1963年(昭和38年) |
| 二代：北條 秀司   | 1964年(昭和39年)～1993年(平成5年)  |
| 三代：河竹 登志夫  | 1993年(平成5年)～2007年(平成19年)  |
| 四代：植田 紳爾   | 2007年(平成19年)～             |



〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル17階  
info@jtaa.or.jp  
Tel : 03-3541-2025 / FAX : 03-3541-2026

